User's
Manual

DXA120
DAQSTANDARD ビューア
ユーザーズマニュアル

YOKOGAWA
横河電機株式会社

IM 04L41B01-63JA
8 版

会員登録のご案内

ご購入いただいた製品情報の確認や関連資料のダウンロード、メールニュースなどの様々なサービスをご利用いただけます。

会員サイト（Customer Portal）
https://myportal.yokogawa.com/

計測相談のご案内

当社では、お客様に正しい計測をしていただけるよう、レコーダ・データロガー製品に関する、仕様、機種のご選定、応用上の問題などのご相談を下記CSセンターで承っています。
価格、納期などの販売についての内容は、最寄りの営業・代理店へお問い合わせください。

●お問い合わせ：横河電機株式会社　カスタマサポートセンター

フリーダイヤル 0120-569116

daq_cs@csv.yokogawa.co.jp

フリーダイヤル受付時間　9：00～17：00 (12:00～13:00を除く)
月～金曜日(祝・祭日、弊社指定休日を除く)

はじめに

本マニュアルは、DAQSTANDARD のビューアソフトウエアの使用方法について説明したものです。ご使用前に本マニュアルをよくお読みいただき、正しくお使いください。

ご注意

- 本書の内容は、性能・機能の向上などにより、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、当社支社・支店・営業所までご連絡ください。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- 当社は、ソフトウエアの使用に関して直接または間接に生じるいっさいの損傷について責任を負いません。
- ソフトウェアをインストールする前に、PC のウィルスチェックをおこない、ウィルスに感染していないことをご確認ください。

QR コード

YOKOGAWA 製品は、機器保全・機器管理業務にお役立ていただくために、製品に QR コードを順次添付して出荷します。
QR コードによって、購入製品の機器仕様の確認や、取扱説明書の参照が可能です。
詳細については次の URL をご参照ください。
https://www.yokogawa.co.jp/qr-code

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

商標

- DAQSTATION、Daqstation、DXAdvanced、および MVAdvanced は、当社の登録商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社) の登録商標または商標です。
- Kerberos は Massachusetts Institute of Technology (MIT) の商標です。
- 本書に記載している製品名および会社名は、各社の登録商標または商標です。
- 本書では各社の登録商標または商標に、® および ™ マークを表示していません。

履歴

- 2010 年　3 月　初版発行
- 2010 年　6 月　2 版発行
- 2010 年　11 月　3 版発行
- 2014 年　1 月　4 版発行
- 2017 年　7 月　5 版発行
- 2019 年　5 月　6 版発行
- 2020 年　6 月　7 版発行
- 2022 年　11 月　8 版発行

8th Edition : November 2022 (YK)
All Rights Reserved, Copyright © 2010 Yokogawa Electric Corporation

ソフトウエア使用許諾契約書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは横河電機株式会社のソフトウエアをお求めいただきまして誠にありがとうございます。お客様が同ソフトウエアをインストールした場合には、下記の「ソフトウエア使用許諾契約書」に同意したものとみなします。横河ソフトウエアは当社の著作物であり、同ソフトウエアをインストールし、ご使用されるにあたっては、下記の「ソフトウエア使用許諾契約書」を必ずお読みのうえ、ご承諾いただくようお願いします。ご承諾いただけない場合には、インストールおよび使用は行わないでください。

ソフトウエア使用許諾契約書

お客様が本ソフトウエア使用許諾契約書 (以下、「本契約」といいます) に合意することを条件として、横河電機株式会社 (以下、「当社」といいます) は、第 1 条に記載するソフトウエア製品 (以下、「横河ソフトウエア」といいます) の使用権をお客様に許諾します。

第 1 条 (適用範囲)

本契約は、当社がお客様に提供する下記記載の横河ソフトウエア（使用に関連して提供される当社指定の資料を含む）に適用するものとします。なお、横河ソフトウェアの変更または追加がなされた場合、当該変更または追加ソフトウェアについても本契約が適用されるものとします。

対象製品：DAQSTANDARD（Model DXA120）

第 2 条 (使用権の許諾)

1. 当社は、お客様に対し、横河ソフトウェアについて、お客様の自己使用を目的とした、非独占的かつ譲渡不能の使用権 (以下「使用権」といいます) を無償で許諾します。
2. 横河ソフトウエアは、当社が自ら知的財産権等の権利を有し、または当社が第三者から使用許諾（再使用許諾を含む）を受けているものです (以下、当該第三者が有するソフトウエアプログラムを「第三者プログラム」といい、当社の関連会社が独自に製作・販売しているソフトウエアプログラムもこれに含みます)。お客様は、横河ソフトウエアを第三者に頒布、転貸、譲渡、質入、伝送もしくは再使用権を許諾しないものとします。
3. お客様は、必要なバックアップ用として複製する以外は、横河ソフトウエアの全部または一部を複製しないものとします。また当該複製物の保管および管理については厳重な注意を払うものとします。
4. お客様は、いかなる理由においても横河ソフトウエアをダンプ、逆アッセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングなどによるソースプログラムその他人間が読み取り可能な形式への変換もしくは複製または横河ソフトウエアの修正もしくは他の言語への翻訳など、提供された形式以外に改変しないものとします。また、当社は、別に同意しない限り、お客様にソースプログラムを提供しないものとします。
5. 横河ソフトウエアおよびそれらに含まれる一切の技術、アルゴリズムおよびプロセス、その他のノウハウは、当社または当社に対し再使用許諾を含む使用許諾権を付与している第三者の固有財産であり、お客様に権利の移転や譲渡を一切行うものではありません。
6. 当社は、横河ソフトウエアに保護の機構 (コピープロテクト) を使用または付加することがあります。当該コピープロテクトを除去し、または除去を試みることは認められないものとします。
7. 横河ソフトウエアには、第三者プログラムを含む場合があります。かかる第三者プログラムに関し、当社が当該第三者より本契約と異なる再使用許諾条件を受け入れている場合には、別途書面により通知される当該条件を遵守していただきます。

第 3 条 (特定用途に関する制限)

1. 横河ソフトウエアは、下記の各号を目的として、製作または頒布されるものではありません。
   (a) 航空機の運行もしくは船舶の航行またはこれらを地上でサポートする機器の立案、設計、開発、保守、運用および使用されること。
   (b) 原子力施設または放射線機器の立案、設計、開発、建設、保守、運用および使用されること。
   (c) 核兵器、化学兵器、生物兵器または鉄道施設の立案、設計、開発、保守、運用および使用されること。
   (d) 医療機器などの人身に直接関わるような状況下で使用されることを目的に立案、設計、開発、保守、運用および使用されること。
2. お客様が前項の目的で横河ソフトウエアを使用する場合には、当社は当該使用により発生するいかなる請求および損害に対しても一切責任を負わないものとし、お客様は、お客様の責任と費用においてこれを解決するものとし、当社を免責するものとします。

第 4 条 (保証)

1. 横河ソフトウエアは、当該製品完成時または出荷時の現状のままでお客様に提供されるものとし、お客様は、これに合意するものとします。提供形態が記録媒体の場合に限り、横河ソフトウエアの記録媒体に破損、損傷が発見された場合は、出荷後 12 ヶ月に限り無償で交換をいたします (お客様の費用で当社の指定するサービス拠点に当該ソフトウエア製品の記憶媒体を送付していただくものとします) が、いかなる場合であっても横河ソフトウエアに瑕疵および不具合のないこと、的確性、正確性、信頼性もしくは最新性などの品質上または性能上の明示または黙示の保証をするものではありません。また、横河ソフトウエアが他のソフトウエアとの間で不整合、相互干渉などの影響のないことを保証するものでもありません。
2. 前項の規定に関わらず、横河ソフトウエアに第三者プログラムが存在する場合の保証期間および保証条件については、かかるプログラムの供給者の定めるところによるものとします。
3. 当社は、自己の判断により必要と認めた場合、横河ソフトウエアに関するリリースアップ (以下、「リリースアップ」といいます) を実施することがあります。
4. 前項の定めにも拘らず、当社は、いかなる場合であってもお客様により改変または修正された横河ソフトウエアに関するリリースアップについては、第三者により改変・修正された場合を含め、一切対応しないものとします。

第 5 条 (特許権、著作権の侵害に関する損害賠償責任)

1. お客様は、横河ソフトウエアについて、第三者から特許権、商標権、著作権その他の権利に基づき使用の差し止め、損害賠償請求などが行われた場合は、書面にて速やかに請求の内容を当社に通知するものとします。
2. 前項の請求などが当社の責に帰すべき事由による場合は、その防御および和解交渉について、お客様から当社に防御、交渉に必要なすべての権限を与えていただき、かつ必要な情報および援助をいただくことを条件に、当社は自己の費用負担で当該請求などの防御および交渉を行い、前項記載の第三者に対して最終的に認められた責任を負うものとします。
3. 当社は第 1 項における請求またはその恐れがあると判断した場合は、当社の選択により、当社の費用で下記のいずれかの処置を取るものとします。
   (a) 正当な権利を有する者からかかる横河ソフトウエアの使用を継続する権利を取得する。
   (b) 第三者の権利の侵害を回避できるようなソフトウエア製品と交換する。
   (c) 第三者の権利を侵害しないようにかかる横河ソフトウエアを改造する。
4. 前各号のいずれの処置も取れない場合、当社は本契約を解除することができるものとしますが、本契約の解除の有無を問わず、当社は、本条に定める当社の責任を除いて、お客様に対していかなる契約上または不法行為上の法的責任も負わないものとします。

第 6 条 (責任の制限)

本契約に基づいて当社がお客様に提供した横河ソフトウエアによって、当社の責に帰すべき事由によりお客様が損害を被った場合、当社は、本契約の規定に従って対応するものとしますが、いかなる場合においても、お客様に対していかなる契約上または不法行為上の損害賠償に関する法的責任も一切負わないものとします。なお、当社が納入した横河ソフトウェアをお客様が当社の書面による事前の承諾なく改造、改変、他のソフトウエアとの結合を行い、またはその他当社の一般仕様書、基本仕様書、機能仕様書もしくはマニュアルとの相違を生ぜしめた場合も同様です。

第 7 条 (輸出規制)

お客様は、事前に当社の同意を得た場合を除き、横河ソフトウエアおよび関連資料を、直接、間接を問わず輸出または他国に伝送しないものとします。

第 8 条 (本契約の期間)

本契約は、お客様が横河ソフトウエアを受領した日から、契約解除されない限り、お客様または当社が相手方に対し、1 ヶ月前に書面による通知によって当該ソフトウエア製品の使用を終了させるまで、またはお客様の横河ソフトウエアの使用終了時まで、有効とします。本契約が終了し、または解除された場合には、お客様は、横河ソフトウエア、関連資料およびこれらの複製物・抽出物をすべて消去し、破棄・処分するものとします。但し、横河から別途指示があった場合には、それらを横河または横河の指定する第三者に返却するものとします。

第 9 条 (使用の差止め)

横河ソフトウエアの使用許諾後といえども、使用環境の変化または許諾時には見出せなかった不適切な環境条件が見られる場合、その他横河ソフトウエアを使用するに著しく不適切であると当社が判断した場合には、当社はお客様に対して当該使用を差止めることができるものとします。

第 10 条 (解除)

当社は、お客様が本契約に違反した場合には、何ら催告を要することなく通知をもって本契約を解除できます。ただし、本契約終了または解除後といえども第 5 条、第 6 条ならびに第 11 条は効力を有するものとします。

第 11 条 (管轄裁判所)

本契約に関して生じた紛争、疑義については、両者誠意を持って協議解決するものとします。ただし、一方当事者が他方当事者に協議解決をしたい旨の通知後 90 日以内に両当事者間で協議が整わない場合は東京地方裁判所 (本庁) を第一審の専属的管轄裁判所とします。

以上

このマニュアルの利用方法

このマニュアルの構成

本マニュアルは、以下に示す第 1 章〜第 3 章および索引で構成されています。

章	タイトル	内容
1	ご使用になる前に	DAQSTANDARD を使用するときに必要な PC 環境、インストールの方法などについて説明しています。
2	データビューアでデータを表示する	ハードディスクなどに格納した収集データをモニタするときや、収集データを Excel、ASCII などの形式に変換するときの操作について説明しています。また、データにサインインする方法について説明しています。
3	トラブルシューティング	エラーメッセージの一覧とその対処方法について説明しています。
索引		五十音、アルファベット順の 2 つの索引があります。

このマニュアルにおける説明の範囲

本マニュアルでは、オペレーティングシステムの基本的な操作については説明していません。オペレーティングシステムの基本的な操作は、Windows のユーザーズガイドなどをお読みください。

このマニュアルで使用している記号

● 単位

K……「1024」の意味です。使用例 :100KB

● メニュー、コマンド、ダイアログボックス、ボタンの表記

すべて [ ] で囲んで表記しています。

● 注記

Note 操作をするうえで、知っていると便利な情報が記載されています。

画像について

本書に掲載されている画像が、操作説明に影響のない範囲で実際のソフトウエアの画像と異なる場合があります。

このマニュアルが対象としている製品

項目	対応
DX1000/DX1000N/DX2000	リリースナンバー 4(ファームウエアのバージョン 4.2x) まで
MV1000/MV2000	リリースナンバー 1(ファームウエアのバージョン 1.0x) まで
CX1000/CX2000	スタイルナンバー S3 まで
DX100/DX200/DX200C	スタイルナンバー S4 まで
MV100/MV200	スタイルナンバー S4 まで
DAQSTANDARD	バージョン R9.0x まで
DX100P/DX200P	スタイルナンバー S5 まで

改版の履歴

版数	追加／変更機能
1	DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4 と DX100P/DX200P に対応。いままでの DAQSTANDARD ユーザーズマニュアル (IM04L41B01-61) 5 版をソフトウエアごとに分冊化して制作した。
2	動作環境変更 (Windows 7 対応)。記述改善。
3	動作環境変更 (Windows XP SP2 対応終了)。Excel データ形式に変換時のファイル形式を Excel97 の形式に変更。記述改善。
4	動作環境変更 (Windows 2000 対応終了、Windows 8 対応)。
5	ライセンス削除。 動作環境変更 (Windows XP、Windows Vista 対応終了)。
6	記述改善。
7	DX1000/DX1000N/DX2000 バージョン 4.2x 対応。
8	動作環境変更 (Windows 11 対応、Windows Enterprise エディション対応、Windows 7 削除)。 DAQSTANDARD R9.05.03 のバージョン構成は、以下の通りです。 - インストーラバージョン R9.05.03（Windows の「プログラムと機能」にて確認可能） - 各ソフトウェアのバージョン情報 R9.05.02

目次

はじめに i
ソフトウエア使用許諾契約書 ii
このマニュアルの利用方法 iii

第 1 章　ご使用になる前に

1.1　DAQSTANDARD の概要 1-1
DAQSTANDARD を構成するソフトウエア 1-1
ビューアソフトウエアについて 1-1
1.2　必要な PC システム環境 1-2
オペレーティングシステム 1-2

第 2 章　データビューアでデータを表示する

2.1　データビューアを起動する / 終了する 2-1
データビューアの起動 2-1
表示するファイルを開く 2-2
サインイン単位でファイルを開く 2-3
ファイルの情報の確認 2-8
データビューアの終了 2-11
2.2　波形を表示する 2-12
波形表示 2-12
波形表示の詳細設定 2-13
時間軸の設定 2-16
Y 軸の設定 2-17
アラーム表示の ON/OFF 2-20
チャネルの識別文字の選択 2-21
カーソル表示 / 消去 2-21
カーソル値の表示 2-22
区間演算値表示 2-23
任意マークの追加 2-23
アラーム変化点 / マーク位置の検索 2-24
マークの削除 2-25
マーク表示の初期化 2-25
ウインドウの設定 2-26
2.3　サーキュラを表示する 2-27
サーキュラ表示 2-27
表示の詳細設定 2-27
時間軸の設定 2-28
Y 軸の設定 2-28
アラーム表示の ON/OFF 2-28
2.4　ディジタル値を表示する 2-29
ディジタル値表示 2-29
ディジタル値表示の詳細設定 2-29
時間軸の設定 2-29
アラーム表示の ON/OFF 2-30
チャネルの識別文字の選択 2-30
カーソル表示 / 消去 2-30
任意マークの追加 / マークの削除 / マーク表示の初期化 2-30
2.5　ファイルを接続する / 接続情報ファイルを保存する 2-31
ファイルの接続 2-31
データファイルの接続時のデータ数計算 2-33
接続情報ファイルの保存 2-33
ファイルの接続と表示条件の保存 2-33

2.6 アラーム / マーク / 制御動作を一覧表示する / 変換出力する 2-34
2.7 マニュアルサンプルデータファイルを表示する 2-36
2.8 操作履歴を一覧表示する / 設定変更操作時の設定データを表示する / 変換出力する 2-37
操作履歴の一覧表示 2-37
設定変更操作時の設定データの表示 2-47
操作履歴一覧のデータ変換 2-48
2.9 バッチデータ / 連続データファイル内の設定情報を表示する 2-49
2.10 バッチデータ / 連続データにサインインする 2-51
2.11 TLOG ファイルを表示する 2-55
2.12 レポートファイルを表示する 2-57
DX1000/DX1000N/DX2000/MV1000/MV2000 で作成したレポートファイル 2-57
CX1000/CX2000/DX100/DX00L/DX200/DX200C/DX100P/DX200P/MV100/MV200 で作成したレポートファイル 2-60
2.13 表示条件を保存する 2-61
2.14 表示テンプレートの保存 2-64
テンプレートの保存 2-64
テンプレートの使用 2-64
2.15 データを変換する 2-65
変換例 2-67
2.16 印刷する 2-68
プリンタの設定 2-68
印刷内容の設定 (表示データファイル、イベントデータファイルのとき) 2-68
ヘッダ 2-70
印刷プレビュー 2-70
操作履歴一覧の印刷 2-70
印刷 2-70

第 3 章 トラブルシューティング

3.1 トラブルシューティング 3-1

索引

1.1　DAQSTANDARD の概要

DAQSTANDARD を構成するソフトウエア

DAQSTANDARD は、次の 3 つのソフトウエアで構成されています。

- ビューア
- ハードウエア設定
- DX100P/DX200P 設定

本書では、ビューアについて説明します。

●ビューア

記録計が生成した測定データを波形表示やディジタル値表示したり、印刷することができます。

●ハードウエア設定

記録計の設定データを作成するためのソフトウエアです。作成した設定ファイルを記録計に送信したり、記憶メディアに保存することができます。対象機種は、DX1000/DX1000N/DX2000、DX100/DX200、CX1000/CX2000、MV1000/MV2000、MV100/MV200 です。

●DX-P ハードウエア設定

記録計 DX100P/DX200P の設定データを作成するためのソフトウエアです。作成した設定ファイルを記録計に送信したり、記憶メディアに保存することができます。

ビューアソフトウエアについて

記録計が生成した以下の 5 種類のデータを画面に波形表示、ディジタル値、サーキュラ表示したり、印刷することができます。表示したデータはファイル接続したり、表示条件を保存したり、データ変換したりすることができます。

- 表示データファイル
- イベントデータファイル
- TLOG ファイル
- レポートファイル
- マニュアルサンプルデータファイル

また、バッチファイルや連続データをサインイン単位で開いたり、操作履歴を一覧表示したりすることができます。

1.2　必要な PC システム環境

ハードウエア

● パーソナルコンピュータ本体

Windows 8.1、Windows 10、または Windows 11 が動作する機種

● CPU と主記憶容量

Windows 8.1、Windows 10 の場合
Core2 Duo E6300 以上の Intel 社製 x64 または x86 プロセッサ。2GB 以上のメモリ。
Windows 11 の場合
Core i5 以上、かつ、第 8 世代以降の Intel 社製プロセッサ。8GB 以上のメモリ。

● ハードディスク

Windows 8.1、Windows 10 の場合
空き容量が 100MB 以上 (データ量により、これ以上必要な場合があります。)
Windows 11 の場合
空き容量が 64GB 以上 (データ量により、これ以上必要な場合があります。)

● マウス

OS に対応したマウス。

● ディスプレイ

OS が推奨するビデオカードと OS に対応した 1024 x 768 ドット以上、65,536 色 (16bit、High Color) 以上のディスプレイ。

● 通信ボード

RS-232 で通信を行う場合は、Windows がサポートする COM ポート (COM1、COM2、COM3、COM4) を使用してください。
RS-422/RS-485 で通信を行う場合は、RS-232 ポートにコンバータを接続してください。
イーサネット (Ethernet) で通信を行う場合は、Windows がサポートする Ethernet カードが必要です。また、TCP/IP プロトコルがインストールされていることが必要です。

● プリンタ

使用する Windows システムで使用可能なプリンタ。使用する Windows システムに対応するプリンタドライバが必要です。

オペレーティングシステム

OS	バージョン	更新バージョン
Windows 8.1	（32 ビット版、64 ビット版）（デスクトップモードに対応）	Update
	Pro（32 ビット版、64 ビット版）（デスクトップモードに対応）	Update
Windows 10	Home（32 ビット版、64 ビット版）	21H2
	Pro（32 ビット版、64 ビット版）	21H2
	Enterprise（32 ビット版、64 ビット版）	21H2
	Enterprise LTSB（32 ビット版、64 ビット版）	21H2
	Enterprise LTSC（32 ビット版、64 ビット版）	21H2
Windows 11	Home（64 ビット版）	21H2
	Pro（64 ビット版）	21H2
	Enterprise（64 ビット版）	21H2

Microsoft Corporation がサポートを終了した OS については、横河電機でもサポートを終了します。

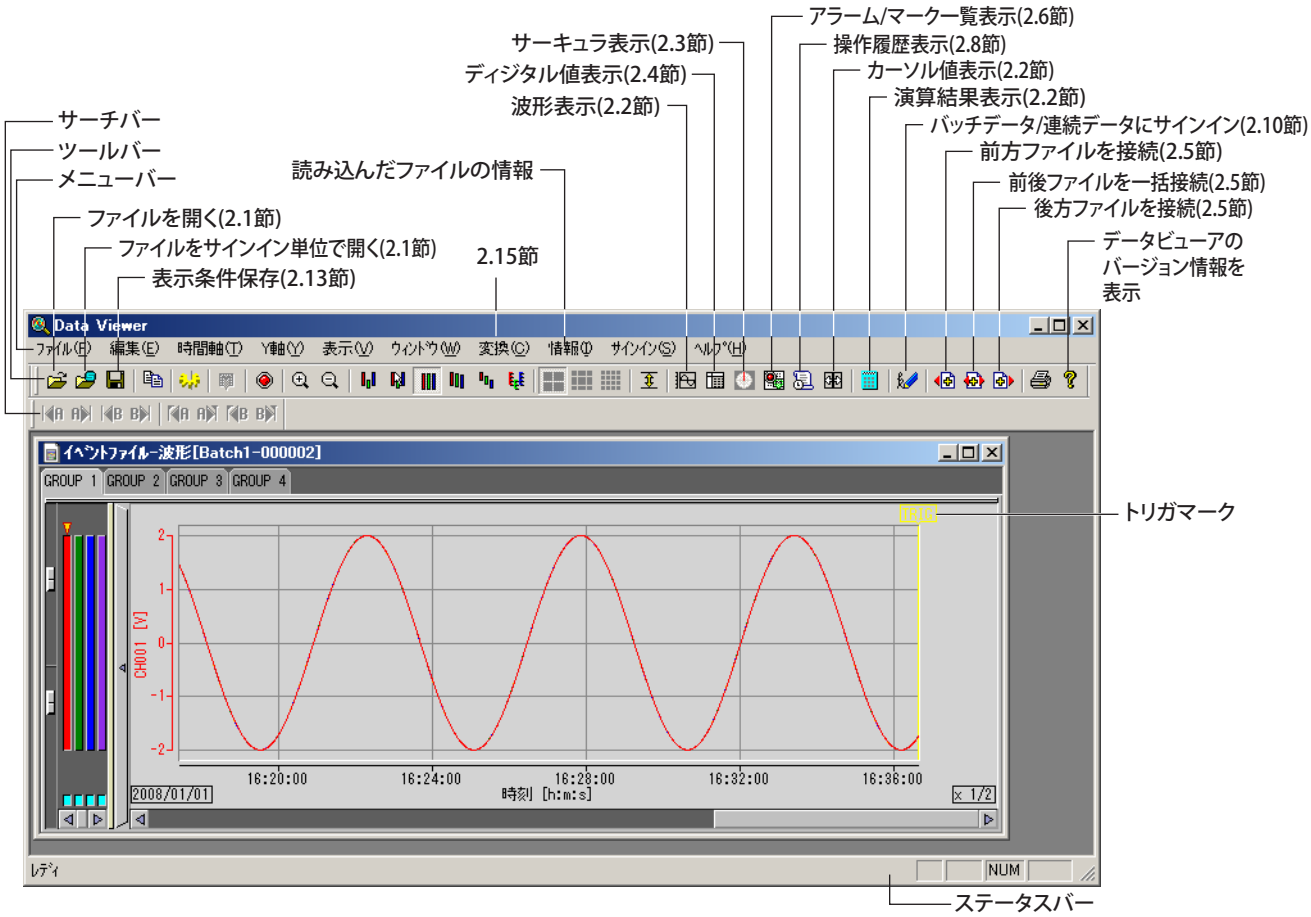
Note

- タイムゾーンの設定は Windows[コントロールパネル] の [日付と時刻] で行ってください。
- 夏時間が存在する場合は、[自動的に夏時間の調整をする] を ON にしてご使用ください。
- Windows の autoexec.bat によるタイムゾーン設定は使用しないでください。autoexec.bat に "TZ=GTM0" などの設定がある場合には、動作しないように REM コマンドを付けてください。
- 本ソフトウエアは 2038 年以降のデータを扱えません。
- パーソナルコンピュータに MS ゴシックフォントがインストールされている必要があります。

2.1　データビューアを起動する / 終了する

データビューアの起動

1. [スタートメニュー]-[プログラム]-[DAQSTANDARD]-[ビューア] を選択します。
ビューアが起動します。データを表示した場合の例を示します。



データビューアは複数起動できません。
「ファイルの関連づけ」を設定すると、データファイルをダブルクリックしてデータビューアを起動することができます。また、データファイルをビューアのアイコンにドラッグ & ドロップしてデータビューアを起動することもできます。

データビューアで表示できるファイル (拡張子)

ファイル種類	DX1000/ DX1000N/ DX2000	MV1000/ MV2000	CX1000/ CX2000	DX100/ DX200/ DX200C	DX100P/ DX200P	MV100/ MV200
表示データファイル	DAD, DSD	DAD	cds	dds	dbd	dds
イベントデータファイル	DAE, DSE	DAE	cev	dev	dbe	dev
TLOG ファイル	—	—	dtg	dtg	dtg	dtg
接続情報ファイル	ldx	ldx	ldx	ldx	ldx	ldx
レポートファイル	DAR*	DAR*	dhr, ddr, dwr, dmr	dhr, ddr, dwr, dmr	dhr, ddr, dwr, dmr	dhr, ddr, dwr, dmr
マニュアルサンプルデータファイル	DAM	DAM	dmn	dmn	dmn	dmn

*　積算バーグラフ表示ができます。

ツールバー、サーチバー、ステータスバー

メニューの [表示]-[ツールバー]、[サーチバー]、または [ステータスバー] をチェックすると、各バーが表示されます。チェックを外すとバー表示が消えます。

ファイルを作成する際の処理

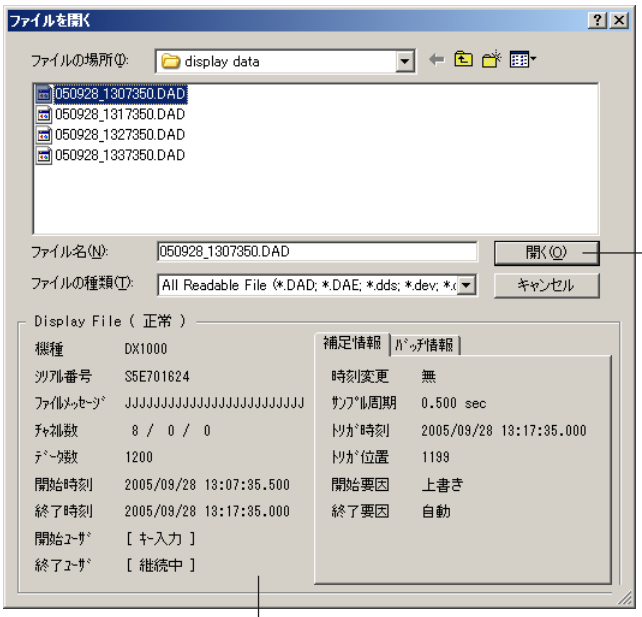
ビューアでファイルを作成する際、次の処理をします。

- ファイル名に含まれる "/"、":"、"*"、"¥"、" “"、"?"、"<" 、">" 、および、"|"、の文字列は、"_"（アンダーバー）に置換します。
- 拡張子（"." を含む）を除いたファイル名の先頭が "." の場合、"." を "_" に変換します。

表示するファイルを開く

1. ここをクリック([ファイル]-[開く])

2. [ファイルを開く]ダイアログボックスが開く



3. 目的のファイルを選択し、[開く]ボタンをクリック

選択したファイルの情報

Note

[ファイルを開く] ダイアログボックスでは、ファイル名の変更ができます。ファイルの削除はできません。

サインイン単位でファイルを開く

1. ここをクリック([ファイル]-[サインイン単位で開く])

2. [サインイン単位でファイルを開く]ダイアログボックスが開く

ここをチェックすると期間を設定できる

ここをクリックして期間を設定する

ここをクリックしてフォルダを指定する

項目名をクリックすると昇順 / 降順でソートする

表示項目設定ボタン
ここをクリックして、表示する項目を選択する

更新ボタン
検索内容を変更したとき、ここをクリックする

クリックして表示されるリストからフィルタ内容を選択する

更新ボタンをクリックすると、サインイン単位でデータリストが表示される

表示項目設定ボタンで選択した項目が設定した順番に左から表示される

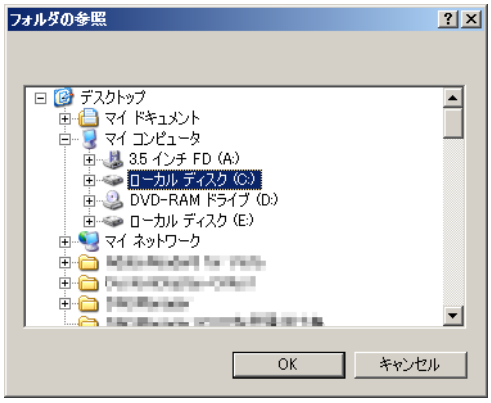
検索するフォルダの設定

フォルダ検索時には、フォルダ直下のサインイン単位のデータが検索対象となります。サブフォルダ内は検索対象ではありません。

フォルダのパス名が長く、すべてを表示できない場合は、途中を省略して表示されます。

指定したフォルダがネットワークフォルダの場合、[フォルダの参照] ダイアログボックスの初期設定のフォルダは「マイコンピュータ」となり、[OK] ボタンを選択できなくなります。

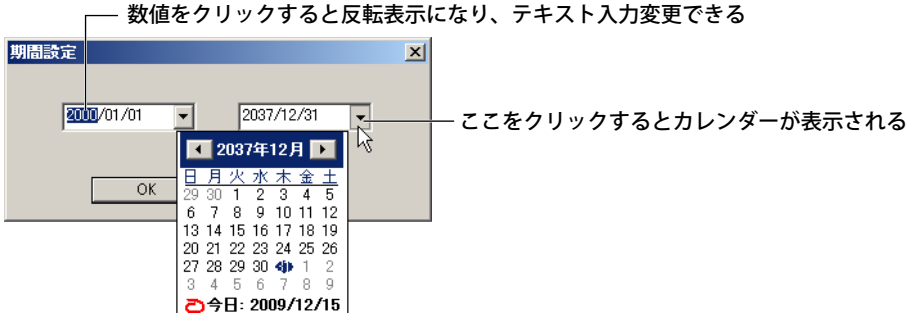
フォルダの設定画面例



期間の設定

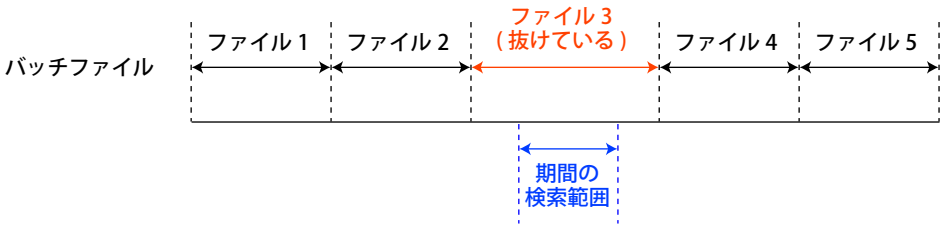
クリックして表示されるカレンダーから選択するか、または、数値をクリックして反転表示させたのち直接入力して設定します。
設定可能な範囲は、「2000/01/01」～「2037/12/31」です。
終了時刻が開始時刻より早い場合、入れ替わります。

期間を設定するときの画面



期間を設定した場合、サインイン単位の対象となっているファイルの一部でも検索範囲と重なるときは、検索結果に表示されます。また、中間ファイルが抜けているバッチファイルの場合、ファイルのデータ期間が一部でも検索範囲に重なっていると、期間条件に合致したとみなし、検索結果に表示されます。

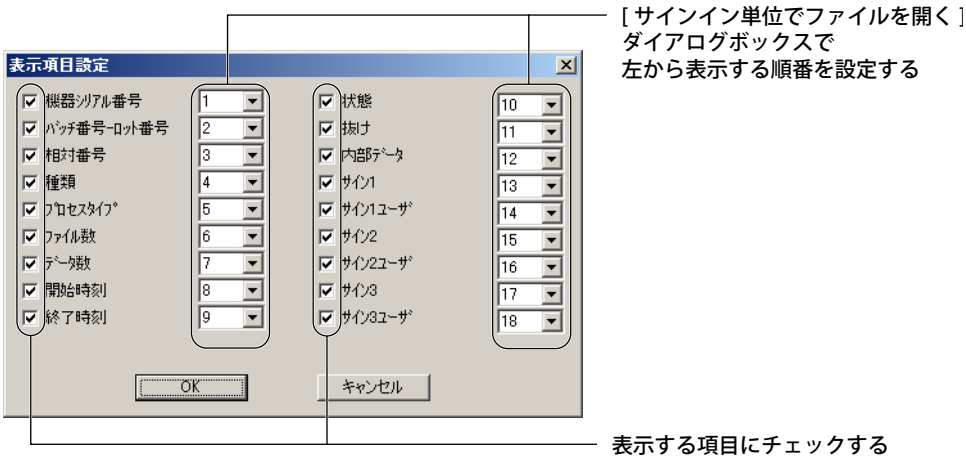
バッチファイルの検索イメージ



表示する項目の設定

チェックした項目を表示します。
項目の表示順を左から何番目になるか設定します。リストボックスから数値で順番を選択します。番号を変更すると、その部分に項目を移動した順番に変わります。
変更前の順番を A、変更後の順番を B とすると、A<B のとき、変更前の A+1 から B までの間の項目の順番を 1 つ上げます。A>B のとき、変更前の B から A-1 までの順番を 1 つ下げます。

表示設定項目を選択するときの画面例



表示項目と表示内容は次の表のとおりです。初期状態ではすべてが表示されます。

表示項目と表示内容

項目	表示内容	複数ファイルの場合の表示基準	
		バッチファイル	接続した連続ファイル
機器シリアル番号	機器シリアル番号	接続中の末尾ファイルの機器シリアル番号	接続中の末尾ファイルの機器シリアル番号
バッチ番号 - ロット番号	バッチ番号 - ロット番号	接続中の末尾ファイルのバッチ番号 - ロット番号	接続中の末尾ファイルのバッチ番号 - ロット番号
相対番号	DX100P/DX200P の場合、バッチスタートを基準としたファイル番号 DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4 /AS1 オプション付きの場合、データファイルの連番	接続中の先頭ファイルの相対番号	接続中の先頭ファイルの相対番号
種類	データファイル種類 (表示 / イベント)	接続中の末尾ファイルの種類	接続中の末尾ファイルの種類
プロセスタイプ	プロセスタイプ (バッチ / 連続)	「バッチ」に固定	「連続」に固定
ファイル数	構成ファイル数	接続中のファイル数	接続中のファイル数
データ数	データ数。500 万点以上の場合に、データ数を赤字で表示	・接続中の先頭ファイルの最初データから、末尾ファイルの最後データまでのデータ数。 ・中間のファイルが抜けている場合に、抜け部分のデータもカウント	接続中の全ファイルのデータ数
開始時刻	データ開始日時 (yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm)	接続中の先頭ファイルの開始時刻	接続中の先頭ファイルの開始時刻
終了時刻	データ終了日時 (yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm)	接続中の末尾ファイルの終了時刻	接続中の末尾ファイルの終了時刻
状態	データファイルの状態。ファイル破損、または、データ異常の場合、異常を表示 (正常 / 異常)	接続中の全ファイルが「正常」の場合のみ「正常」を表示し、それ以外は「異常」を表示する	接続中の全ファイルが「正常」の場合のみ「正常」を表示し、それ以外は「異常」を表示する
抜け	データ抜けの有無 (有 / 無)	バッチを構成するすべてのファイルが接続中の場合には「無」、それ以外は「有」	「無」に固定
内部データ	キー操作で保存したデータの有無 (有 / 無)	接続中の末尾ファイルの内部データ	接続中の末尾ファイルの内部データ
サイン 1	サイン 1(未サイン / パス / フェイル) 接続中の末尾ファイルのサイン 1	接続中の末尾ファイルのサイン 1	接続中の末尾ファイルのサイン 1
サイン 1 ユーザ	サイン 1 をサインしたユーザ名	接続中の末尾ファイルのサイン 1 ユーザ	接続中の末尾ファイルのサイン 1 ユーザ
サイン 2	サイン 2(未サイン / パス / フェイル)	接続中の末尾ファイルのサイン 2	接続中の末尾ファイルのサイン 2
サイン 2 ユーザ	サイン 2 をサインしたユーザ名	接続中の末尾ファイルのサイン 2 ユーザ	接続中の末尾ファイルのサイン 2 ユーザ
サイン 3	サイン 3(未サイン / パス / フェイル)	接続中の末尾ファイルのサイン 3	接続中の末尾ファイルのサイン 3
サイン 3 ユーザ	サイン 3 をサインしたユーザ名	接続中の末尾ファイルのサイン 3 ユーザ	接続中の末尾ファイルのサイン 3 ユーザ

フィルタの設定

リストボックスの項目を選択します。選択項目と内容は次のとおりです。

選択項目	内容
全て	サインイン状態に関わらず、すべてのファイル
1 未サインイン	サイン 1 がサインインされてないファイル
2 未サインイン	サイン 2 がサインインされてないファイル
3 未サインイン	サイン 3 がサインインされてないファイル
全て未サインイン	サイン 1、サイン 2、サイン 3 のすべてがサインインされてないファイル
任意サインイン済み	サイン 1、サイン 2、サイン 3 いずれかがサインインされたファイル

設定を変更して再検索

設定を変更した場合、[更新] ボタンをクリックします。
変更した設定で検索された結果がリスト表示されます。
再検索時の優先順位は次のとおりです。

1. 検索フォルダ
2. 期間の検索範囲 (チェックしていない場合は無視されます。)
3. フィルタ
4. 連続ファイルの接続表示 (チェックしていない場合は無視されます。)

設定内容の記憶

[サインイン単位でファイルを開く] ダイアログボックスで設定した内容は、ダイアログボックスを閉じるときに保存されます。ビューアを終了する際、ini ファイルに保存されます。保存される内容は次のとおりです。

- フォルダ
- フィルタ
- 期間のチェック状態
- すべての表示項目の表示 / 非表示と表示順序
- サインイン単位リストに対するソートの基準項目
- サインイン単位リストに対するソートの昇順 / 降順
- [サインイン単位でファイルを開く] ダイアログボックスのサイズ

ファイルの重複

ファイルを重複して開くことはできません。重複して開こうとした場合の例を記載します。

- 一つのバッチファイル、連続ファイルを開いている (別のファイルを接続表示している状態も含む) 場合、既に開いているファイルを開こうとすると、表示している画面を最前面に表示します。
- 複数のバッチファイル、連続ファイルを開いている (別のファイルを接続表示している状態も含む) 場合、ファイルを一つ開こうとすると、既に表示している画面を最前面に表示します。
- 複数のバッチファイル、連続ファイルの一部のファイルを開いている場合、これらのファイルを 1 ファイル単位で開くと、メッセージ (W3129) を表示します。

連続ファイルの接続表示

連続ファイルの表示に関する設定です。チェックの有無で次のように表示されます。

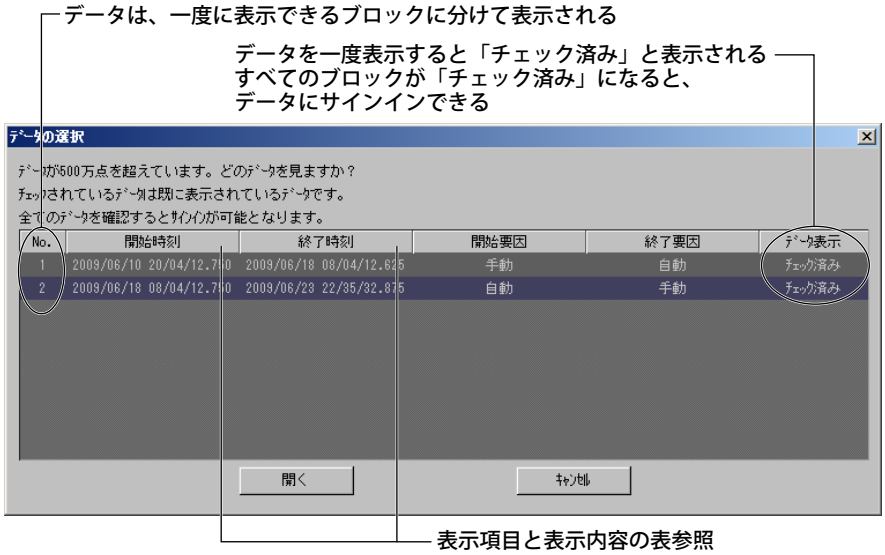
チェックの有無	表示方法
有	接続可能な連続ファイルを接続して、1 行で表示する
無	連続ファイルを接続しないでファイルごとに 1 行で表示する

検索結果の表示と選択

サインイン単位でリストが表示されます。サインイン単位内にファイルの抜けがある場合にも開くことができます。抜けの部分は NoData として表示されます。
サインイン単位のリストから、一つだけ選択できます。
サインイン単位の削除はできません。

500 万点を超えるデータの表示

500 万点を超えるデータは一括表示できません。データ点数が 500 万点を超える場合、ファイルを開こうとすると、[データの選択] ダイアログが表示されます。[データの選択] ダイアログボックスで、500 万点単位でファイルを開く設定ができます。分割されたデータは別々の画面で表示されます。
連続データファイルは 1 ファイル内のデータ数が 500 万点を超えることはありません。また、連続データファイルを接続して表示する場合、500 万点を超える接続はできません。



500 万点以上のバッチファイルにサインインする場合、はじめに、一連のファイルを一つのフォルダに用意し、データ選択ダイアログボックスからファイルをすべて開いてください。その間、ファイルを移動、削除するなどのファイル操作はしないでください。
[データ表示] 項目のチェック済み / 未チェックの記憶は他の 500 万点を超えるバッチファイルをロードした時点でリセットされます。

データアイテムを開く

データアイテムを選択してダブルクリックするか、または [開く] ボタンをクリックするとファイルが開きます。
選択したデータアイテムの先頭、または末尾が抜けている場合、抜けたファイル部分のデータは無視して開きます。

データアイテムの選択とサインイン

データアイテムは一つだけ選択可能です。表示しているすべてのデータアイテムを開いたのち、サインイン可能になります。
なお、データアイテムのデータ表示項目 (チェック状態) は、本ソフトを終了、または、他の 500 万点以上のバッチファイルを開くとリセットされます。

データアイテムの分割基準

データが 500 万点以上の場合に、データアイテムの分割基準は次のようになります。
- データ数が 500 万点までをファイル接続し、1 データアイテムとする
- 1 ファイル内のすべてのデータは、必ず同じデータアイテムに含まれる

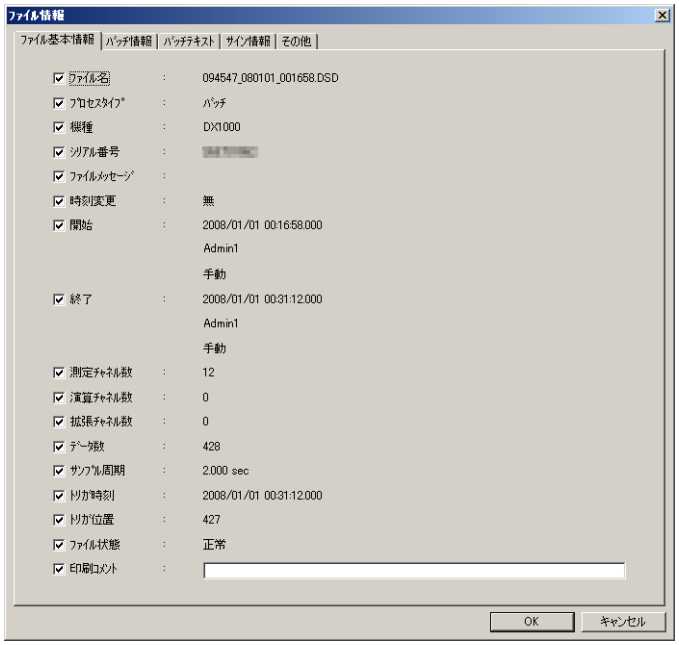
データアイテムの開始要因と終了要因

本節の「ファイル情報の確認」の表を参照してください。

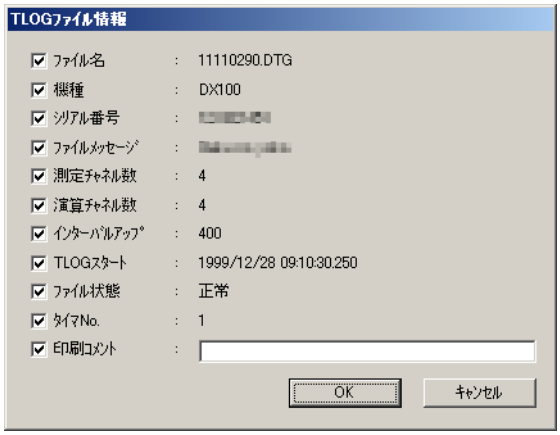
ファイルの情報の確認

[情報]-[ファイル情報] を選択すると、アクティブなデータファイルの情報を確認できます。
チェックした項目は、印刷時にヘッダとして印刷されます。

- **表示データファイル / イベントデータファイルのとき**



- **TLOG ファイルのとき**



ファイル情報のチェックの付いた項目が、印刷時のヘッダとして出力されます。

Note

- 複数のファイルを同時に開くことができます。
- 同時に開くことができるファイルの数は、パーソナルコンピュータのメモリサイズとディスクの空き容量に依存します。

[ファイル基本情報] タブページの表示内容

項目		表示内容	複数ファイルの場合の表示	
			バッチファイル	接続した連続ファイル
ファイル名		ファイル名の文字列 (ファイル名が長い場合、ダイアログ範囲を超える部分は表示しない)	2 ファイルを接続したとき、先頭ファイル名と末尾ファイル名の間にカンマを入れたファイル名とする 例：61023149.DBE,61102049.DBE 3 ファイル以上を接続したとき、先頭ファイル名と末尾ファイル名の間に ,..., を入れたファイル名とする 例：61023149.DBE,...,61102049.DBE	
プロセスタイプ		プロセスタイプ (バッチ / 連続)	「バッチ」に固定	「連続」に固定
機種		機器の種類 (DX100P、DX200P、DX1000、DX2000)	接続中の末尾ファイルの機種	接続中の末尾ファイルの機種
シリアル番号		機器シリアル番号	接続中の末尾ファイルの機器シリアル番号	接続中の末尾ファイルの機器シリアル番号
ファイルメッセージ		ファイルメッセージの文字列 (半角 50 文字まで)	接続中の末尾ファイルのファイルメッセージ	接続中の末尾ファイルのファイルメッセージ
時刻変更		データ収集中に時刻変更の有無 (有 / 無)	接続中の全ファイルが「無」の場合だけ「無」を表示し、それ以外は「有」を表示する	接続中の全ファイルが「無」の場合のみ「無」を表示し、それ以外は「有」を表示する
開始	開始時刻	データ収集開始時刻 (yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm)	接続中の先頭ファイルの開始時刻	接続中の先頭ファイルの開始時刻
	開始ユーザ	データ収集を開始したユーザ名の文字列 (半角 20 文字列まで)	接続中の先頭ファイルの開始ユーザ	接続中の先頭ファイルの開始ユーザ
	開始要因	データ収集の開始要因 (手動 / 停電復帰 / 自動 / トリガ復帰 / 上書き / 不明)	接続中の先頭ファイルの開始要因	接続中の先頭ファイルの開始要因
終了	終了時刻	データ収集終了時刻 (yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm)	接続中の末尾ファイルの終了時刻	接続中の末尾ファイルの終了時刻
	終了ユーザ	データ収集を終了したユーザ名の文字列 (半角 20 文字列まで)	接続中の末尾ファイルの終了ユーザ	接続中の末尾ファイルの終了ユーザ
	終了要因	データ収集の終了要因 (手動 / 停電 / 自動 / データ数 / 割込み / 不明)	接続中の末尾ファイルの終了要因	接続中の末尾ファイルの終了要因
測定チャネル数		測定チャネル数	接続中の末尾ファイルの測定チャネル数	接続中の末尾ファイルの測定チャネル数
演算チャネル数		演算チャネル数	接続中の末尾ファイルの演算チャネル数	接続中の末尾ファイルの演算チャネル数
拡張チャネル数		拡張チャネル数	接続中の末尾ファイルの拡張チャネル数	接続中の末尾ファイルの拡張チャネル数
データ数		データ数	接続中の先頭ファイルの最初データから、末尾ファイルの最後データまでのデータ数 (中間にファイル抜けがある場合、抜け部分のデータもカウント)	接続中の全ファイルのデータ数
サンプル周期		サンプル周期 (単位：秒)	接続中の末尾ファイルのサンプル周期	接続中の末尾ファイルのサンプル周期
トリガ時刻		トリガの時刻 (yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm)	接続中の末尾ファイルのトリガ時刻	接続中の末尾ファイルのトリガ時刻
トリガ位置		トリガ位置 (0 から)	先頭ファイルの最初データを基準とした末尾ファイルのトリガ位置 (中間にファイル抜けがある場合、抜け部分のデータもカウント)	先頭ファイルの最初データを基準とした末尾ファイルのトリガ位置
ファイル状態		データファイルの状態 (正常 / 異常)	接続中の全ファイルが「正常」の場合に「正常」を表示し、それ以外は「異常」を表示する	接続中の全ファイルが「正常」の場合「正常」を表示し、それ以外は「異常」を表示する
印刷コメント		最大半角 127 文字を入力可能		

[バッチ情報] タブページの表示内容

項目		表示内容	複数ファイルの場合の表示	
			バッチファイル	接続した連続ファイル
バッチ番号		バッチ番号の文字列 (半角 32 文字まで)	接続中の末尾ファイルのバッチ番号	接続中の末尾ファイルのバッチ番号
ロット番号		ロット番号の数 (範囲：0-99999999) DX100P/DX200P の場合、4 桁で揃える DX1000/DX1000N/DX2000 のリリースナンバー 4、AS1 オプション付きの場合、データファイル内の桁数 (4/6/8) で揃える	接続中の末尾ファイルのロット番号	接続中の末尾ファイルのロット番号
ヘッダ 1-3		ヘッダ 1-3 の文字列 (半角 64 文字まで)	接続中の末尾ファイルのヘッダ 1-3	接続中の末尾ファイルのヘッダ 1-3
コメント (1-3)	時刻	コメントを付けた時刻 (yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm)	接続中の末尾ファイルのコメントを付けた時刻	接続中の末尾ファイルのコメントを付けた時刻
	ユーザ	コメントを付けたユーザ名の文字列 (半角 20 文字まで)	接続中の末尾ファイルのコメントを付けたユーザ	接続中の末尾ファイルのコメントを付けたユーザ
	内容	コメントの内容の文字列 (DX100P/DX200P の場合、半角 32 文字まで。DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、AS1 オプションの場合、50 文字まで。)	接続中の末尾ファイルのコメントの内容	接続中の末尾ファイルのコメントの内容

[バッチテキスト] タブページの表示内容

項目		表示内容	複数ファイルの場合の表示	
			バッチファイル	接続した連続ファイル
バッチテキスト (1-24)	タイトル	バッチテキストのタイトルの文字列 (半角 20 文字まで)	接続中の末尾ファイルのバッチテキストのタイトル	接続中の末尾ファイルのバッチテキストのタイトル
	記述	バッチテキストの記述の文字列 (半角 30 文字まで)	接続中の末尾ファイルのバッチテキストの記述	接続中の末尾ファイルのバッチテキストの記述

[サイン情報] タブページの表示内容

項目		表示内容	複数ファイルの場合の表示	
			バッチファイル	接続した連続ファイル
サイン 1-3	時刻	サインの時刻 (yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm)	接続中の末尾ファイルにサインした時刻	接続中の末尾ファイルにサインした時刻
	ユーザ	サインのユーザ (半角 20 文字まで)	接続中の末尾ファイルにサインしたユーザ	接続中の末尾ファイルにサインしたユーザ
	結果	サイン結果 (未サイン / パス / フェイル)	接続中の末尾ファイルのサインの結果	接続中の末尾ファイルのサインの結果
サインコメント 1-3		サインコメント (半角 32 文字列まで)	接続中の末尾ファイルのサインコメント	接続中の末尾ファイルのサインコメント

- バッチを構成する各ファイルのサイン情報が一致していない場合、接続中の末尾ファイルの情報を表示します。
- 接続した連続ファイルの場合、接続中の末尾ファイルのサイン情報を表示します。このとき、「接続中の末尾ファイル (ファイル名) のサイン情報」を表示します。

[その他] タブページの表示内容

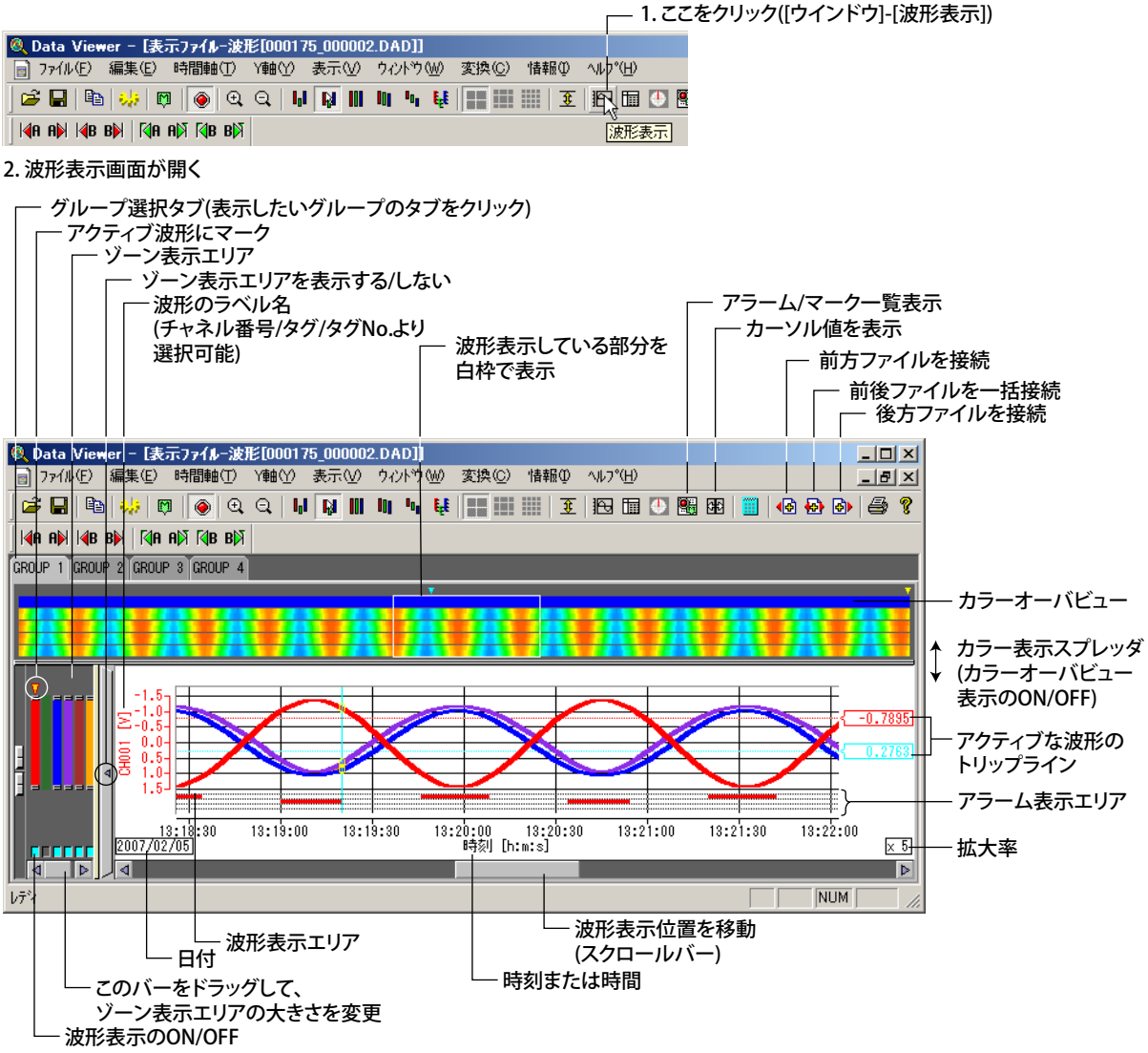
項目	表示内容	複数ファイルの場合の表示	
		バッチファイル	接続した連続ファイル
内部データ	キー操作で保存したデータの有無 (有 / 無)	接続中の末尾ファイルの内部データ	接続中の末尾ファイルの内部データ
入力補正チャネル	入力補正しているチャネル名	• DX100P/DX200P の場合、接続中の末尾ファイルの入力補正チャネル • DX1000/DX1000N/DX2000 のリリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの場合、接続中の先頭ファイルの入力補正チャネル	• DX100P/DX200P の場合、接続中の末尾ファイルの入力補正チャネル • DX1000/DX1000N/DX2000 のリリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの場合、接続中の先頭ファイルの入力補正チャネル

データビューアの終了

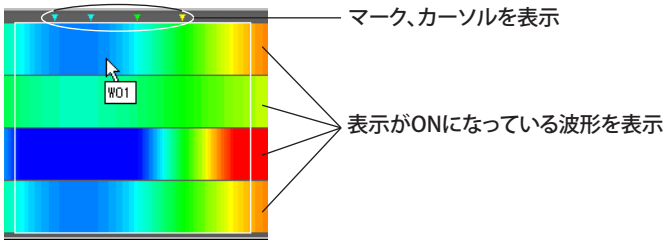
[ファイル]-[終了] を選択するか、[×] ボタンをクリックします。各ウインドウで設定を変更したときは、「****.*** への変更を保存しますか」メッセージが表示されます。設定を保存してデータビューアを終了するときは、[はい] ボタンをクリックします。設定を保存しないでデータビューアを終了するときは、[いいえ] ボタンをクリックします。

2.2 波形を表示する

波形表示



カラーオーバビュー表示



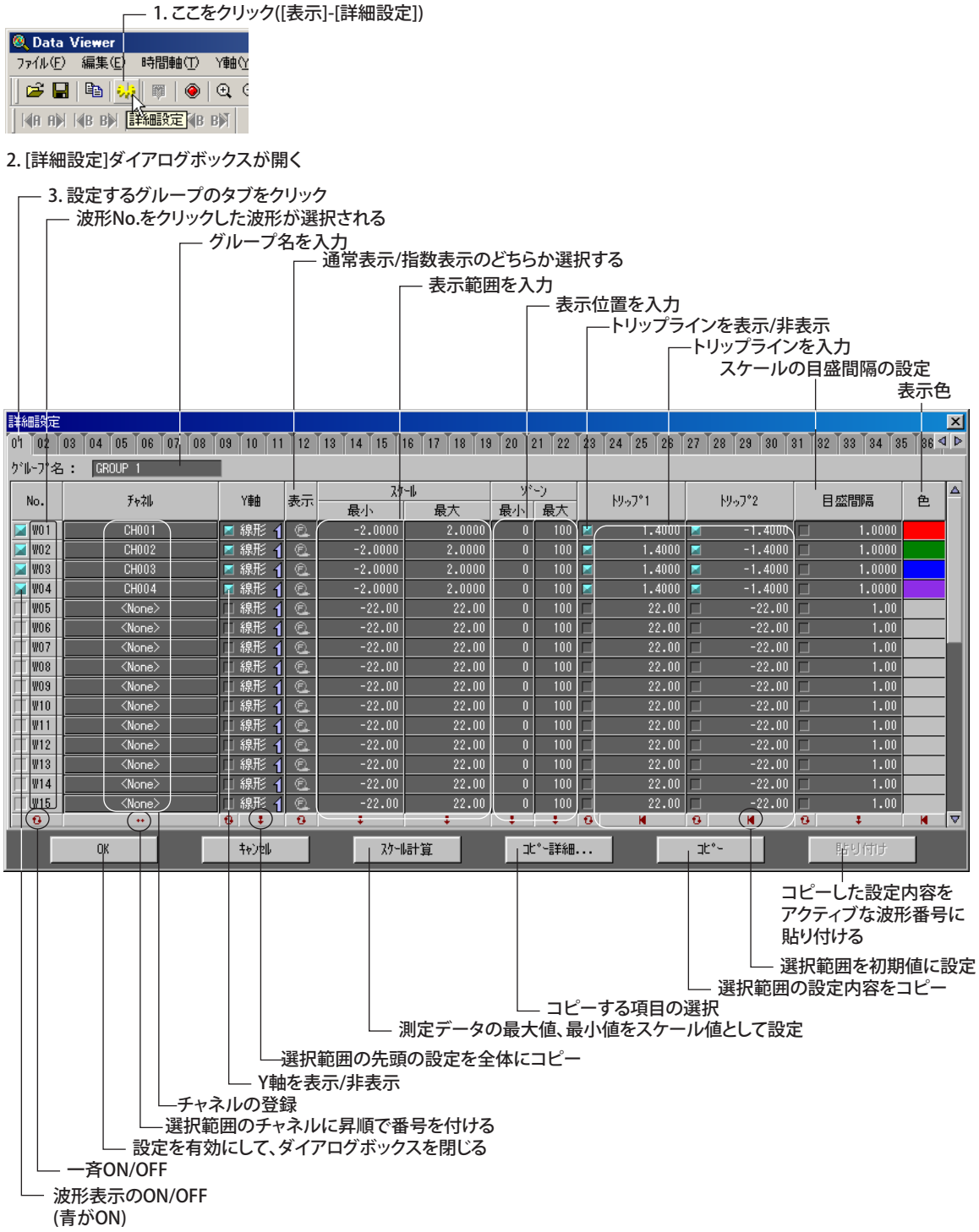
データ全体の測定値を色分けして表示します。スケールの最小値から最大値までを 50 色に分けて、測定値を色分けします。
対象が表示データのときは、1 つの波形に割り当てられたスペースの上段に最大値、下段に最小値を表示します。

なお、カラーオーバビュー表示エリアでマウスをクリックまたはドラッグすると、その部分の波形が波形表示エリアに表示されます。

Note

カラーオーバビューは、初期状態では OFF になっています。

波形表示の詳細設定



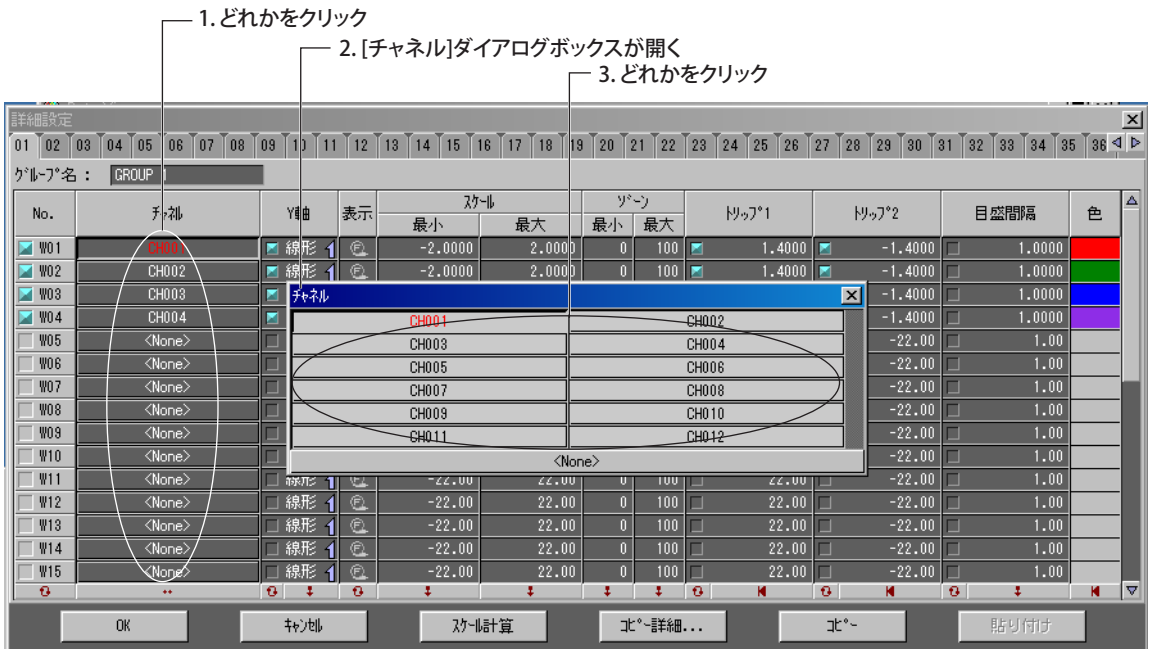
グループ

50 グループまで設定できます。また、1 つのグループには最大 32 チャネルまで登録できます。

波形表示の ON/OFF

表示する波形番号のボックスをチェックします。ゾーン表示エリアの波形表示 ON/OFF ボタンと連動しています。

チャネルの登録



Y 軸の種類、Y 軸の ON/OFF

Y 軸表示エリアをクリックして、線形または対数を選択します。また、「複数軸ゾーン (2-17 ページ、Y 軸の設定)」を選択しているときは、Y 軸を表示する / しないを選択できます。チェックボックスが [青] の波形の Y 軸を表示します。

スケール (表示範囲)

最大値 / 最小値の入力範囲は、-1.0×10^{16} ～ 1.0×10^{16} です。
スケール値表示エリアをクリックすると、数値入力が可能になります。

ゾーン (表示位置)

入力範囲は、次のとおりです。

- 最小値：0 ～ 99%
- 最大値：1 ～ 100%

波形表示位置を、波形表示画面の波形表示エリアの下端を 0%、上端を 100%として設定します。ゾーン表示エリアをクリックすると、数値入力が可能になります。

トリップライン

波形ごとに 2 つ (トリップ 1- 赤 / トリップ 2- 青) 設定できます。アクティブ波形のトリップラインだけが、波形表示画面に表示されます。ただし、自動ゾーン表示画面 (Y 軸の設定 2-17 ページ参照) では、表示波形のチェックしたすべてのトリップラインが表示されます。
波形表示画面では、トリップライン表示をドラッグして、位置を変更できます。波形表示の [詳細設定] 画面では、トリップラインの値表示エリアをクリックすると、数値入力が可能になります。

目盛間隔

スケールの目盛り間隔を指定できます。「スケール幅の 1/1000」(最小目盛り間隔) ～「スケール幅の 1/2」(最大目盛り間隔) の範囲で設定できます。初期値は「1」です。ただし、設定値の小数点位置は、スケールの小数点位置と同じです。
例：スケールが –2.0000 ～ 2.0000 の場合、最小目盛り間隔 0.004、最大目盛り間隔 2 です。

Note

- 設定可能な最小値より小さい値を設定すると、最小値が設定されます。設定可能な最大値より大きい値を設定すると、最大値が設定されます。
- Y 軸が [対数] の場合、[目盛間隔] の設定はできません。設定は無効です。
- Y 軸の目盛り数字
  - 最大 22 個、最小 2 個の目盛り数字を表示します。
  - スケールの範囲に「0」が含まれる場合、「0」と、「0」を基点として目盛間隔の整数倍の値を表示します。

表示色

各波形の色を選択できます。任意の色を設定するときは、[色の設定] ダイアログボックスの [色の作成] ボタンをクリックします。

コピー / 貼り付け

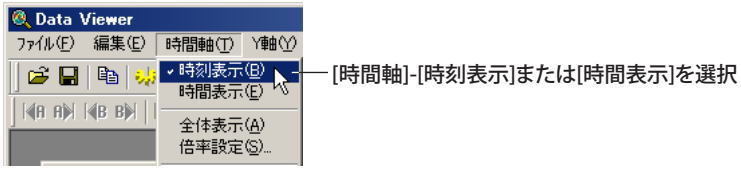
1 つまたは複数のチャネルで設定した内容を、ほかのチャネルにコピー / 貼り付けできます。コピー / 貼り付けをするには、以下の手順に従ってください。

1. コピー元のチャネル番号をクリックします。複数のチャネルを選択するときは、コピー元の最初のチャネルをクリックしたあと、コピーする範囲をドラッグします。
2. ウインドウ下の [コピー] ボタンをクリックします。波形 No. をアクティブ (赤色表示) にした波形の設定がコピーされます。
3. コピー先のチャネル番号をクリックします。複数のチャネルを選択するときは、コピー先の最初のチャネルをクリックしたあと、貼り付ける範囲をドラッグします。
4. [貼り付け] ボタンをクリックします。波形 No. をアクティブにした波形にコピーした設定を貼り付けます。

また、各チャネルの項目を限定してコピー / 貼り付けすることもできます。
上記の 1 でコピー元を選択したあと、[コピー詳細] ボタンをクリックすると、[コピー詳細] ダイアログボックスが表示されます。
コピー / 貼り付けしたい項目にチェックマークが入っているか確認してください。

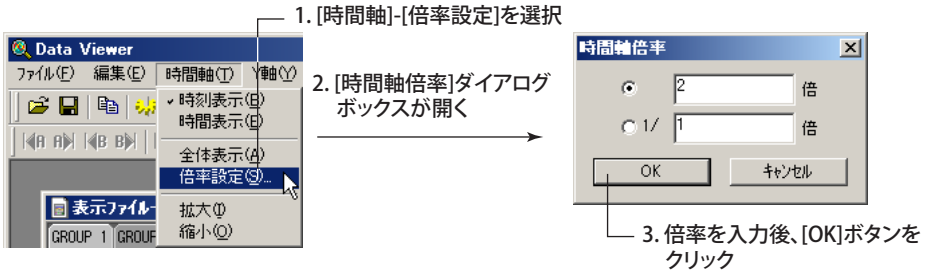
時間軸の設定

時刻表示 / 時間表示の選択



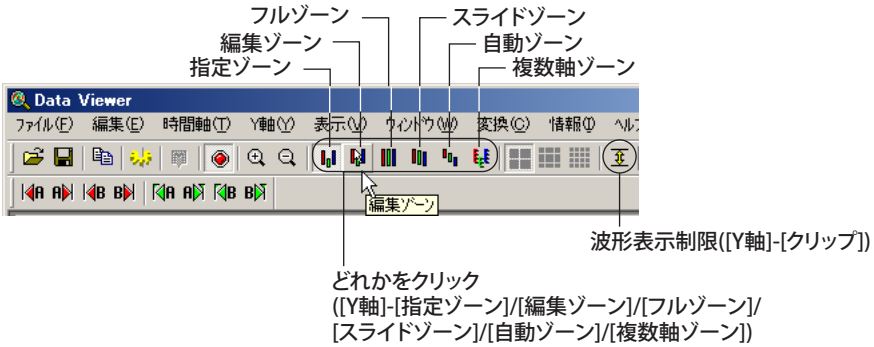
時間軸の拡大 / 縮小

[時間軸]-[全体表示]を選択すると、すべてのデータを表示できる大きさに時間軸を縮小、または拡大して表示します。拡大率を指定して拡大 / 縮小したいときは、次のようにします (設定範囲は 1/1000 ～ 20 倍)。



Y 軸の設定

波形表示ゾーンの選択



次の中から選択します。各ゾーンの表示例は、次ページをご覧ください。

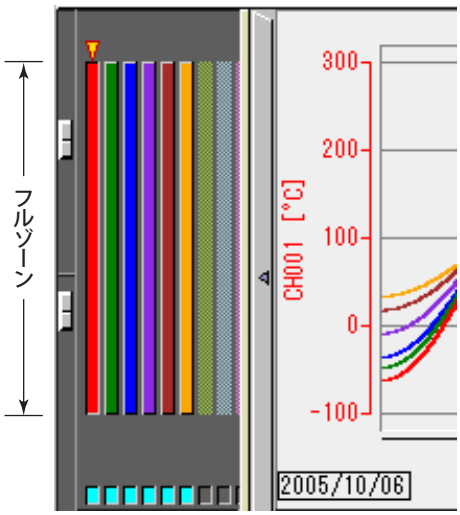
- 指定ゾーン　：　[詳細設定] ダイアログボックスの [ゾーン] で設定した表示範囲に各波形を表示 (波形表示画面でゾーンの変更できない)
- 編集ゾーン　：　[詳細設定] ダイアログボックスの [ゾーン] で設定した表示範囲に各波形を表示 (波形表示画面でゾーンの変更可能)
- フルゾーン　：　全波形をフルゾーンで表示
- スライドゾーン　：　各波形を波形表示エリアの上から下に順次ずらして表示
- 自動ゾーン　：　表示波形の数に応じて波形表示エリアを等分割して表示
- 複数軸ゾーン　：　複数波形の Y 軸を表示

Note

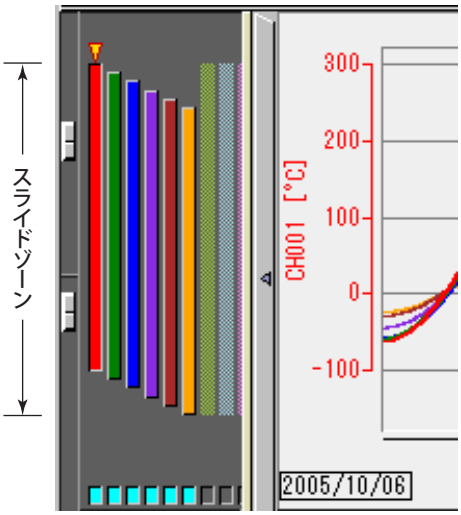
自動ゾーン、複数軸ゾーン以外を選択したときは、アクティブな波形の Y 軸だけが表示されます。

各ゾーンの設定例

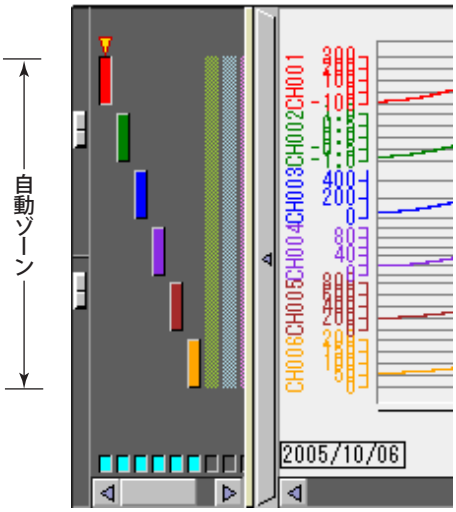
- フルゾーン



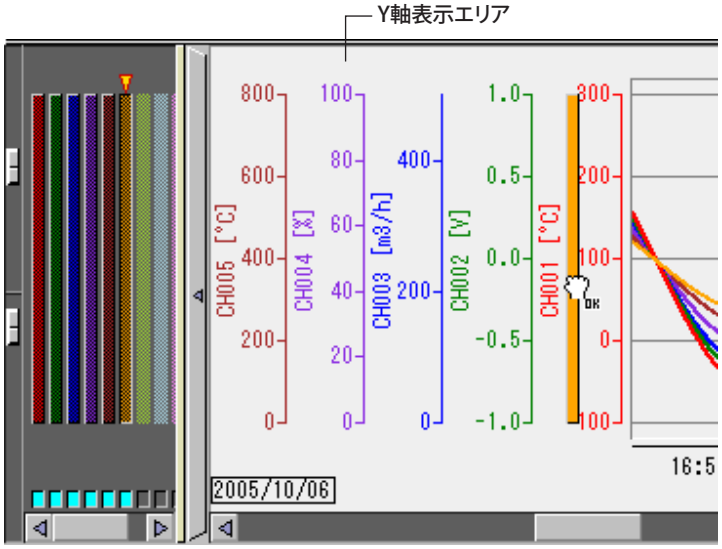
- スライドゾーン



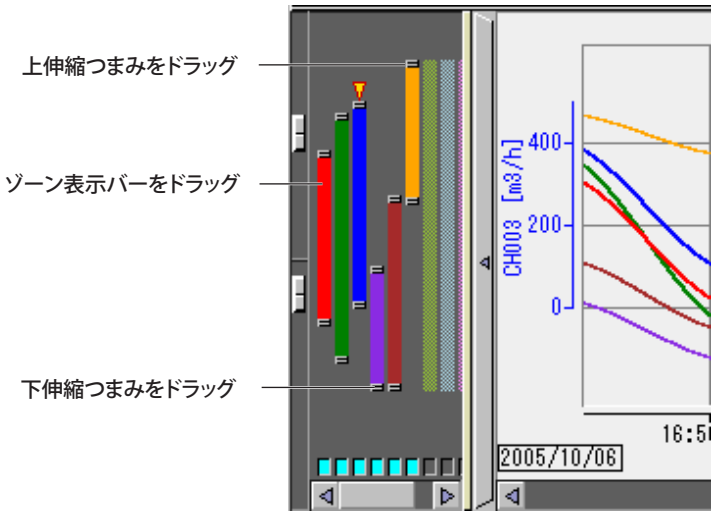
・ 自動ゾーン



・ 複数軸ゾーン



ゾーンの編集

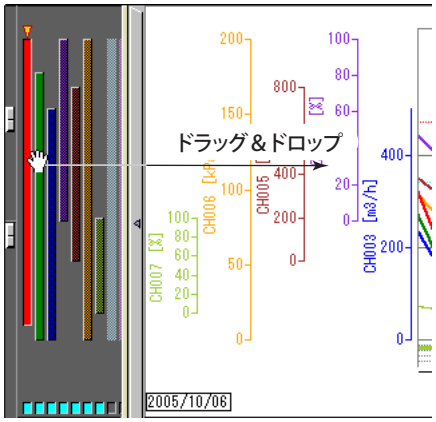


ツールバーの編集ゾーンアイコンをクリックするか、メニューバーの [Y 軸]-[編集ゾーン] を選択すると、波形表示画面上で波形表示ゾーンを変更できます。
上下の伸縮つまみをドラッグすると、ゾーンの大きさが変わります。ゾーン表示バーをドラッグすると、ゾーン全体が移動します。
[編集ゾーン] で変更したゾーンの設定は、[詳細設定] ダイアログボックスの [ゾーン] に反映されます。

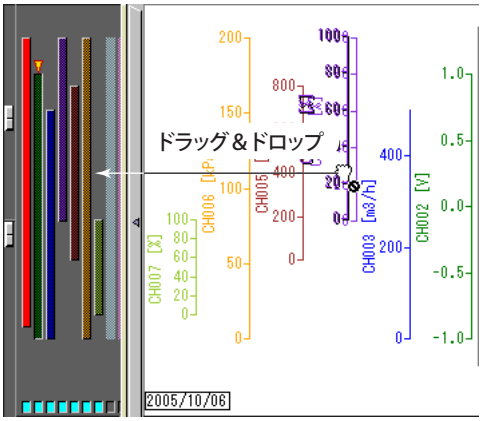
複数の Y 軸の表示

複数軸ゾーンが選択されているときに、[詳細設定] ダイアログボックスの [Y 軸] のチェックボックスがチェックされている波形の Y 軸スケールを表示します。

・ Y 軸の追加

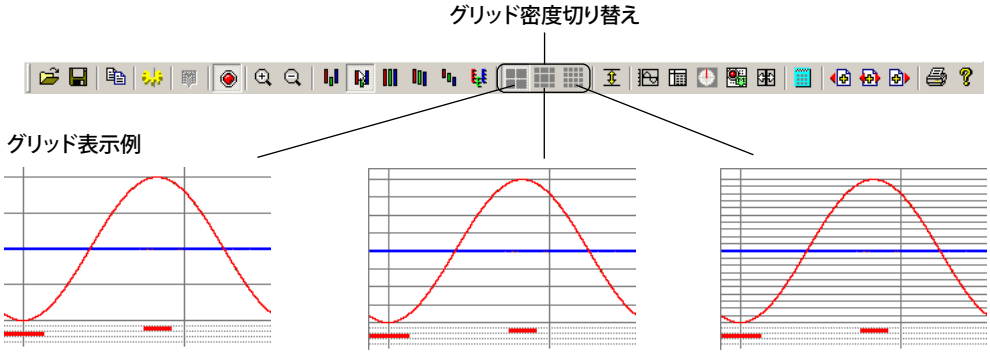


・ Y 軸の消去



グリッド表示の変更

ツールバーの [グリッド設定] をクリックするか、メニューバーの Y 軸をクリックしてグリッド種類を選択します。



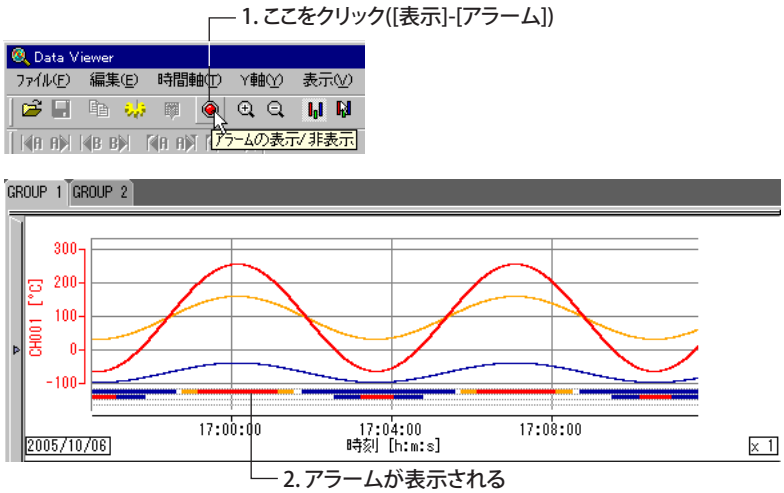
波形表示制限 (クリップ)

クリップアイコン ( ) をクリックするか、[Y 軸]-[クリップ] を選択して、波形表示制限を付けると、波形の Y 軸方向の表示範囲を [表示詳細設定] の [スケール] で設定した最小値から最大値までに制限できます。スケールの最小値より小さな測定値は最小値に、スケールの最大値より大きな測定値は最大値に張り付けて表示されます。

- **表示制限をした例**

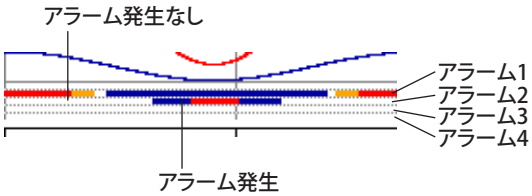
- **表示制限をしない例**

アラーム表示の ON/OFF



2.　アラーム表示エリアにアラーム 1 ～ 4 のアラーム状態が表示されます。

アラーム表示



チャネルの識別文字の選択

[表示]-[チャネル]/[タグ]/[タグ No.]* を選択すると、チャネルを識別する文字列を、チャネル番号、タグ、またはタグ No. から選択できます。選択した文字列が、波形を表すラベルとして使われます。

文字列は、記録計の本体またはハードウエア設定で登録します。

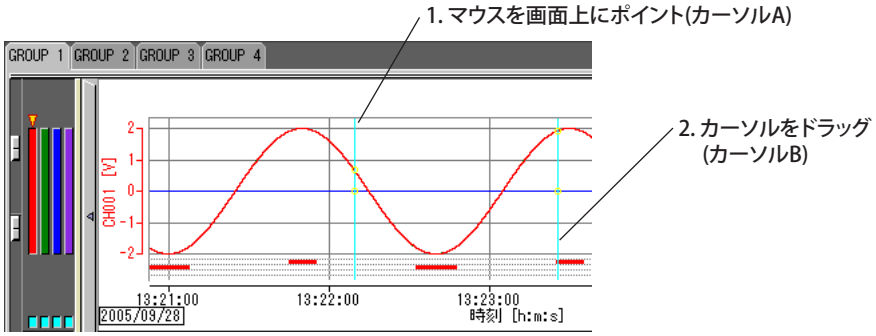
*　タグ No. は DX1000/DX1000N/DX2000 のリリースナンバー 3 以降の機能です。

Note

- チャネル / タグ / タグ No. の切り換えは下記の画面で共通です。
  波形表示ウインドウ、サーキュラ表示ウインドウ、ディジタル値ウインドウ、一覧表示ウインドウ、[カーソル値] ウインドウ、[演算結果] ウインドウ、[詳細設定] ダイアログボックス、チャネル選択ダイアログボックス、データ変換ダイアログボックス
- チャネル / タグ / タグ No. の表示
  波形表示ウインドウでは、ウインドウのサイズを小さくすると、すべての文字列が表示できないことがあります。そのほかの画面では、常にすべての文字列が表示されます。
- 測定データを Excel などの形式にデータ変換した場合、チャネル番号 / タグ / タグ No. のすべてがファイルに出力されます。

カーソル表示 / 消去

カーソルの表示

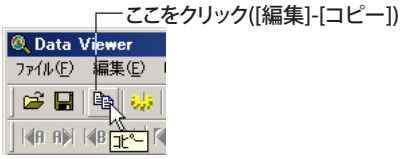


[編集]-[すべてを選択] を選択すると、カーソル A がデータの先頭に、カーソル B がデータの末尾に移動します。

カーソルの消去

[編集]-[カーソル消去] を選択します。

データのクリップボードへのコピー



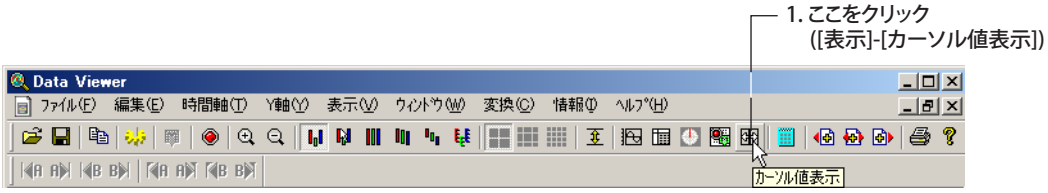
ディジタル値ウインドウ、一覧表示ウインドウ (2.6 節) で、カーソル A、カーソル B で囲まれた区間のデータをコピーし、Windows のクリップボードに貼り付けできます。波形表示ウインドウ、サーキュラ表示ウインドウでは、表示イメージをクリップボードにコピーできます。

Note

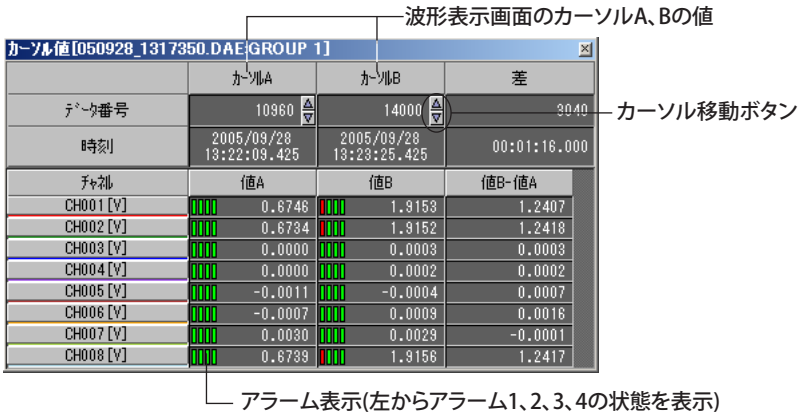
- クリップボードにコピーできるデータ数は、最大 1000 データです。
- クリップボードにコピーされるチャネルは、選択しているグループに登録しているチャネルで波形表示が ON になっているチャネルだけです。
- 時間は、時間軸の表示モードが時刻の場合は時刻を、時間の場合は先頭データからの相対時間が出力されます。
- クリップボードにコピーした内容は、他のアプリケーションソフトウエアに貼り付けて使用できます。

カーソル値の表示

カーソル値表示アイコンをクリックするか、[ウインドウ]-[カーソル値表示] を選択すると、[カーソル値] ダイアログボックスが表示されます。



2. [カーソル値]ダイアログボックスが開く



波形表示画面のカーソル A、B の値と差分を一覧表示します。カーソル移動ボタンをクリックすると、カーソル A、B の値を変更できます。
アラーム表示が ON のときは、アラーム状態が表示されます。アラームが発生していると赤、発生していないと緑で表示されます。

異常データのディジタル値表示

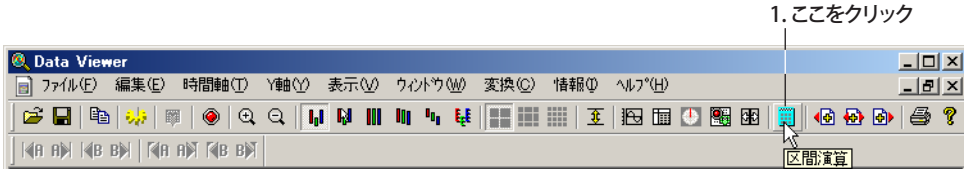
異常データは、次のように表示されます。

- ＋ OVER：　測定 / 演算データが＋レンジオーバ / ＋演算オーバ
- － OVER：　測定 / 演算データが－レンジオーバ / －演算オーバ
- LACK：　演算エラーやデータ抜け

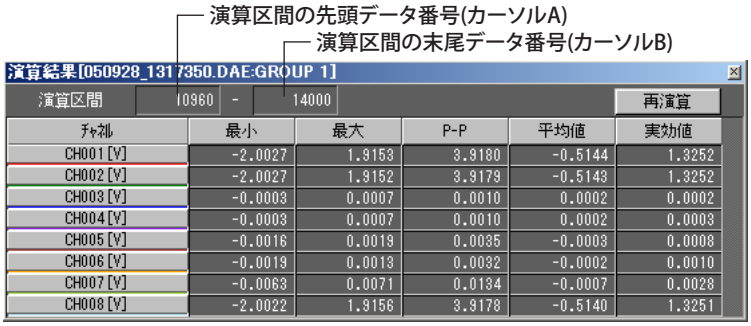
Note

波形表示画面にカーソルが表示されていないときは、カーソル値表示エリアは空欄になります。
「値 B －値 A」は INVALID になります。

区間演算値表示



2. 演算結果表示画面が開く



チャネル	最小	最大	P-P	平均値	実効値
CH001 [V]	-2.0027	1.9153	3.9180	-0.5144	1.3252
CH002 [V]	-2.0027	1.9152	3.9179	-0.5143	1.3252
CH003 [V]	-0.0003	0.0007	0.0010	0.0002	0.0002
CH004 [V]	-0.0003	0.0007	0.0010	0.0002	0.0003
CH005 [V]	-0.0016	0.0019	0.0035	-0.0003	0.0008
CH006 [V]	-0.0019	0.0013	0.0032	-0.0002	0.0010
CH007 [V]	-0.0063	0.0071	0.0134	-0.0007	0.0028
CH008 [V]	-2.0022	1.9156	3.9178	-0.5140	1.3251

Note

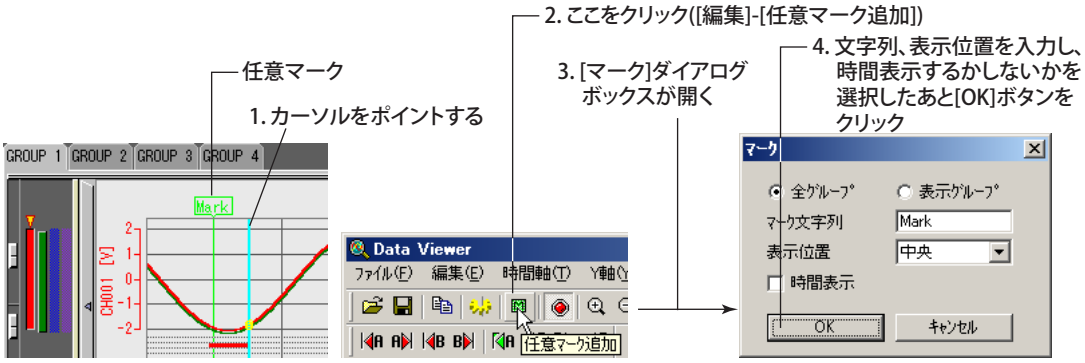
実効値の計算式

$$\text{実効値}=\sqrt{\frac{1}{n}\sum_{k=0}^{n-1}(x_k)^2}$$

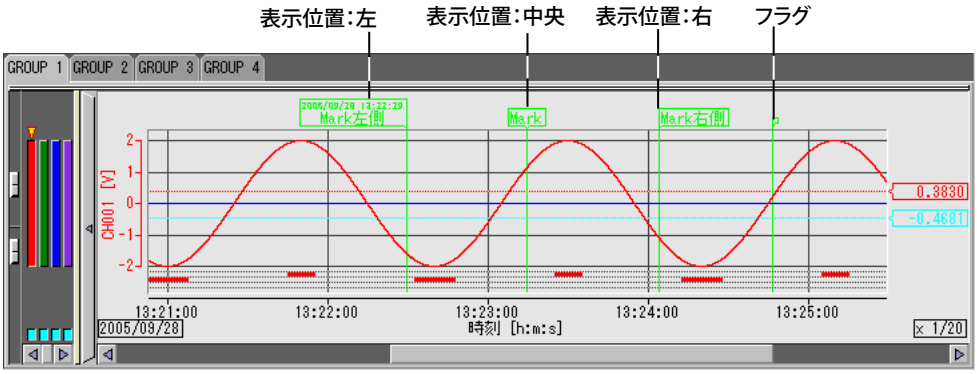
n：データ数
x_k：値

カーソル A、カーソル B で選択した範囲の波形ごとの最小値 / 最大値 /P-P/ 平均値 / 実効値を演算して、表示します。カーソルが表示されていないときは、全データを対象に演算します。
演算結果は、カーソル A、カーソル B と連動していないので、カーソル A、カーソル B の位置を変更した場合は、[演算結果] ダイアログボックスの [再演算] ボタンをクリックして演算結果を更新します。

任意マークの追加



カーソル A とカーソル B が同じ位置にあるときに、任意マークを付けることができます。任意マークを全グループ共通に付けるか、表示しているグループだけに付けるかを選択できます。また、マークの表示位置、時間をマークに表示するかしないかを設定できます。表示される時間は、時間軸の設定によって時刻または先頭データからの時間のどちらかです。



[Ctrl] キーを押しながらマークを左クリックすると最前面に表示されます。
[Shift] キーを押しながらマークを左クリックすると最背面に表示されます。
データビューアで作成した任意マークをダブルクリックすると、[マーク] ダイアログボックスが開き、表示グループとマーク名を変更できます。

アラーム変化点 / マーク位置の検索

アラーム変化点の検索

アクティブなチャネルのアラーム変化点 (アラーム発生点 / アラーム発生状態からの回復点) へカーソル A、またはカーソル B を移動させます。
カーソルの右方向への検索と左方向への検索ができます。

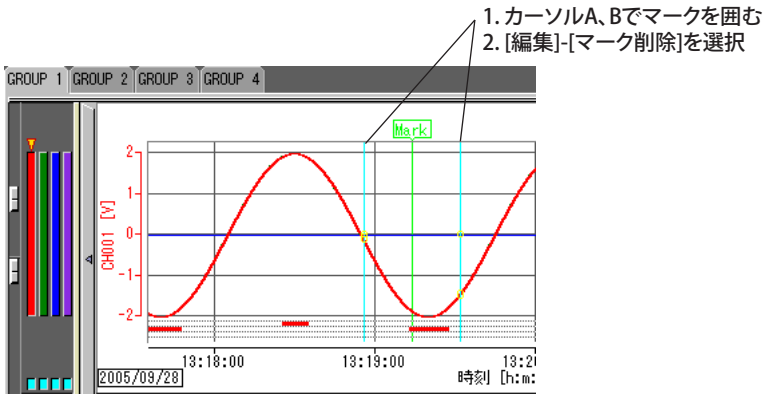
マーク位置の検索

アクティブなグループのマーク位置 (任意マーク / トリガマーク) へカーソル A、またはカーソル B を移動させます。
カーソルの右方向への検索と左方向への検索ができます。

Note

- カーソルが表示されていないときは、検索機能は使えません。
- 任意マークがないときや、アラーム表示が OFF のときは、検索機能は使えません。

マークの削除



カーソル A とカーソル B で囲まれた範囲にある任意マーク (緑 / 黄) とトリガマーク (黄色) を削除できます。

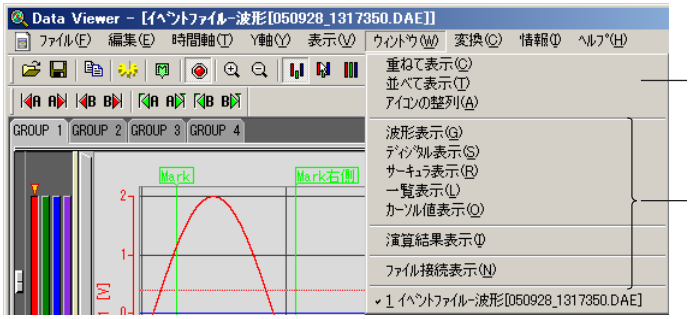
Note

- データビューア上で付けた任意マークは緑色、記録計側で付けた任意マーク (メッセージ) とトリガ点は黄色になります。
- マーク名として入力できる文字列は最大 32 文字です。

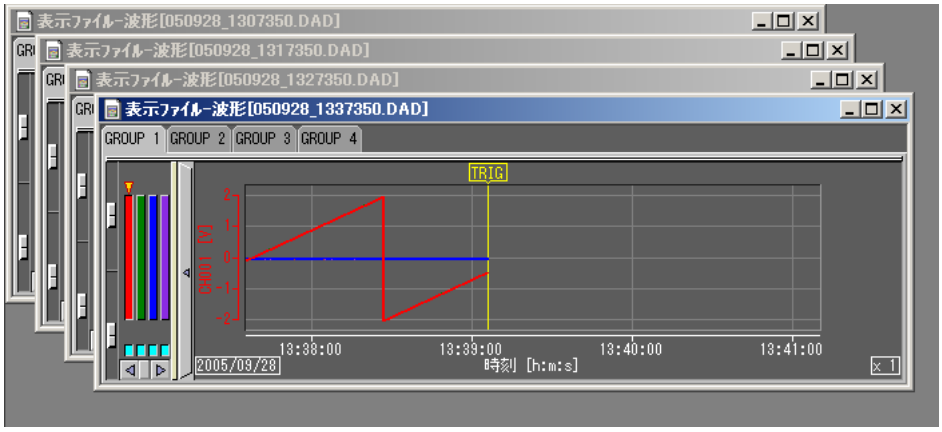
マーク表示の初期化

[編集]-[マークを初期状態に戻す] を選択すると、データビューア上で作成したすべての任意マークが削除されます。データビューアで削除した、記録計側で作成したマーク (メッセージ) とトリガ点は、表示されます。

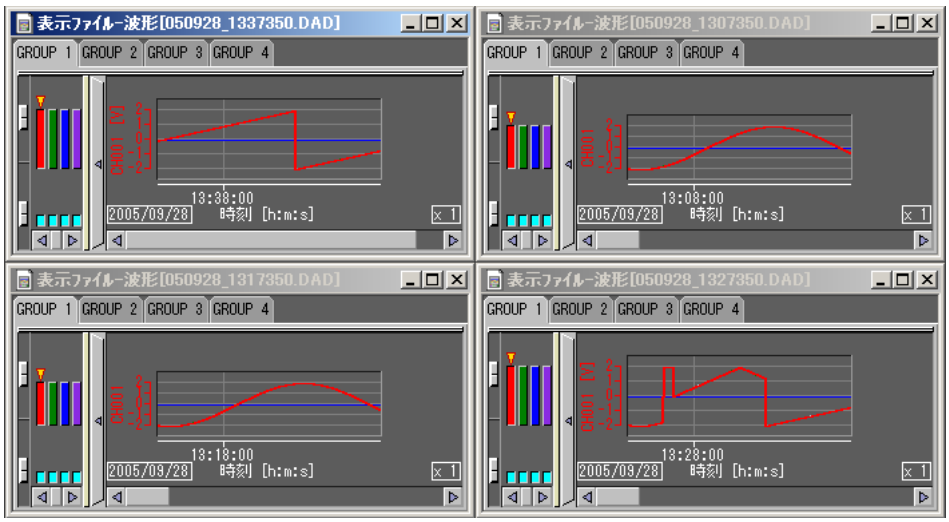
ウインドウの設定



- **重ねて表示の例**



- **並べて表示の例**

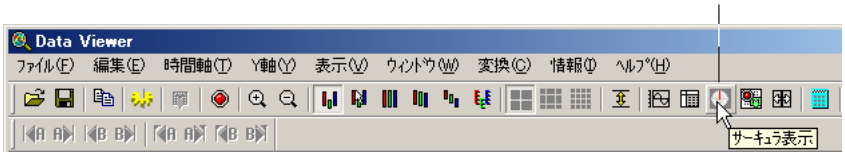


- **アイコンの整列の例**

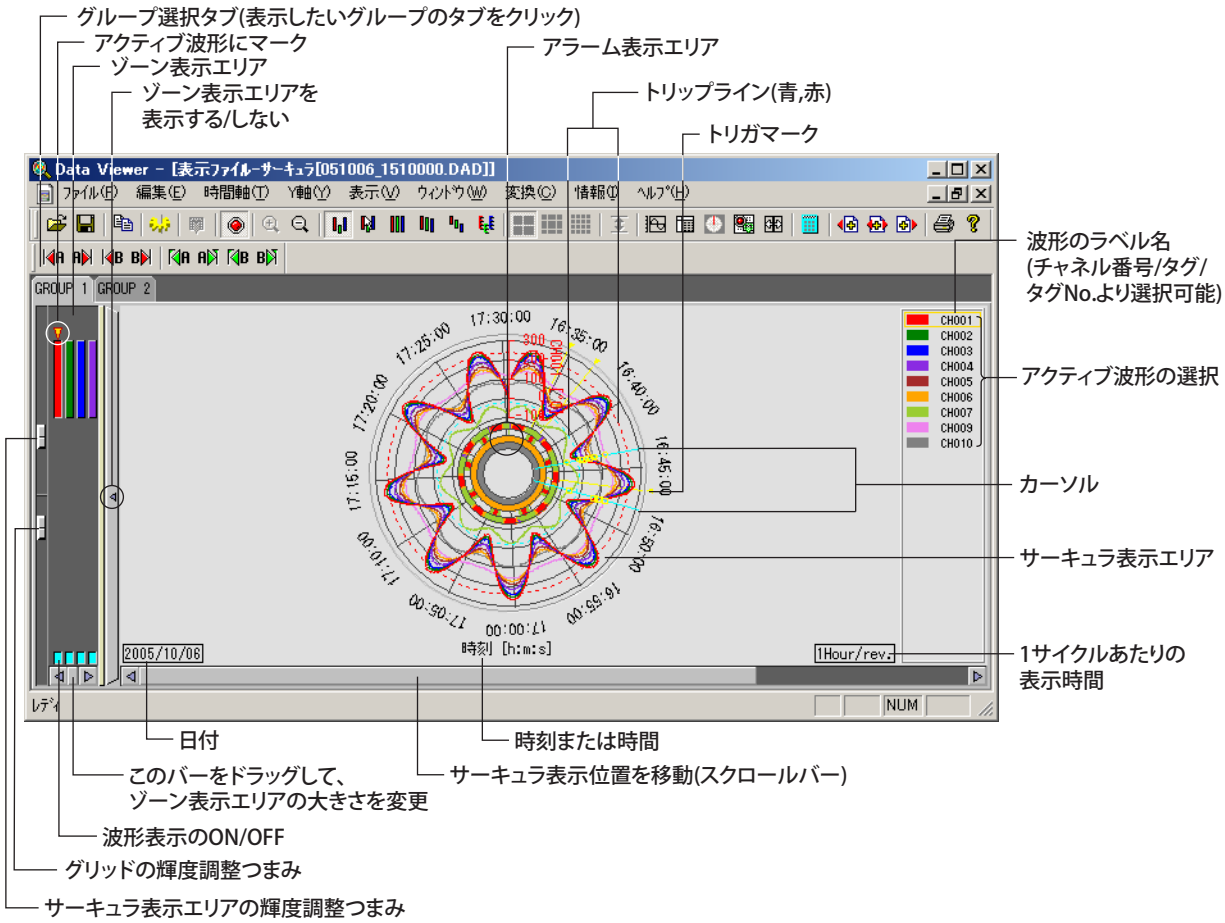
2.3 サーキュラを表示する

サーキュラ表示

1. ここをクリック([ウインドウ]-[サーキュラ表示])



2. サーキュラ表示画面が開く



表示の詳細設定

[表示の詳細設定] ダイアログボックスの各項目のうち、サーキュラ表示が波形表示 (2.2 節) と違う設定は次のとおりです。

トリップライン

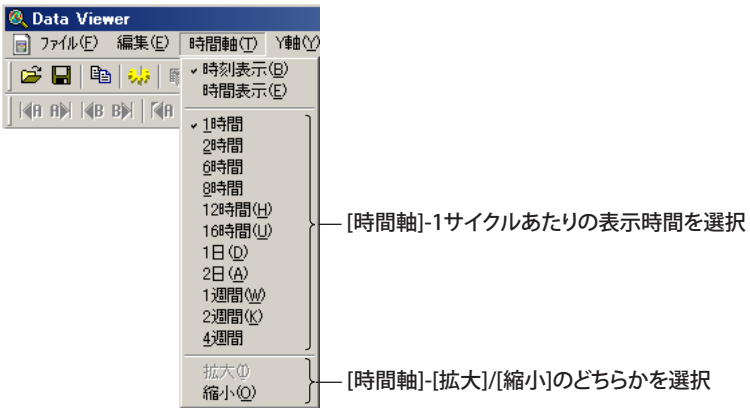
サーキュラ画面のトリップラインはドラッグ & ドロップできません。
[表示詳細設定] ダイアログボックスで数値を変更すると、サーキュラ画面のトリップラインの位置を変更できます。

時間軸の設定

時刻表示 / 時間表示の選択 , 時間軸の拡大 / 縮小

「2.2　波形を表示する」をご覧ください。

表示時間の選択



Y 軸の設定

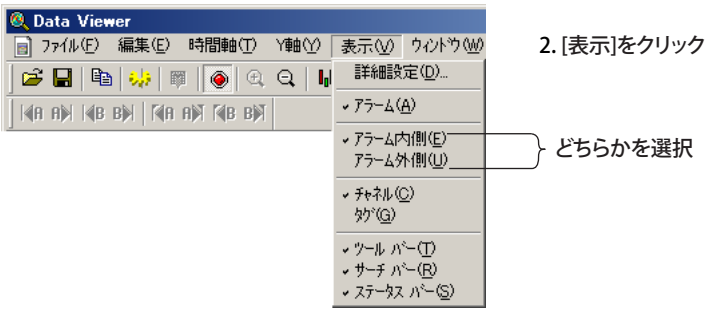
波形表示制限

サーキュラ画面では常に波形の Y 軸方向の表示範囲を、[表示詳細設定] の [スケール] で設定した最小値から最大値の範囲に表示制限した状態で表示されます。

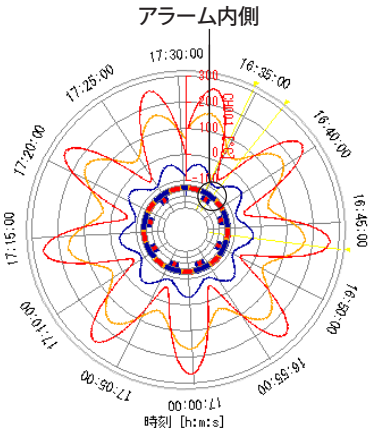
アラーム表示の ON/OFF

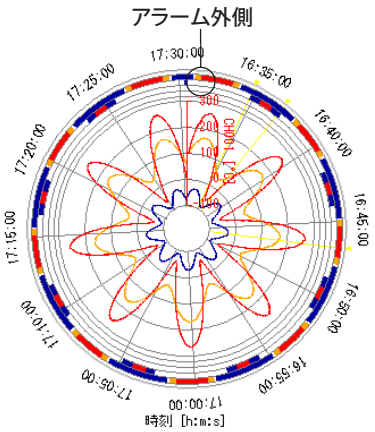
アラーム表示が ON の場合、アラームを表示する位置をサーキュラ画面の波形表示部分の内側か外側か選択できます。

1. アラーム表示のアイコンをクリックするか、[表示]-[アラーム]を選択



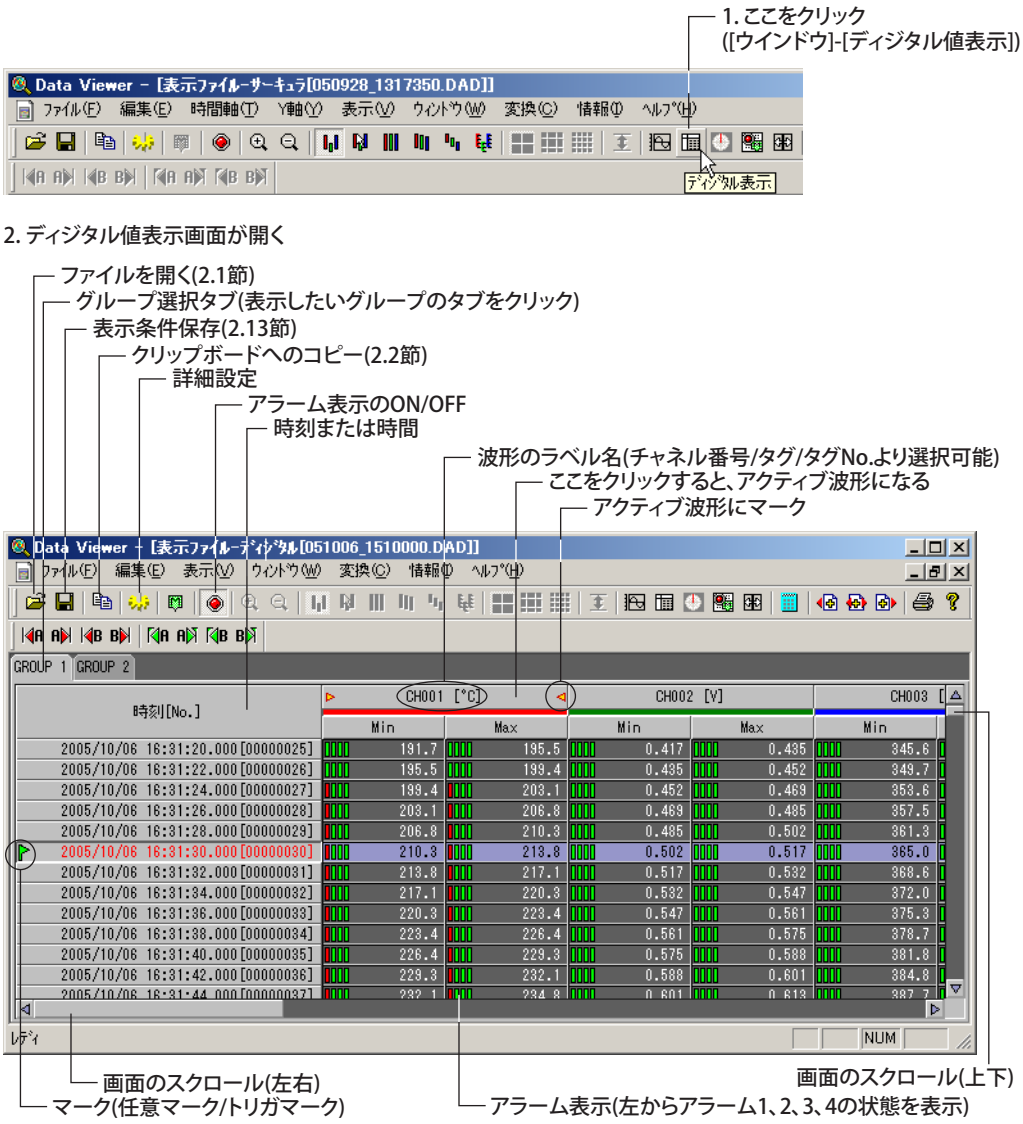
2. [表示]をクリック





2.4　ディジタル値を表示する

ディジタル値表示



ディジタル値表示の詳細設定

詳細設定アイコンをクリックするか、[表示]-[詳細設定] を選択すると [詳細設定] ダイアログボックスが開きます。[詳細設定] ダイアログボックスの各設定項目のうち、ディジタル値表示に関係のある設定は、次のとおりです。

- ディジタル値の通常表示 / 指数表示
- チャネルの登録、表示の ON/OFF

設定のしかたについて詳しくは、「2.2　波形を表示する」の「波形表示の詳細設定」をご覧ください。

時間軸の設定

[表示]-[時刻表示] または [時間表示] を選択します。さらに [形式] で時間の表示形式を選択します。

アラーム表示の ON/OFF

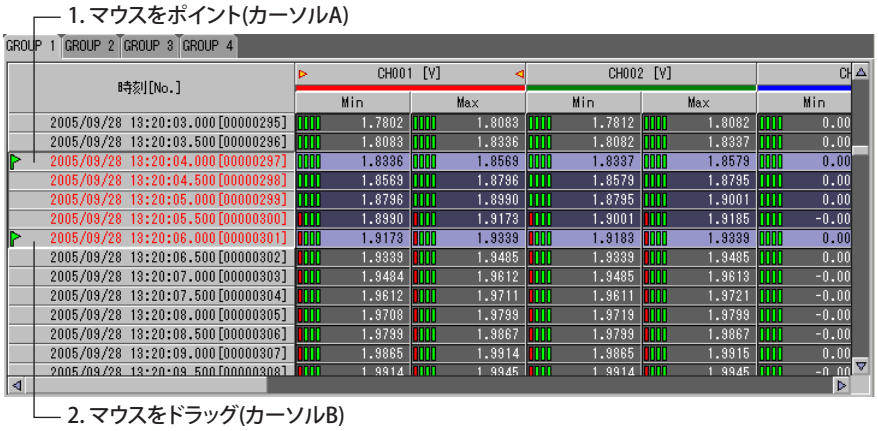
アラーム表示アイコンをクリックするか、[表示]-[アラーム] を選択してアラーム表示を ON にすると、アラーム 1 ～ 4 のアラーム状態が表示されます。アラームが発生していると赤、発生していないと緑で表示されます。

チャネルの識別文字の選択

詳しくは、「2.2　波形を表示する」の「チャネルの識別文字の選択」をご覧ください。

カーソル表示 / 消去

カーソルの表示



[編集]-[すべてを選択] を選択すると、カーソル A がデータの先頭に、カーソル B がデータの末尾に移動します。

カーソル値の表示 / 区間演算値の表示 / カーソルの消去

詳しくは、「2.2　波形を表示する」の「カーソル値の表示」、「カーソルの消去」、または「区間演算値表示」をご覧ください。

任意マークの追加 / マークの削除 / マーク表示の初期化

詳しくは、「2.2　波形を表示する」の「任意マークの追加」/「マークの削除」/「マーク表示の初期化」をご覧ください。

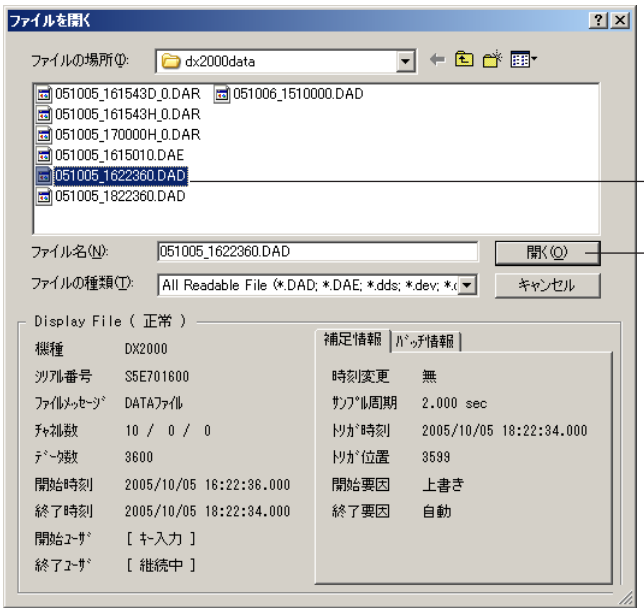
2.5 ファイルを接続する / 接続情報ファイルを保存する

ファイルの接続

記録計のオートセーブ、停電などで分割したファイルをつなげて表示できます。
接続できるのは同一ディレクトリ内にあるファイルだけです。接続方法にはツールバーからとメニューバーからの 2 通りの接続方法があります。

1. ここをクリック([ファイル]-[開く])

2. [ファイルを開く]ダイアログボックスが開く



3. 起点となるファイルを選択

4. ここをクリック
ファイルが開く

ツールバーから

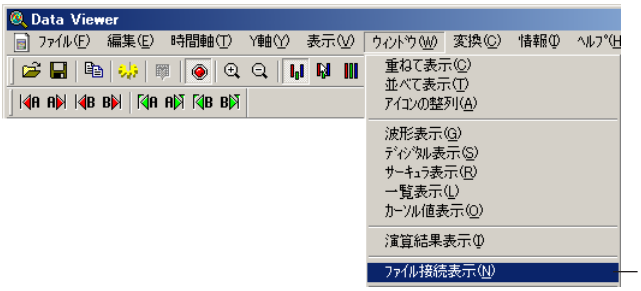
5. どれかをクリック

[ファイル]-[前方ファイルを接続]
[ファイル]-[一括接続]
[ファイル]-[後方ファイルを接続]

前後のファイルを一括接続

R7.21 以降の機能です。
作業中のファイルに、前後のファイルを一括接続して表示できます。接続できるすべてのファイルが結合されて表示されます。

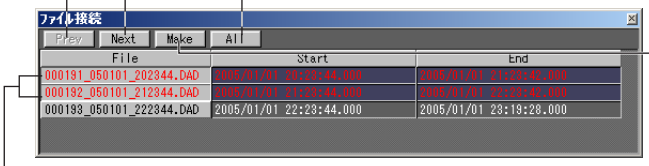
メニューバーから



5. ここを選択
[ウィンドウ]-[ファイル接続表示]

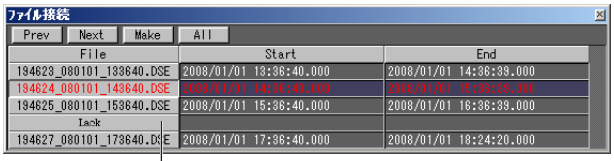
6.「ファイル接続」ダイアログボックスが開く

8. [Prev](前方ファイル)/[Next](後方ファイル)/[All](前方、後方ファイル)のどれかを選択



7. ここをクリック
(接続候補のファイルを表示)

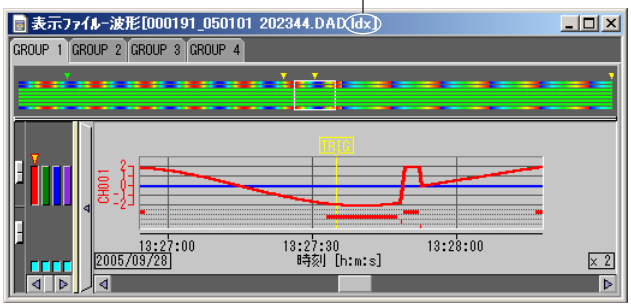
9. 接続したファイルの色を変えて表示



バッチファイルの中間ファイルが抜けているとファイル名に「Lack」と表示する

10. 接続されたファイルを表示

接続情報ファイルの保存操作(次ページを参照)を行うと、
元のファイル名の後ろに拡張子.Idxがつく



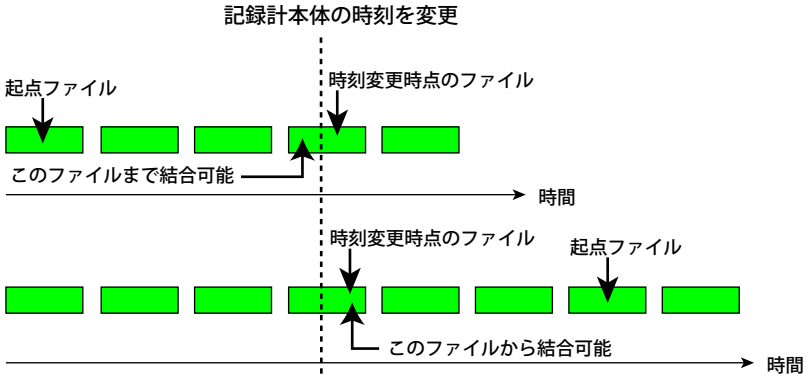
Note

- ファイルを接続表示する場合、接続したあとのデータ数が 5242880 を超えないようにしてください。
  また、停電などでデータのない期間がある場合は、データのない期間も所定の測定周期でデータを取り込んでいるものとしてデータ数をカウントします。以下に測定周期と接続できる最長期間を示します。

周期	期間
25ms	36.4 時間
125ms	7.5 日
1s	60.6 日
10s	606.8 日

たとえば、125ms 周期で連続してデータを取り込んでいるときに 1 週間以上の停電があった場合、停電前のデータと停電後のデータを接続表示することはできません。

- 記録計本体の時刻が変更される前のファイルを開いた状態でファイル接続する場合、時刻変更された時点のファイルまで結合できます。記録計本体の時刻が変更されたあとのファイルを開いた状態でファイル接続する場合、時刻変更された時点のファイルから結合できます。



- 接続データ表示は起点ファイルの時刻を基準に表示されます。

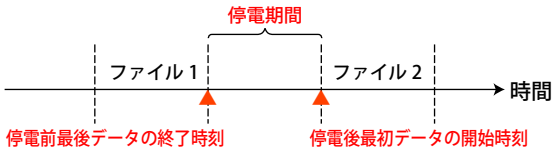
データファイルの接続時のデータ数計算

ファイル接続したときのデータ数の計算方法について説明します。

すべてのデータが揃っている場合のデータ数計算

停電無、時刻変更無のとき、各データのデータ開始、終了番号をもとにデータ数を計算します。
時刻変更有のとき、接続しているデータのなかに時刻変更有のデータが存在しても時刻変更を無視し、各データのデータ開始、終了番号でデータ数を計算します。
停電有のとき、停電期間中に NoData を挿入しますが、挿入するデータ数は、次の計算式で求めます。

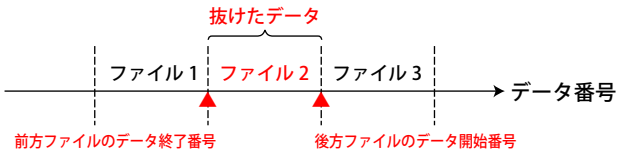
$$[\text{挿入する NoData のデータ数}] = \frac{[\text{停電後最初データの開始時刻}] - [\text{停電前最後データの終了時刻}]}{[\text{収集周期}]} - 1$$



中間データが抜けている場合のデータ計算

DX100P/DX200P と DX1000/DX1000N/DX2000 の /AS1 オプション付き機器のバッチデータファイルの中間データが抜けているとき、NoData を挿入しますが、挿入するデータ数は、次の計算式で求めます。

[挿入する NoData のデータ数]=[後方ファイルのデータ開始番号]−[前方ファイルのデータ終了番号]−1



接続情報ファイルの保存

[ファイル]-[表示条件保存] を選択すると、接続したファイルと同じディレクトリに保存します。
ファイル名は、元のファイル名に拡張子 .ldx がついた名前になります。
[ファイル]-[名前を付けて表示条件保存] を選択すると、ファイル名を指定して保存できます。

Note

拡張子 .ldx のファイルは、接続情報を保存したファイルです。再度、接続された状態でファイルを開くには、元のデータファイルが必要です。

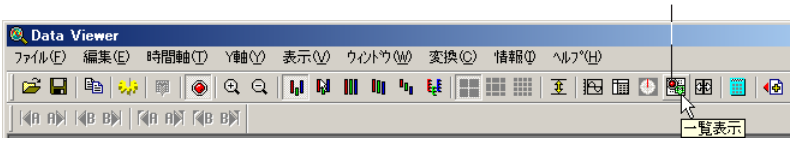
ファイルの接続と表示条件の保存

データファイルを開いてファイル接続、表示条件保存、名前を付けて表示条件保存したときの状態や、画面を閉じるときの表示条件保存について、「2.13　表示条件を保存する」をご覧ください。

2.6 アラーム / マーク / 制御動作を一覧表示する / 変換出力する

表示データファイル / イベントデータファイルを開いた状態で、アラーム、マーク、制御動作を一覧表示します。

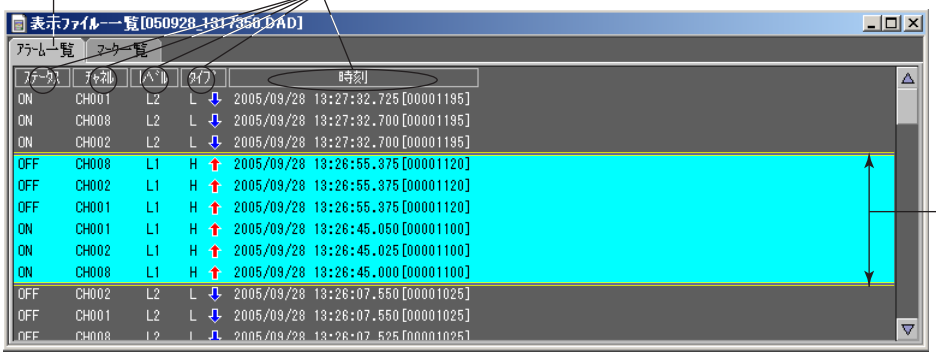
1. ここをクリック
([ウインドウ]-[アラーム/マーク一覧表示])



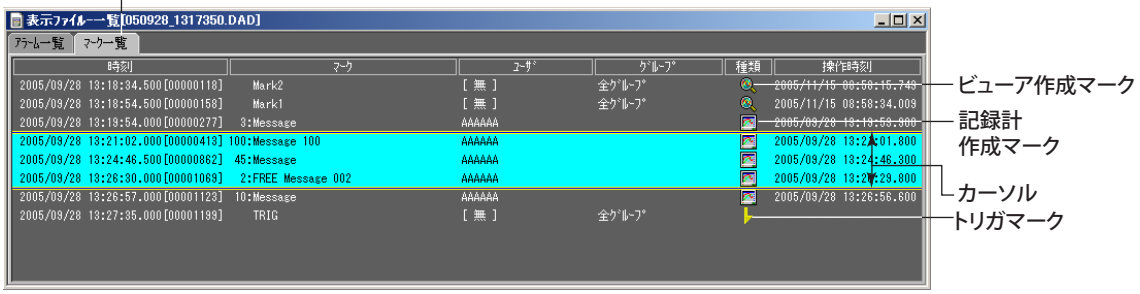
2. [表示ファイル一覧]ダイアログボックスが開く

3. [アラーム一覧]タブをクリック

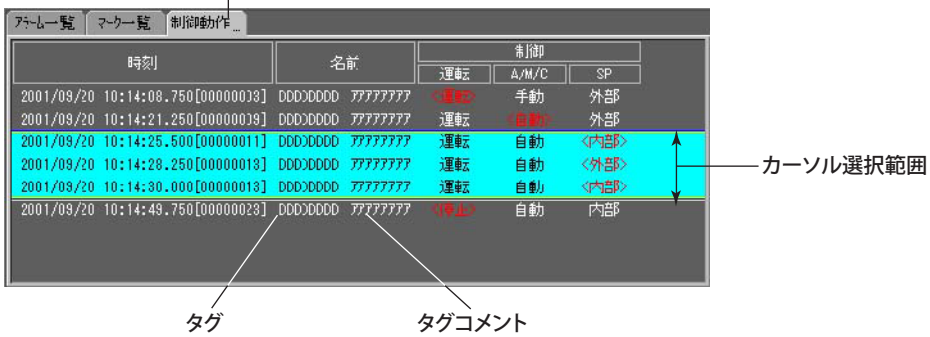
ラベル



3. [マーク一覧]をクリック



3. [制御動作一覧]をクリック



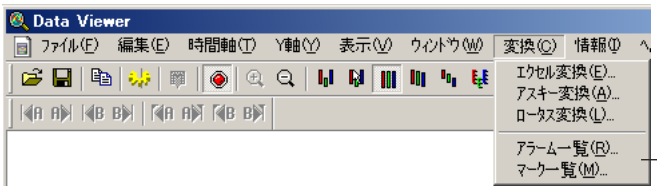
[アラーム一覧] でラベルをクリックすると各項目でソートします。1 回目のクリックで昇順、2 回目のクリックで降順になります。

Note

[アラーム一覧] 表示画面でドラッグするとポインタを表示します。波形表示 / サーキュラ表示 / 数値表示 / カーソル値表示のカーソルは、このポインタと連動していません。

アラーム / マーク / 制御動作一覧を変換出力する

アラーム一覧 / マーク一覧 / 制御動作一覧をエクセル、アスキー、ロータスに変換します。



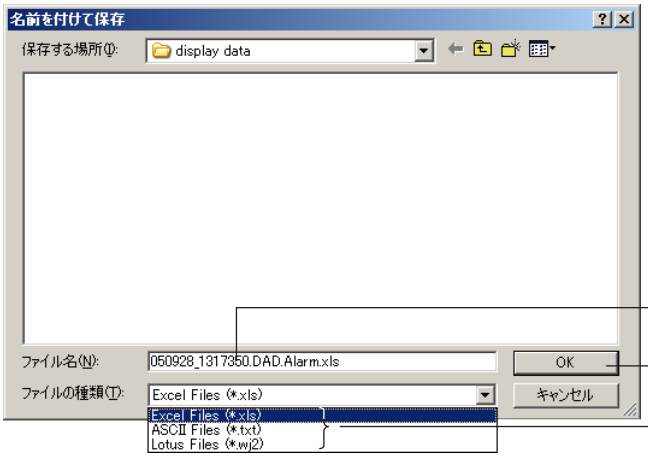
1. ([変換]-[アラーム一覧]/[マーク一覧]を選択

2. [アラーム一覧]/[マーク一覧]ダイアログボックスが開く

3. ここをクリック

6. ここをクリック

4. [ファイル名を付けて保存]ダイアログボックスが開く



ファイル名を入力

5. 各項目を設定してここをクリック

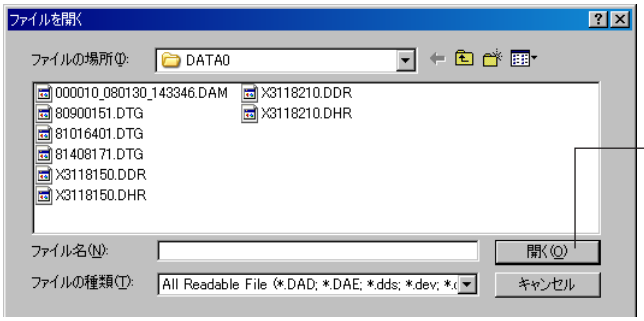
どれかを選択

変換後のファイルの形式については、2.15 節をご覧ください。

2.7 マニュアルサンプルデータファイルを表示する

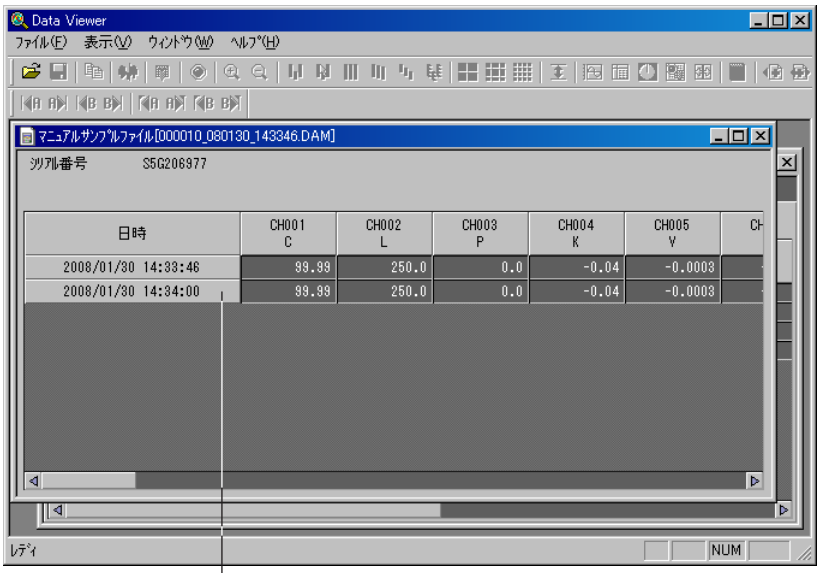
マニュアルサンプルデータファイルを表示します。

1. ファイルを開くアイコンをクリックするか、[ファイル]>[開く]を選択。



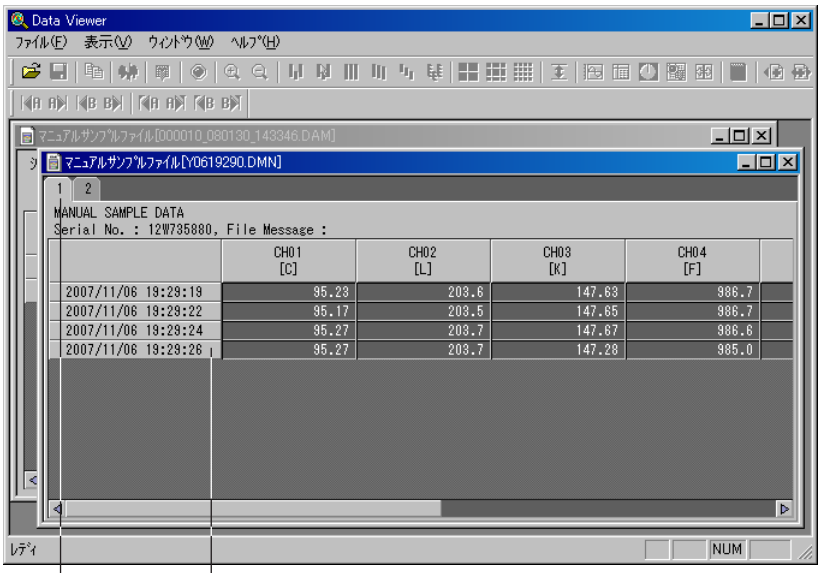
2. 目的のファイルを選択し、
[開く]ボタンをクリック。
拡張子:「.DAM」または「.dmn」

DX1000、DX1000N、DX2000、MV1000、MV2000のマニュアルサンプルデータファイル(拡張子:DAM)



マニュアルサンプルを実施した日時

CX1000、CX2000、DX100、DX200、DX200C、MV100、MV200のマニュアルサンプルデータファイル(拡張子:dmn)



マニュアルサンプルを実施した日時

ファイル内に異なる条件で収集されたマニュアルサンプルデータがある場合、タブに分けて表示されます。

2.8 操作履歴を一覧表示する / 設定変更操作時の設定データを表示する / 変換出力する

操作履歴の一覧表示

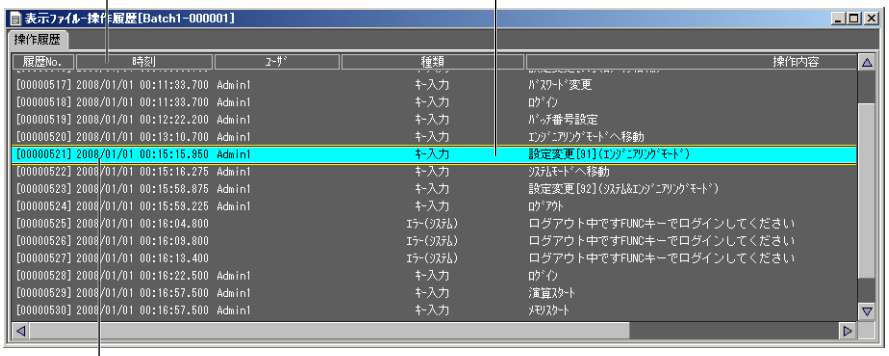
DX100P/DX200P の表示データファイルとイベントデータファイル、リリースナンバー 4 の /AS1 オプション付き DX1000/DX1000N/DX2000 の表示データファイルとイベントデータファイルについて、操作履歴を表示します。

1. ここをクリック [ウィンドウ]-[操作履歴一覧表示]

2. [操作履歴] 画面が開く

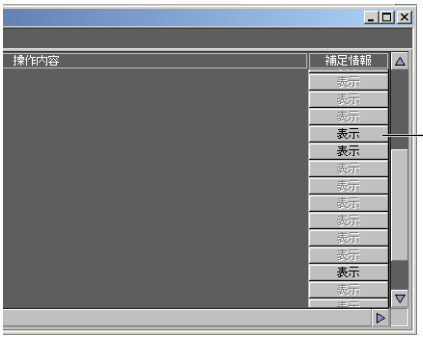
時刻、または時間
[表示]-[時刻表示]、または [時間表示] で表示切り替え

3. 設定変更のアイテムを選択してダブルクリック
該当設定ソフトウエアが存在しない場合は
メッセージ E3132 を表示



次のリストは陰影表示される

- 設定変更の項目
- ビューア起動時に該当するソフトウエアが存在する
- ダブルクリックしたときビューアが起動してから該当する設定ソフトウエアが存在する状態 (存在しない状態が一度もない)



補足情報表示ボタン
ダブルクリックすると
「補足情報」画面が表示される (2-46 ページ参照)

4. 該当する「設定シリアル番号」の設定ファイルを検索
該当設定ファイルが見つからない場合は、メッセージ E3124 を表示

5. 該当設定ソフトウエアが起動する (2-46 ページ参照)

操作履歴の項目

操作履歴の項目とその内容を項目ごとに説明します。

- **履歴 No.**
  当該操作履歴の通し番号です。
- **時刻 / 時間**
  時刻：ログ発生の時刻を「yyyy/mm/dd hh:mm:ss.mmm」のフォーマットで表示します。
  yyyy：西暦、mm：月、dd：日、hh：時、mm：分、ss.mmm：秒
  時間：先頭データを基準とした相対時間を「d hh:mm:ss.mmm」のフォーマットで表示します。
  d：日、hh：時、mm：分、ss.mmm：秒
- **ユーザ**
  ユーザ名を表示します。
- **種類**
  レコーダ製品別に表示内容を記載します。
  エラーや警告発生した場合は、「エラー (種類)」、「警告 (種類)」と表示します。たとえば、キー入力時にエラーが発生した場合、「エラー (キー入力)」と表示します。キー入力時に警告が発生した場合、「警告 (キー入力)」と表示します。

種類の表示内容

機器種類	DX100P/DX200P	DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付き
表示内容	キー入力 リモート入力 USER キー入力 通信入力 PC ソフト 測定サーバ (モニタ) FTP サーバ 診断サーバ (セッティング) 診断サーバ (モニタ) シリアル通信 本機器による操作 不明	キー入力 リモート入力 通信入力 イベント システム PC ソフト 不明

- **操作内容**
  操作の内容を記載します。

DX100P/DX200P の操作内容一覧

操作内容	詳細情報	画面に表示する文字 (太字は表示文字、細字は説明)
エラー発生	エラーコード	別表「操作履歴のエラーコード一覧」参照
警告発生	エラーコード	別表「操作履歴のエラーコード一覧」参照
ログイン	―	**ログイン**
ログアウト	―	**ログアウト**
パスワード無効	―	**パスワード無効**
メモリスタート	―	**メモリスタート**
メモリストップ	―	**メモリストップ**
アラーム ACK	―	**アラーム ACK**
メッセージ	―	**メッセージ**
マニュアルサンプル	―	**マニュアルサンプル**
トリガ	―	**トリガ**
演算スタート	―	**演算スタート**
演算ストップ	―	**演算ストップ**
演算リセット	―	**演算リセット**
演算抜け ACK	―	**演算抜け ACK**
スナップショット	―	**スナップショット**
メールスタート	―	**メールスタート**

(次ページへつづく)

操作内容	詳細情報	画面に表示する文字 (太字は表示文字、細字は説明)
メールストップ	―	**メールストップ**
表示データセーブ	―	**表示データセーブ**
イベントデータセーブ	―	**イベントデータセーブ**
表示データロード	―	**表示データロード**
イベントデータロード	―	**イベントデータロード**
設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号]
時刻変更前	―	**時刻変更前**
時刻調整前	―	**時刻調整前**
時刻変更 (調整) 後	―	**時刻変更 (調整) 後**
停電発生	―	**停電発生**
停電復帰	―	**停電復帰**
ログイン情報ロード	―	**ログイン情報ロード**
クリア 1 実行	―	**クリア 1 実行**
クリア 2 実行	―	**クリア 2 実行**
クリア 3 実行	―	**クリア 3 実行**
バッチ番号設定	―	**バッチ番号設定**
ロット番号設定	―	**ロット番号設定**
パスワード無効	―	**パスワード無効**
設定セーブ (システムモード)	―	**設定セーブ (システムモード)**
設定セーブ (エンジニアリングモード)	―	**設定セーブ (エンジニアリングモード)**
設定ロード (システムモード)	―	**設定ロード (システムモード)**
設定ロード (エンジニアリングモード)	―	**設定ロード (エンジニアリングモード)**
システムモード設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号]**(システムモード)**
エンジニアリングモード設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号]**(エンジニアリングモード)**
エンジニアリングモード設定変更 + システムモード設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号]**(システム & エンジニアリングモード)**
ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号]**(ログイン情報)**
システムモード設定変更 + ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号]**(システムモード & ログイン情報)**
A/D 校正モードログイン	―	**A/D 校正モードログイン**
A/D 校正実行	―	**A/D 校正実行**
不正アクセス ACK	―	**不正アクセス ACK**
パスワード変更	―	**パスワード変更**
シャットダウン	―	**シャットダウン**
ファイルアップロード	―	**ファイルアップロード**
ファイルダウンロード	―	**ファイルダウンロード**
入力値補正点数変更	チャネル番号 / 旧点数 / 新点数	**入力値補正点数変更 (CH** チャネル番号：旧点数 -> 新点数 **)**
入力値補正値変更	チャネル番号 / 補正点 / 補正値	**入力値補正値変更 (CH** チャネル番号 **No.** 補正点：補正値 **)**
演算リセット	チャネル番号	**演算リセット (CH チャネル番号)**
徐々に時刻調整の開始	調整時刻との誤差	**徐々に時刻調整の開始 [** 調整時刻との誤差 (符号、分、秒、ミリ秒、マイクロ秒)]
徐々に時刻調整の終了	―	**徐々に時刻調整の終了**
SNTP による時刻変更	―	**SNTP による時刻変更**
夏時間 / 冬時間切り替え	―	**夏時間 / 冬時間切り替**
内部メモリからのデータ保存	―	**内部メモリからのデータ保存**

(次ページへつづく)

操作内容	詳細情報	画面に表示する文字 (太字は表示文字、細字は説明)
エンジニアリングモード設定変更 + ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号](**ログイン情報 & エンジニアリングモード**)
エンジニアリングモード設定変更 + システムモード設定変更 + ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更** [設定ファイルシーケンス番号](**すべて**)

エラー、警告に対するメッセージ内容は次のとおりです。

操作履歴のエラーコード一覧

エラーコード	メッセージ内容
1	システムエラー
2	日付、時刻設定が間違っています。
3	設定できないチャネルを選択しています。
4	ファンクション、パラメータの設定が間違っています。
5	入力した数値が設定範囲を超えています。
6	入力した文字列が正しくありません。
7	文字列長を超えて設定しています。
8	入力したモードが正しくありません。
9	入力したレンジコードが正しくありません。
21	スキップ設定チャネルにアラームを設定しています。
22	スパン設定の上限値と下限値が同じ値です。
23	スケール設定の上限値と下限値が同じ値です。
30	部分圧縮拡大表示の境界値がスパン設定の範囲を超えています。
31	スキップ設定チャネルに部分圧縮拡大表示を設定しています。
35	表示ゾーンの下端位置と上端位置が同じ値です。
36	表示ゾーンの下端位置が上端位置より大きい値です。
37	表示ゾーンの下端位置と上端位置の幅が 4% 以下です。
40	グループ設定文字列の記述が間違っています。
41	指定された入力チャネルがありません。
42	設定可能なチャネル数を超えています。
43	1 つのグループに同じチャネルを 2 回以上設定しています。
45	クリップボードに保存された文字列がありません。
46	クリップボードに保存された文字列が長すぎます。
47	開始時刻と終了時刻の設定値が同じ値です。
48	存在しない時間を設定しています。
61	演算式で指定されたチャネルがありません。
62	演算式の文法が間違っています。
63	演算式の前後関係が間違っています。
64	演算の上限値と下限値が同じ値です。
70	演算定数の記述が間違っています。
71	演算定数の設定範囲を超えています。
80	既に同じユーザ名が登録されています。
81	オールスペースまたは 'quit' は指定できません。
82	セットアップモードに入ることができるユーザがいません。
83	ユーザ ID とパスワードの組合せが他のユーザか過去の設定と重複しています。
85	ログインのパスワードが間違っています。
86	キーロック解除のパスワードが間違っています。
87	キーロックされています。
88	指定のファンクションはキーロックされています。
89	ログアウト中です。FUNC キーでログインしてください。
90	セットアップモードに入る権限がありません。
91	パスワードが間違っています。
92	ESC キーでオペレーションモードにもどってください。
93	スペースを含む文字列またはオールスペースは設定できません。
94	複数のアドレスは設定できません。
95	この機能はロックされています。
100	IP アドレスがクラス A、B、C のいずれにも属しません。
101	IP アドレスをマスクした結果が全て 0 または 1 です。

(次ページへつづく)

エラーコード	メッセージ内容
102	サブネットマスクの設定が正しくありません。
103	デフォルトゲートウェイのアドレスが IP アドレスと一致しません。
104	MANUAL セーブでは FTP クライアントの指定はできません。
110	登録されていないユーザ名です。
111	ログインのユーザ ID が間違っています。
112	パスワードは 6 文字以上入力して下さい。
113	変更したパスワードと違います。
114	現在このユーザ名は無効です。
115	リレー出力が保持設定の場合、表示設定を非保持設定にできません。
116	このユーザ名は使用できません。
117	パスワードは無効になりました。
118	不正なアクセスをしたためログアウトしました。
119	このモードに入れないユーザ名です。
120	入力値の設定が正しくありません。(小さい順に設定してください)
121	すでにログインしているユーザがいます。
122	測定した数値が設定範囲を超えています。
123	測定に関する変更が行われたため [測定] 機能が使えません。
124	パスワード文字列の入力はできません。
125	文字列の入力はできません。
150	メモリサンプル中なので変更 / 実行できません。
151	メモリサンプル中または演算中のため実行できません。
152	メディアセーブ中なので変更 / 実行できません。
153	メディアフォーマット中なので実行できません。
155	メモリサンプル停止中にはメッセージ書き込みできません。
156	メモリに保存するチャネルがありません。
157	現在実行できる状態ではありません。
158	調整する範囲外のため時刻設定できません。
160	指定のデータはロードできません。内部メモリの設定を変更してください。
170	設定ファイルの保存に失敗したため終了できません。
171	選択されたファイルはロードする情報を持っていません。
172	確定していない設定があるため実行できません。
173	メディアの空き容量が不足しています。メディアへのセーブを中断しました。
200	メディアにエラーを検出したので中断しました。
201	メディアの空き容量が不足しています。
202	メディアが書き込み禁止になっています。
210	メディアが挿入されていません。
211	メディアが壊れているかフォーマットされていません。
212	フォーマットエラー
213	ファイルが書き込み禁止になっています。
214	ファイルもしくはディレクトリがありません。
215	作成可能なファイル数を超えました。
216	ファイル名もしくはディレクトリ名が正しくありません。
217	本機器では扱えないファイルです。
218	同じディレクトリがあります。ディレクトリ名を変えるか削除してください。
219	ファイルもしくはディレクトリ操作が不適当です。
220	指定のファイルは既にアクセス中です。しばらく待って操作してください。
230	設定ファイルがありません。
231	設定ファイルの内容に異常がありました。
232	データがありません。
233	指定されたヒストリカルデータは存在しません。
234	指定されたチャネルは表示グループに割り付けられていません。
240	すでにサインインされているため、サインインすることができません。
241	サインインできるファイルが存在しません。
242	サインイン情報がありません。
243	サインインが許可されていないファイルです。
244	データが異常であるか変更されています。
245	サインイン専用ヒストリカル画面にいるため実行できません。
246	メディアに保存されていないデータがあるため実行できません。
247	エンジニアリングモード画面にいるため実行できません。
248	サインイン処理ができませんでした。
260	アドレスが設定されていないかイーサネットが機能していません。

(次ページへつづく)

エラーコード	メッセージ内容
261	SMTP サーバが見つかりません。
262	メールの送信を開始できません。
263	送信元アドレスがサーバに拒否されました。
264	送信先アドレスに不適切なアドレスが含まれています。
265	メールの送信の手続きにエラーが発生しました。
266	イーサネットケーブルが接続されていません。
267	SMTP サーバにコネクションできませんでした。
268	メール送信要求に失敗しました。
269	メール送信中に通信エラーが発生しました。
275	現在の画面は Web 上に出力できません。
276	現在画像データ作成中のため Web 上のキー操作はできません。
277	画面を Web 上に出力できませんでした。
278	ログイン中のため、Web 上のキー操作はできません。
280	アドレスが設定されていないか、FTP が機能していません。
281	不適当な FTP メールボックス操作が行われました。
282	FTP コントロールコネクションにエラーが発生しました。
283	FTP コマンドが受理されませんでした。
284	FTP のデータ転送手続きに失敗しました。
285	FTP データコネクションにエラーが発生しました。
286	FTP がファイルアクセスに失敗しました。
287	FTP で転送するファイルの取得に失敗しました。
290	SNTP が機能していません。
291	タイムサーバが応答しません。
292	タイムサーバの指定が不正です。
293	タイムサーバが不正な応答を返しました。
294	修正上限値を超えたため時刻設定できません。
300	コマンド文字列が長すぎます。
301	サブデリミタで区切られたコマンド数が多すぎます。
302	登録されていないコマンドです。
303	サブデリミタを使用できないコマンドです。
350	指定のコマンドは現在のユーザレベルでは使用できません。
351	指定のコマンドが実行できるモードになっていません。
352	装着していないオプションに関するコマンドのため実行できません。
353	指定のコマンドが実行できる設定になっていません。
354	メモリサンプル中または演算中のため実行できません。
367	現在パスワードの変更はできません。
500	正常終了しました。
501	しばらくお待ちください…
503	メディアにデータセーブ中です。
504	メディアからファイルをロード中です。
505	フォーマット中です。
506	メディアへのセーブを中断しました。
507	続きのデータがあります。メディアを交換してください。
508	ファイルもしくはディレクトリがありません。
510	メモリサンプル中または演算中にはレンジの変更はできません。
511	メモリサンプル中または演算中には演算式の変更はできません。
512	メモリがマニュアルセーブの場合、FTP クライアントは使えません。
513	演算中のため、変更できません。
520	回線を接続中です。
521	測定データファイルを送信中です。
540	CODE1 ダウンロード終了。
541	CODE2 ダウンロード終了。
542	メディア読み出しエラーです。
543	Flash 書き込みエラーです。
550	A/D 校正を実行中です。
551	FTP テストを実行中です。
552	E メール送信テストを実行中です。
553	オートセーブが行われたため、バッチストップ時サインインはできません。
554	サインイン処理の実行中です。
555	通信セッティング機能でログインしているためログインできません。
556	ログアウト中です。FUNC キーでログインしてください。

(次ページへつづく)

エラーコード	メッセージ内容
557	変更の権限がないユーザです。
558	メディアへのデータセーブのため変更中の設定はキャンセルされました。
559	LL コマンドに続いて ';' で区切りコマンドをセットしてください。
560	タイムサーバに問い合わせ中です。
561	時刻調整を開始しました。
600	設定と測定データを初期化しました。
601	測定データを初期化しました。
610	既に同じユーザ名が登録されています。
611	セットアップモードに入ることができるユーザがいません。
612	アラームの確認が行われていません。必要ならば確認操作を行ってください。
613	メモリタイムアップで保存したデータにはサインインできません。
614	レンジ変更によって、入力値補正の設定が変更されました。
615	メディアへのデータセーブのため変更中の設定はキャンセルされました。
900	ROM が異常です。
901	RAM が異常です。
910	全入力チャネルの A/D が異常です。
911	1 チャネルの A/D メモリが異常です。
912	2 チャネルの A/D メモリが異常です。
913	3 チャネルの A/D メモリが異常です。
914	4 チャネルの A/D メモリが異常です。
921	1 チャネルの A/D 校正値が異常です。
922	2 チャネルの A/D 校正値が異常です。
923	3 チャネルの A/D 校正値が異常です。
924	4 チャネルの A/D 校正値が異常です。
930	アクイジションメモリが異常です。
940	イーサネットが使えなくなりました。

DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの操作内容一覧

操作内容	詳細情報	画面に表示する文字 (太字は表示文字、細字は説明)
エラー発生	エラーコード	DX1000/DX1000N/DX2000 ユーザーズマニュアルを参照してください。
警告発生	エラーコード	
A/D 校正モード	ー	**A/D 校正モード**
A/D 校正	ー	**A/D 校正**
電源オフ	ー	**電源オフ**
電源オン	ー	**電源オン**
ログイン	ー	**ログイン**
ログアウト	ー	**ログアウト**
ユーザ無効	ー	**ユーザ無効**
パスワード変更	ー	**パスワード変更**
不正アクセス ACK	ー	**不正アクセス ACK**
メモリスタート	バッチグループ番号	**メモリスタート** (バッチグループ番号が無効の場合)
		メモリスタート [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
メモリストップ	バッチグループ番号	**メモリストップ** (バッチグループ番号が無効の場合)
		メモリストップ [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
アラーム ACK	チャネル / レベル	**アラーム ACK[ALL]**(全 ACK の場合)
		アラーム ACK[CH チャネル番号 **/Lvl** アラームレベル **]**(全 ACK 以外の場合)
アラーム表示リセット	ー	**アラーム表示リセット**
メッセージ	ー	**メッセージ** (バッチグループ番号が無効の場合)
		メッセージ [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
マニュアルサンプル	ー	**マニュアルサンプル**
演算スタート	ー	**演算スタート**
演算ストップ	ー	**演算ストップ**

(次ページへつづく)

操作内容	詳細情報	画面に表示する文字 (太字は表示文字、細字は説明)
演算リセット	バッチグループ番号	**演算リセット** (バッチグループ番号が無効の場合)
		演算リセット [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
演算抜け ACK	ー	**演算抜け ACK**
スナップショット	ー	**スナップショット**
メールスタート	ー	**メールスタート**
メールストップ	ー	**メールストップ**
表示データセーブ	バッチグループ番号	**表示データセーブ** (バッチグループ番号が無効の場合)
		表示データセーブ [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
イベントデータセーブ	バッチグループ番号	**イベントデータセーブ** (バッチグループ番号が無効の場合)
		イベントデータセーブ [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
内部メモリデータの保存	ー	**内部メモリデータの保存**
時刻変更後、時刻調整後の時刻	ー	**時刻変更後、時刻調整後の時刻**
時刻変更	ー	**時刻変更**
時刻調整開始	調整時刻との誤差	**時刻調整開始** [調整時刻との誤差 (データファイル内の文字列をそのまま表示)]
時刻調整終了	ー	**時刻調整終了**
SNTP による時刻変更	ー	**SNTP による時刻調整**
夏時間 / 冬時間の切り替え	ー	**夏時間 / 冬時間の切り替え**
バッチ番号設定	バッチグループ番号	**バッチ番号設定** (バッチグループ番号が無効の場合)
		バッチ番号設定 [バッチグループ番号](バッチグループ番号が有効の場合)
ロット番号設定	バッチグループ番号	ロット番号設定 (バッチグループ番号が無効の場合)
		ロット番号設定 [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
バッチテキストフィールドの書込み	バッチグループ番号	**バッチテキストフィールドの書込み** (バッチグループ番号が無効の場合)
		バッチテキストフィールドの書込み [バッチグループ番号] (バッチグループ番号が有効の場合)
第 2 表示更新レート	ー	**第 2 表示更新レート**
標準表示更新レート	ー	**標準表示更新レート**
モドバスクライアント手動復帰	ー	**モドバスクライアント手動復帰**
モドバスマスタ手動復帰	ー	**モドバスマスタ手動復帰**
タイマリセット	タイマ番号	**タイマリセット [ALL]** (全タイム指定の場合)
		タイマリセット [タイマ番号] (全タイム指定以外の場合)
マッチタイムタイマリセット	タイマ番号	**マッチタイムタイマリセット** [タイマ番号]
イベントレベルスイッチ ON	スイッチ番号	**イベントレベルスイッチ ON**[スイッチ番号]
イベントレベルスイッチ OFF	スイッチ番号	**イベントレベルスイッチ OFF**[スイッチ番号]
イベントエッジスイッチ	スイッチ番号	**イベントエッジスイッチ** [スイッチ番号]
設定モードへ移動	ー	**設定モードへ移動**
基本設定モードへ移動	ー	**基本設定モードへ移動**

(次ページへつづく)

操作内容	詳細情報	画面に表示する文字 (太字は表示文字、細字は説明)
オペレーションモードへ移動	―	**オペレーションモードへ移動**
通信入力チャネルへのライト	通信入力チャネル番号 / 設定値	**通信入力チャネルへのライト [CH** チャネル番号と設定値 (データファイル内の文字列をそのまま表示)**]**
モドバスクライアント Exchange 実行	コマンド番号 / 設定値	**モドバスクライアント Exchange 実行 [CMD** チャネル番号と設定値 (データファイル内の文字列をそのまま表示)**]**
モドバスマスタ Exchange 実行	コマンド番号 / 設定値	**モドバスマスタ Exchange 実行 [CMD** チャネル番号と設定値 (データファイル内の文字列をそのまま表示)**]**
設定モードでの設定セーブ	―	**設定モードでの設定セーブ**
設定モードでの設定ロード	―	**設定モードでの設定ロード**
基本設定モードでの設定ロード	―	**基本設定モードでの設定ロード**
クリア 1	―	**クリア 1**
クリア 2	―	**クリア 2**
クリア 3	―	**クリア 3**
クリア 4	―	**クリア 4**
入力値補正作業の終了	―	**入力値補正作業の終了**
入力値補正期限のオーバー	―	**入力値補正期限のオーバー**
設定モード設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更 [** 設定ファイルシーケンス番号 **](設定モード)**
基本設定モード設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更 [** 設定ファイルシーケンス番号 **](基本設定モード)**
ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更 [** 設定ファイルシーケンス番号 **](ログイン情報)**
設定モード設定変更 + 基本設定モード設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更 [** 設定ファイルシーケンス番号 **](基本設定モード & 設定モード)**
設定モード設定変更 + ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更 [** 設定ファイルシーケンス番号 **](ログイン情報 & 設定モード)**
基本設定モード設定変更 + ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更 [** 設定ファイルシーケンス番号 **](基本設定モード & ログイン情報)**
設定モード設定変更 + 基本設定モード設定変更 + ユーザ登録関連設定変更	設定ファイルシーケンス番号	**設定変更 [** 設定ファイルシーケンス番号 **](すべて)**
アラームの設定	チャネル / レベル	**アラームの設定 [CH** チャネル番号 **/Lvl** アラームレベル **]**
入力値補正点の変更	チャネル番号	**入力値補正点の変更 [CH** チャネル番号 **/Pt** 補正点 **]**
入力値補正値の変更	チャネル番号 / 補正点	**入力値補正値の変更 [CH** チャネル番号 **/Pt** 補正点 **]**
アラームディレイ時間の設定	チャネル番号	**アラームディレイ時間の設定 [CH** チャネル番号 **]**
メッセージの設定	メッセージ番号	**メッセージの設定 [** メッセージ番号 **]**
データ保存先フォルダの設定	―	**データ保存先フォルダの設定**

- **補足情報**

  DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの表示データ / イベントデータの操作ログに補足情報がある場合に、その行の [表示] ボタンが有効になります。補足情報に表示される内容は通信コマンドと、以下の操作ログです。

  操作ログの通信コマンド文字列

操作ログ	通信コマンド文字列
アラームの設定	SA コマンド文字列
入力値補正点数設定	EHm,BEGIN (m はチャネル番号) コマンド文字列
入力値補正値設定	EHm,SET (m はチャネル番号) コマンド文字列
アラームディレイ時間の設定	BD コマンド文字列
メッセージ設定	SG コマンド文字列
データ保存先フォルダの設定	TH コマンド文字列

補足情報の内容はコピーできません。

補足情報画面表示例

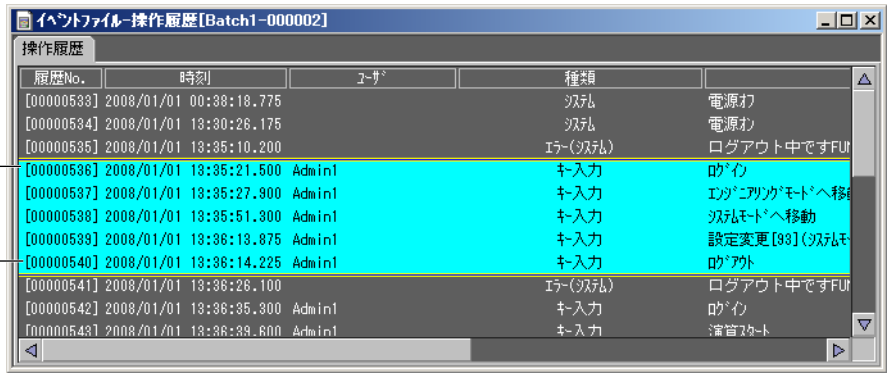
補足情報は、[操作履歴] 画面の補足情報の項目で [表示] がアクティブになっているボタンをクリックすると表示されます。

操作履歴の選択

操作履歴を 1 つだけ選択する場合は、任意のアイテムをクリックします。
すべての操作履歴を選択する場合は、メニューバーの [編集]-[すべて選択] を選択します。

操作履歴のコピー

1. 操作履歴を選択する



2. ここをクリック [編集]-[コピー]

3. 操作履歴がクリップボードにコピーされる

コピーされる内容は以下のとおりです。

- 履歴 No.
- 時刻 / 時間
- ユーザ
- 種類
- 操作内容

設定ソフトウエアの起動

[操作履歴一覧] ダイアログボックスの陰影表示されたリストをダブルクリックすると設定ソフトウエアが起動します。
以下の場合、設定ソフトウエアは起動しません。

- ダブルクリックした項目が設定変更以外の項目
- ビューア起動時に該当設定ソフトウエアが存在しない
- ダブルクリック時に該当設定ソフトウエアが存在しない
- 該当設定ファイルがみつからない。

設定ファイルの検索場所

設定ファイルの検索場所は、データファイルの置かれているフォルダの直下に限定されます。

PC ソフトウエアで追加した操作ログの表示

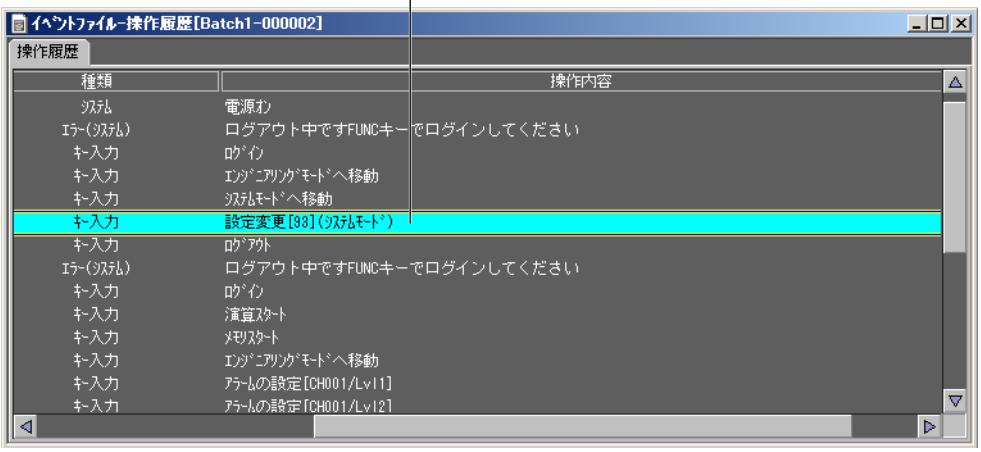
PC ソフトウエアで操作ログを追加できます。その場合、次のように表示されます。印刷も同様です。

履歴の項目	表示される項目名	
	DX100P/DX200P の場合	DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4 /AS1 オプション付きの場合
履歴番号	–	–
種類	PC ソフト	PC ソフト
操作内容	パスワード無効	ユーザ無効

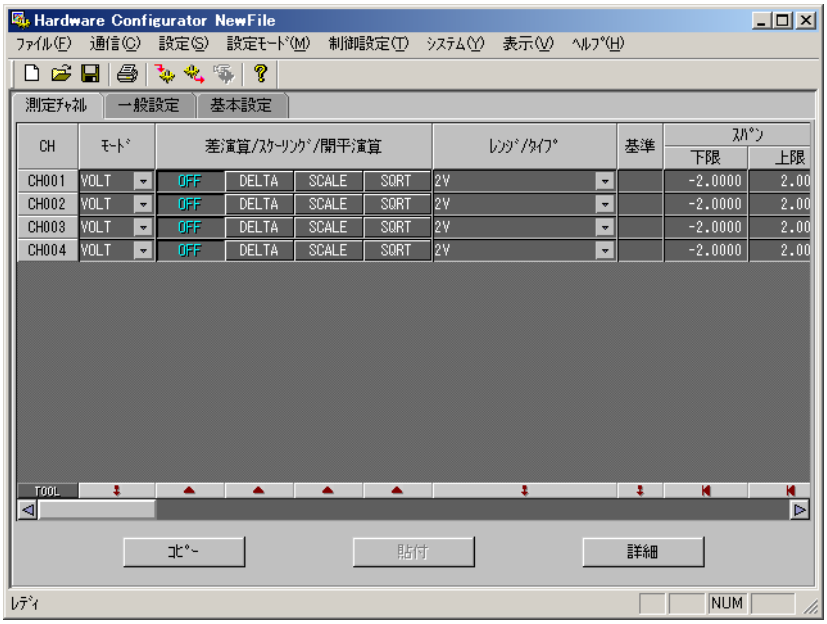
設定変更操作時の設定データの表示

操作履歴画面から設定変更操作時の設定データを表示します。

1. 操作内容が「設定変更」のアイテムをダブルクリック



2. 設定ソフトウエアが起動し、設定データを表示

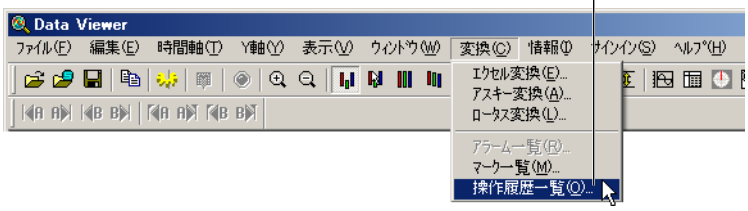


設定ソフトウエアが存在しない場合、メッセージ (E3132) を表示します。
選択した該当設定ファイルが見つからない場合、メッセージ (E3124) を表示します。

操作履歴一覧のデータ変換

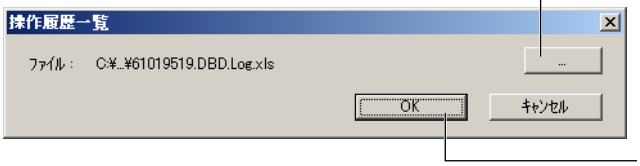
対象となる表示データファイル、またはイベントデータファイルを開いて、操作履歴を Excel、ASCII、Lotus 変換します。

1. ここを選択 [変換]-[操作履歴一覧]



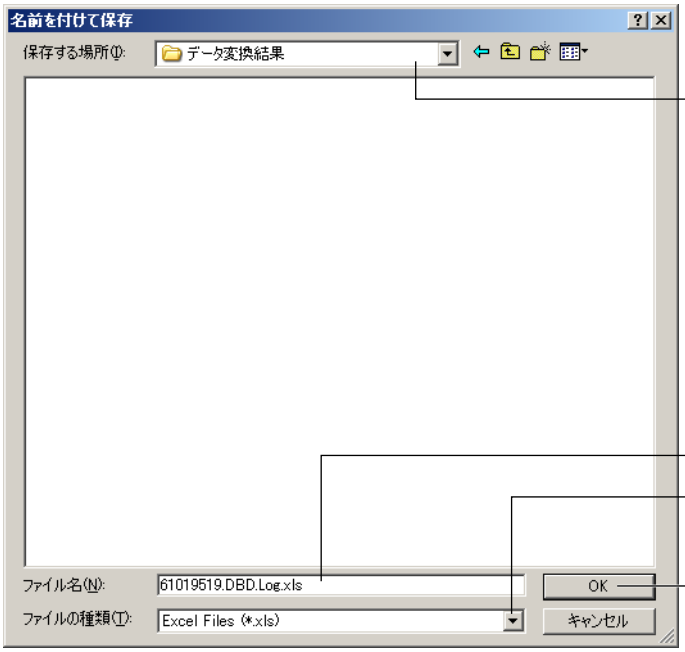
2. [操作履歴一覧] ダイアログボックスが開く

3. ここをクリック



7. ここをクリック

4. [名前を付けて保存] ダイアログボックスが開く



保存先フォルダを指定

ファイル名を指定

データ変換種類を Excel、ASCII、Lotus から選択

5. ここをクリック

6. [名前を付けて保存] ダイアログボックスを閉じる

操作履歴変換例 (Excel 変換結果)

変換後のファイルの形式については、2.15 節をご覧ください。

	A	B	C	D	E	F	G
1	Log No.	Date	Time	sec	User	Kind	Operation
2	1	2009/06/10	19:55:16	0.125	xxxxx	ｷｰ入力	ﾛｸﾞｱｳﾄ
3	2	2009/06/10	19:55:36	0.125	xxxxx	ｷｰ入力	ﾛｸﾞｲﾝ
4	3	2009/06/10	19:58:01	0.375	xxxxx	ｷｰ入力	設定変更[58](ｼｽﾃﾑﾓｰﾄﾞ)
5	4	2009/06/10	19:58:08	0.375	xxxxx	ｷｰ入力	ﾛｸﾞｱｳﾄ
6	5	2009/06/10	19:58:11	0.875		警告(ｷｰ入力)	測定ﾃﾞｰﾀを初期化しました。
7	6	2009/06/10	19:58:32	0.500	xxxxx	ｷｰ入力	ﾛｸﾞｲﾝ
8	7	2009/06/10	20:00:01	0.625	xxxxx	ｷｰ入力	設定変更[59](ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾓｰﾄﾞ)
9	8	2009/06/10	20:00:18	0.875	xxxxx	ｷｰ入力	ﾊﾞｯﾁ番号設定
10	9	2009/06/10	20:00:20	0.125	xxxxx	ｷｰ入力	ﾒﾓﾘｽﾀｰﾄ
11	10	2009/06/10	20:00:20	0.125	xxxxx	ｷｰ入力	演算ｽﾀｰﾄ
12	11	2009/06/10	20:00:32	0.000	xxxxx	ｷｰ入力	ﾒﾓﾘｽﾄｯﾌﾟ
13	12	2009/06/10	20:00:32	0.000	xxxxx	ｷｰ入力	演算ｽﾄｯﾌﾟ

2.9 バッチデータ / 連続データファイル内の設定情報を表示する

DX100P/DX200P の表示データファイルやイベントデータファイル、DX1000/DX1000N/DX2000 のリリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの表示データファイルやイベントデータファイルを表示した状態のとき、データファイルに対する設定情報を表示します。バッチデータとは、プロセスタイプが [バッチ] の場合の表示データファイルやイベントデータファイルです。連続データとは、プロセスタイプが [連続] の場合の表示データファイルやイベントデータファイルです。

1. ここを選択 [情報]-[設定情報]

2. ハードウエア設定ソフトウエアが起動する

2. DX-P ハードウエア設定ソフトウエアが起動する

設定情報の表示

バッチファイルや接続した連続ファイルの場合、設定情報は次のように表示されます。

- DX100P/DX200P の場合、表示データ / イベントデータファイルは接続中の末尾ファイルの設定を表示します。
- DX1000/DX1000N/DX2000 の場合、表示データ / イベントデータファイルは接続中の先頭ファイルの設定を表示します。

Note

DX-P ハードウエア設定ソフトウエアを起動するとき、次の場合にログイン情報を表示します。ただし、CRC 異常のときはログイン情報は表示されません。

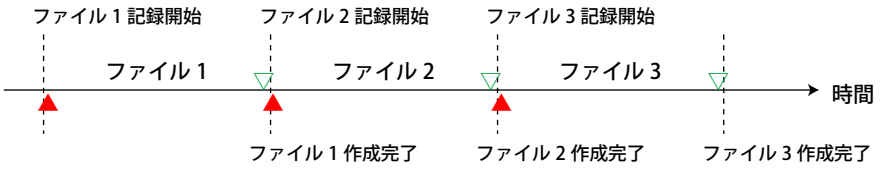
- 対象ファイルが連続ファイルの場合
- 対象ファイルがバッチファイルで、バッチ内のすべてのファイルが揃っている場合

設定データが保存されるタイミング

バッチデータ、連続データ内の設定データを保存するタイミングは次のとおりです。

- DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの場合、ファイルごとの記録開始時点の設定情報を保存します。
- DX100P/DX200P の場合、ファイル作成完了直前の設定情報を保存します。

設定情報の保存のタイミング



▽: DX100P/DX200P の設定情報はファイル作成完了直前に保存される

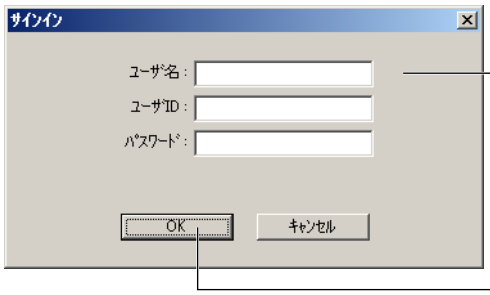
▲: DX1000/DX1000N/DX2000 の設定情報はファイル記録開始時に保存される

2.10 バッチデータ / 連続データにサインインする

バッチデータ、連続データを開いたのち、サインインします。

1. ここをクリック [サインイン]-[サインイン]

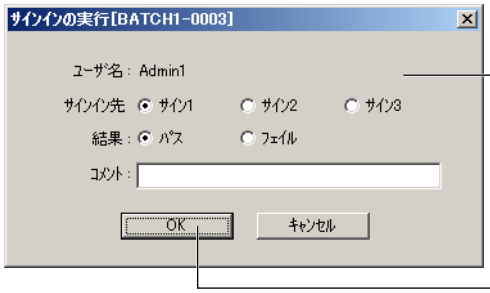
2. [サインイン] ダイアログボックスが開く



3. 各項目を入力する

4. ここをクリック

5. [サインインの実行] ダイアログボックスが開く



6. 各項目をチェック、入力する

7. ここをクリック

8. [情報] 画面が開く

9. ここをクリック

ユーザ認証時の失敗

[サインイン] ダイアログボックスでユーザ名、ユーザ ID(使用時だけ)、およびパスワードのすべてが正しく入力された場合だけ成功します。
ユーザ名とユーザ ID の組み合わせが一致し、かつ、パスワードが違った場合は、ユーザに対する失敗回数はカウントされます。ユーザ名とユーザ ID が一致しないと対象ユーザを特定できないため、ユーザに対する失敗回数はカウントされません。
DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの場合、連続して 5 回失敗すると [サインイン] ダイアログボックスが閉じます。
DX100P/DX200P の場合、連続して 3 回失敗するか、または認証が成功してサインイン可能なサインレベルがないとき、[サインイン] ダイアログボックスが閉じます。

ユーザ ID を使用する場合の失敗回数のカウントルール

- ユーザ名とユーザ ID の組み合せがファイルに存在し、パスワードが一致しない場合、認証失敗とし、ユーザ名とユーザ ID の組み合せに対する失敗回数を +1 とします。
- ユーザ名とユーザ ID の組み合せがファイルに存在し、パスワードが一致した場合、認証成功とし、ユーザ名とユーザ ID の組み合せに対する失敗回数をクリアし、0 とします。
- [サインイン] ダイアログボックスを閉じた場合、すべてのユーザ名とユーザ ID の組み合せに対し、カウント数をクリアし、0 とします。
- ユーザ名とユーザ ID の組み合わせがファイルに存在しない場合は認証失敗とし、失敗回数にカウントしません。
- ユーザ名とユーザ ID の組み合せがファイルに存在し、無効になった場合、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。
- ユーザ名とユーザ ID の組み合せがファイルに存在し、パスワードが初期設定の場合、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。

ユーザ ID を使用しない場合の失敗回数のカウントルール

- ユーザ名がファイルに存在し、パスワードが一致しない場合、認証失敗とし、ユーザ名に対する失敗回数を +1 とします。
- ユーザ名がファイルに存在し、パスワードが一致した場合、認証成功とし、ユーザ名に対する失敗回数をクリアし、0 とします。
- [サインイン] ダイアログボックスを閉じた場合、すべてのユーザ名に対し、カウント数をクリアし、0 とします。
- ユーザ名がファイルに存在しない場合、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。
- ユーザ名がファイルに存在し、無効になった場合、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。
- ユーザ名がファイルに存在し、パスワードが初期設定の場合、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。

KDC サーバを使用する場合の失敗回数のカウントルール

(KDC：Kerberos プロトコルを使用して接続するドメインの鍵配布センター)

KDC サーバを利用して認証する場合、ユーザ ID を使用しません。

- ユーザ名がファイルに存在しない場合、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。
- ユーザ名がファイルに存在し、無効になった場合、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。
- ユーザ名がファイルに存在し、KDC サーバと接続できない場合、認証失敗とし、ユーザ名に対する失敗回数をカウントしません。
- ユーザ名がファイルに存在し、KDC サーバと接続できる場合、以下のように処理されます。
  - ユーザ名が KDC サーバに存在しないとき、認証失敗とし、失敗回数をカウントしません。
  - ユーザ名が KDC サーバに存在し、かつ暗号化方式、レルム名のいずれかの設定が間違っていた場合、認証失敗とし、ユーザ名に対する失敗回数をカウントしません。
  - ユーザ名が KDC サーバに存在し、パスワードが KDC サーバ内のパスワードと違った場合、認証失敗とし、ユーザ名に対する失敗回数を +1 とします。
  - ユーザ名が KDC サーバに存在し、パスワードが KDC サーバ内のパスワードと一致した場合、認証成功とし、ユーザ名に対する失敗回数をクリアし、0 とします。
- [サインイン] ダイアログボックスを閉じた場合、すべてのユーザ名に対し、カウント数をクリアし、0 とします。

Note

ビューアの起動中にPCのタイムゾーンを変更するとKDC認証できません。また、PCとKDCサーバで 5 分以上の時刻差があると、KDC 認証できません。

ユーザの失効

ファイルの認証や KDC サーバを使用する場合の認証に関係なく、ユーザに対するパスワードリトライ回数が制限に達した場合は、該当ユーザ失効となります。パスワードリトライ回数は以下のようになります。

- DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの表示データファイルとイベントデータファイルの場合、ファイルにパスワードリトライ回数が記録されており、これを参照します。パスワードリトライ回数が「無限」と記録されているときは、ユーザ失効しません。
- DX100P/DX200P の表示データファイルやイベントデータファイルの場合、パスワードリトライ回数は 3 回までに固定されています。(3 回失敗した時点で認証されません。)

ユーザ失効する前に、メッセージ E3123 を表示します。ユーザ失効したあとは、操作ログを残します。

認証対象ファイル

バッチファイルの場合、バッチの末尾ファイルの情報を対象として認証します。
接続した連続ファイルの場合、接続中の末尾ファイルの情報を対象として認証します。

失効対象ファイル

バッチファイルの場合、認証に失敗するのは末尾ファイルだけです。
接続した連続ファイルの場合、認証に失敗するのは接続中の末尾ファイルだけです。

ユーザ名、ユーザ ID、パスワードの記憶

[サインイン] ダイアログボックスを閉じると、ユーザ名、ユーザ ID、パスワードクリアされます。記憶しません。

ユーザ名、ユーザ ID、パスワードの入力可能文字数と文字コード

半角 63 文字以下です。レコーダ機器の入力可能文字数 (下表参照) に依存しません。

レコーダ機器	ユーザ名 *	ユーザ ID	パスワード
DX100P/DX200P	半角英数 20 文字以下	半角英数 8 文字以下	半角英数 6 文字以上 8 文字以下
DX1000/DX1000N/DX2000	半角英数 20 文字以下	半角英数 8 文字以下	半角英数 6 文字以上 20 文字以下

*　ユーザ名に "/" と "@" は使用できません。

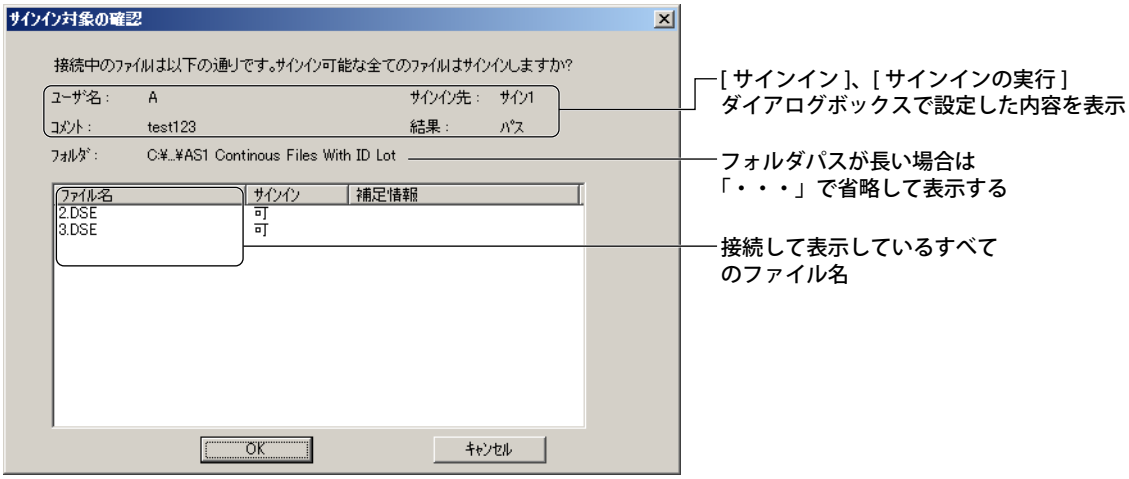
また、DX100P/DX200P や DX1000/DX1000N/DX2000 の機器の「°」に相当する文字を入力するには、「^」(文字コード 0x5E) を入力してください。

コメント入力可能範囲

半角 32 文字以下です。

サインイン対象の確認

連続ファイルを接続して表示した場合、サインインを実行する前に、接続したすべてのファイルについてサインイン可能 / 不可能を確認できるように [サインイン対象の確認] 画面を表示します。



末尾ファイルはサインイン可能です。末尾ファイル以外のファイルに対してサインインするレベルが未サインの場合、サインイン可能です。

ユーザの失効

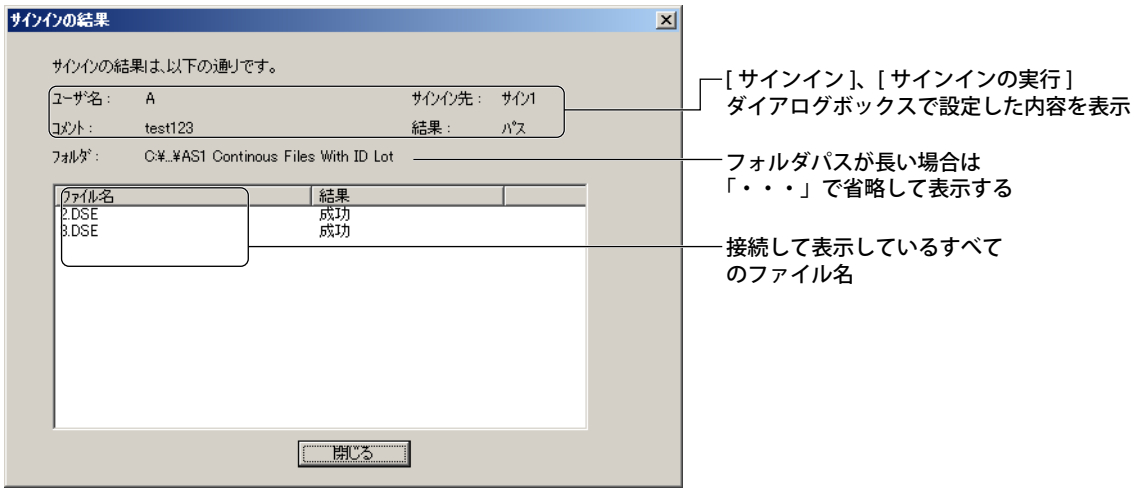
末尾ファイル以外のファイルについて、ユーザの有無、有効 / 無効、パスワード状態、サインイン権限などをチェックするとき、ユーザ失効はしません。

補足情報の内容

補足情報	説明
既にサインイン済み	サインインするレベルは既にサインされています。
登録されていないユーザ	ファイル認証の場合、以下の原因が考えられます。(前提条件として、サインインするレベルは未サイン) ・ ファイルに、該当ユーザが無い ・ ファイルに、該当ユーザがあり、失効された ・ ファイルに、該当ユーザがあり、有効、パスワードがデフォルト状態である ・ ファイルに、該当ユーザがあり、有効、パスワードがデフォルト状態でないが、入力したパスワードと一致しない KDC サーバを使用し、認証する場合、以下の原因が考えられます。(前提条件として、サインインするレベルは未サイン) ・ ファイルに、該当ユーザが無い ・ ファイルに、該当ユーザがあり、失効された
サインイン権限なし	ユーザは該当レベルをサインインする権限がありません。(前提条件として、サインインするレベルは未サイン、ユーザ認証成功)

サインイン結果の表示

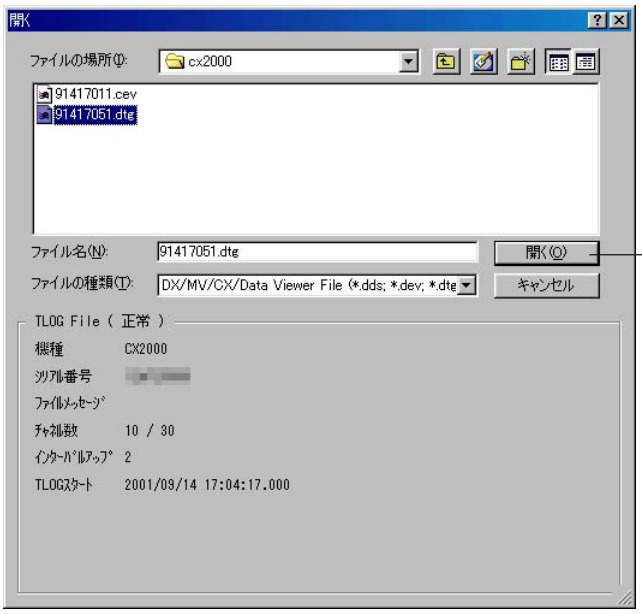
連続ファイルを接続して表示した場合、サインインを実行したあとで [サインインの結果] ダイアログボックスを表示します。



2.11 TLOG ファイルを表示する

CX1000、CX2000、DX100、DX200、DX200C、MV100、または MV200 で作成した TLOG ファイルを表示します。TLOG ファイルの拡張子は「.DTG」です。

1. ファイルを開くアイコンをクリックするか、[ファイル]>[開く]を選択。



2. 目的のファイルを選択し、[開く]ボタンをクリック。

フラグ表示の ON/OFF

[表示] - [フラグ表示] をチェックすると、次のステータスが表示されます。

：　TLOG 演算をストップ
：　TLOG 演算中に記録計の日付時刻が変更された
：　TLOG 演算中に停電あり

日付 / 時刻表示

[表示] - [日付表示]、[時刻表示] で表示形式を選択します。[なし] を選択すると、日付または時刻は表示されません。

データ番号

[表示] - [データ No. 表示] をチェックすると、データ番号が表示されます。

チャネルの識別文字の選択

詳しくは、「2.2 波形を表示する」の「チャネルの識別文字の選択」をご覧ください。

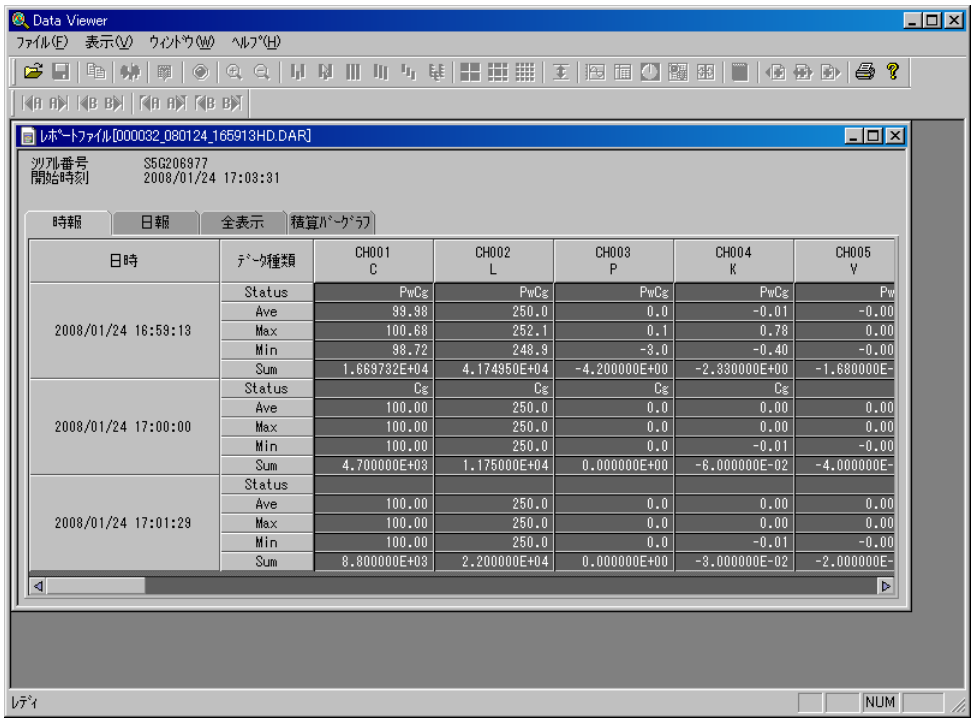
2.12 レポートファイルを表示する

DX1000/DX1000N/DX2000/MV1000/MV2000 で作成したレポートファイル

レポートファイルの拡張子は「.DAR」です。

レポートデータの数値表示

1. ファイルを開くアイコンをクリックするか、[ファイル]-[開く] を選択。
2. レポートファイルを選択。
   レポートが表示されます。下図は、時報と日報がひとつのレポートファイルに収納されている場合の例です。



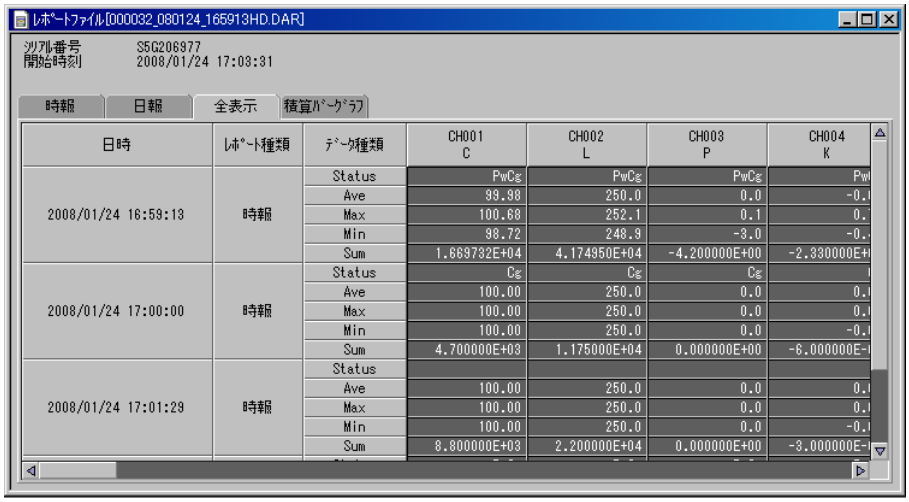
日時	ﾃﾞｰﾀ種類	CH001 C	CH002 L	CH003 P	CH004 K	CH005 V
2008/01/24 16:59:13	Status	PwCg	PwCg	PwCg	PwCg	Pw
	Ave	99.98	250.0	0.0	-0.01	-0.00
	Max	100.68	252.1	0.1	0.78	0.00
	Min	98.72	248.9	-3.0	-0.40	-0.00
	Sum	1.669732E+04	4.174950E+04	-4.200000E+00	-2.330000E+00	-1.680000E-
2008/01/24 17:00:00	Status	Cg	Cg	Cg	Cg	
	Ave	100.00	250.0	0.0	0.00	0.00
	Max	100.00	250.0	0.0	0.00	0.00
	Min	100.00	250.0	0.0	-0.01	-0.00
	Sum	4.700000E+03	1.175000E+04	0.000000E+00	-6.000000E-02	-4.000000E-
2008/01/24 17:01:29	Status					
	Ave	100.00	250.0	0.0	0.00	0.00
	Max	100.00	250.0	0.0	0.00	0.00
	Min	100.00	250.0	0.0	-0.01	-0.00
	Sum	8.800000E+03	2.200000E+04	0.000000E+00	-3.000000E-02	-2.000000E-

- **Status**
  Status には以下の文字列が表示されます。
  Er ： レポートの対象期間中に測定エラーまたは演算エラーが発生した
  Ov ： レポートの対象期間中にレンジオーバまたは演算オーバが発生した
  Pw ： レポートの対象期間中に停電が発生した
  Cg ： レポートの対象期間中に時刻が変更された
  Bo ： レポートの対象期間中にバーンアウトが発生した

- **[時報] タブ**
  ファイルの中の時報を表示します。

- **[日報] タブ**
  ファイルの中の日報を表示します。

- **[全表示] タブ**
  ファイルの中のすべてのレポートを表示します。



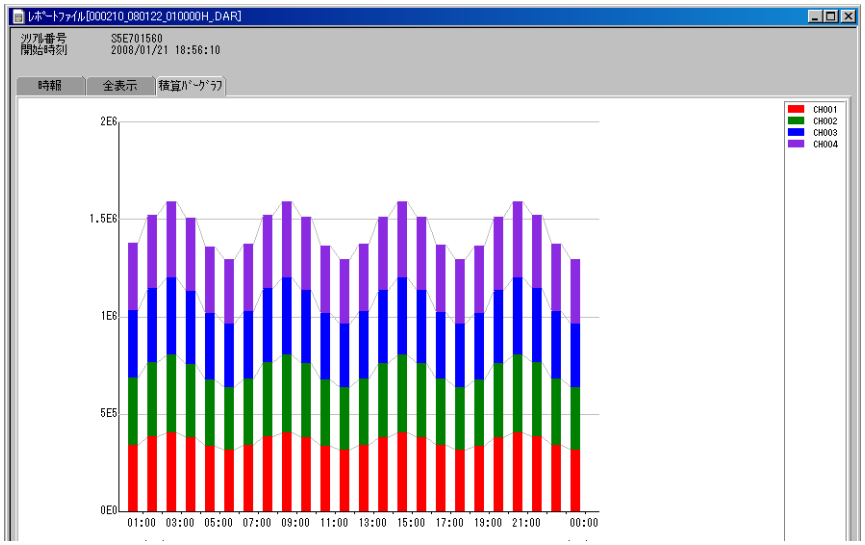
レポートデータの積算バーグラフ表示

DX1000、DX1000N、DX2000、MV1000、または MV2000 で作成したレポートデータを、積算バーグラフで表示できます (積算データがある場合だけ)。

1. ファイルを開くアイコンをクリックするか、[ファイル]-[開く] を選択。
2. レポートファイルを選択。
3. [積算バーグラフ] タブをクリックする。

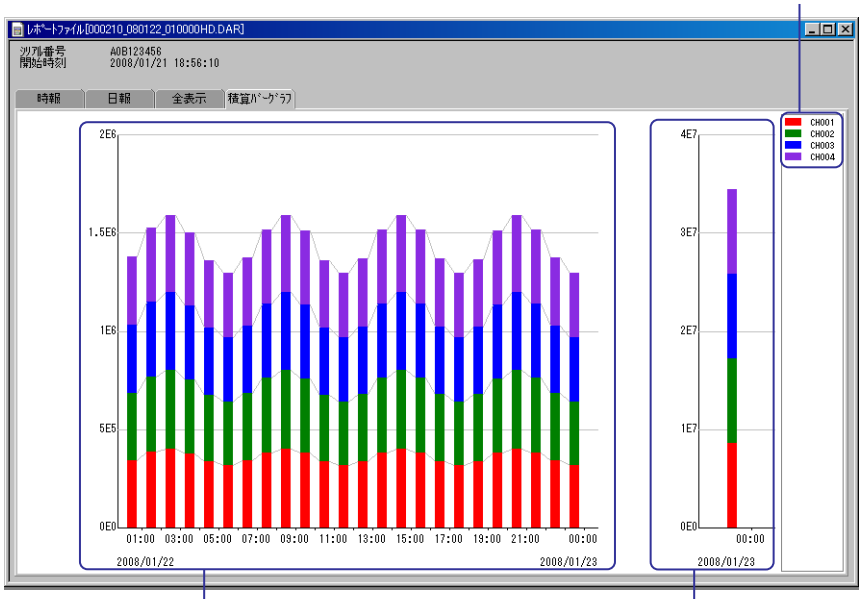
レポートデータの種類が時報の場合

下記の例では、チャネル 001 ～ 004 の時報を積み重ねてバーグラフで表示しています。



レポートデータの種類が時報＋日報の場合

チャネルの表示色



時報
日報＋週報の時は、日報を表示
日報＋月報の時は、日報を表示

日報
日報＋週報の時は、週報を表示
日報＋月報の時は、月報を表示

Note

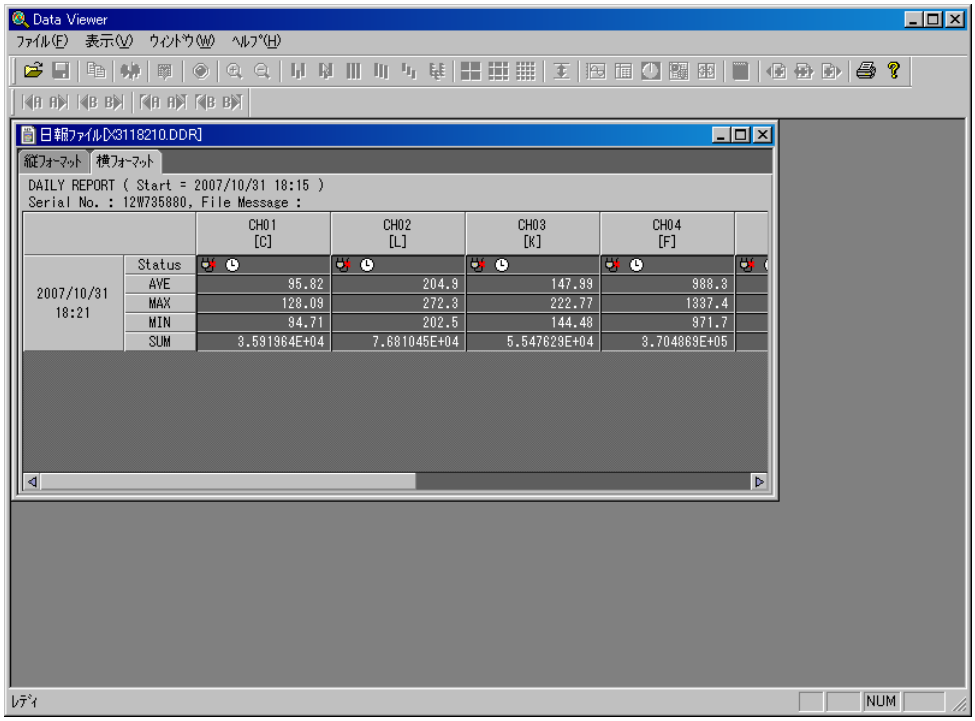
- チャネルごとの色は、本ソフトウエアで決められています。変更できません。
- レポートファイル内のすべてのチャネルを 1 画面で表示します。
- エラー、Over、または負の値のチャネルは表示しません。

CX1000/CX2000/DX100/DX00L/DX200/DX200C/DX100P/DX200P/MV100/MV200 で作成したレポートファイル

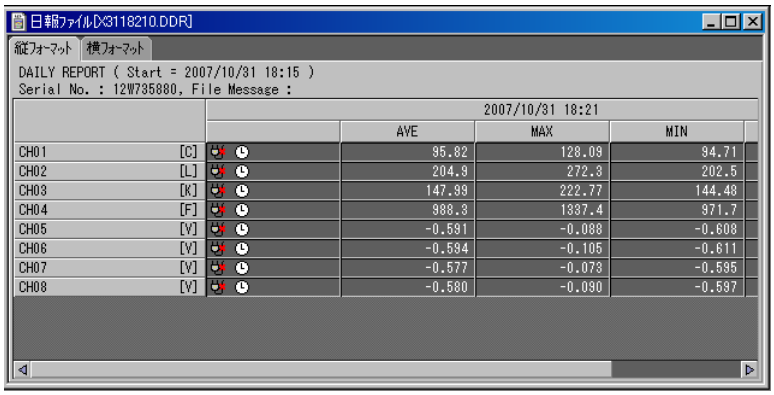
レポートファイルの拡張子は「.DHR」「.DDR」「.DWR」または「.DMR」です。

レポートデータの数値表示

1. ファイルを開くアイコンをクリックするか、[ファイル]-[開く] を選択。
2. レポートファイルを選択。
   レポートが表示されます。下図は、日報の例です。

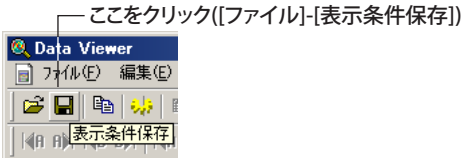


[縦フォーマット] または [横フォーマット] を選択できます。上図は横フォーマット、下図は縦フォーマットの例です。



- **Status**
  Status には以下のステータスアイコンが表示されます。
  - ：レポートの対象期間中に測定エラーまたは演算エラーが発生した
  - ：レポートの対象期間中にレンジオーバまたは演算オーバが発生した
  - ：レポートの対象期間中に停電が発生した
  - ：レポートの対象期間中に時刻が変更された
  - ：レポートの対象期間中にバーンアウトが発生した

2.13 表示条件を保存する



表示条件をファイルに保存することができます。保存できる表示条件は、次のとおりです。

表示データファイル、イベントデータファイル、接続情報ファイル表示のとき

- 印刷コメント
- カーソル A、カーソル B の位置
- 表示波形のクリップの ON/OFF
- 詳細設定で設定した内容
- マーク情報
- 時間軸の倍率
- 時間軸の表示モード (時刻 / 時間)
- 波形表示エリア
- グリッド種類
- 波形表示エリアの背景の色とグリッドの色
- Y 軸のゾーン指定
- アクティブな波形
- 各グループのデータオーバビューの高さ
- 各グループのゾーン表示エリアの幅
- ゾーン表示エリアの表示 / 非表示
- 選択していたグループ
- アラームの表示 ON/OFF
- 表示画面の位置
- チャネルの識別文字列のモード (チャネル / タグ / タグ No.)
- ファイル情報 (2.1 節参照) の各項目の ON/OFF 状態

TLOG ファイル表示のとき

- TLOG ファイル情報 (2.1 節参照) の各項目の ON/OFF 状態と印刷コメント
- 使用する文字列 (チャネル / タグ) 情報
- 日付 / 時刻の表示形式

これらの情報は、データファイルと同じディレクトリに保存されます。
保存ファイル名は、表示しているデータファイル名に拡張子 [vdx] を付加したものです。
(例：Y1116040.DDS.vdx)
この表示条件保存ファイルは何度も上書きすることができます。
表示条件を保存しておくと、同じファイル名のデータを再度開くときに、保存した表示条件で開きます。保存した表示条件を反映したくないときは、表示条件保存ファイル (拡張子 [vdx]) を削除してから、データファイルを開いてください。
ファイルを開くときの状態は表示条件を保存した場合に、次のように表示されます。

ファイル種類と表示状態

操作 / ファイル種類	1 つのデータファイルを開いたとき	別のファイルと接続したとき	[サインイン単位で開く] ダイアログボックスから一括して開いたとき
DX1000/ DX1000N/ DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付きのファイルと DX100P/DX200P のファイル	vdx ファイル内の表示条件に従い表示する	• マークは vdx ファイル内の表示条件に従って表示する • マーク以外はそのまま表示する	• マークは vdx ファイル内の表示条件に従って表示する • マーク以外は、存在するすべての vdx ファイル中の末尾ファイルの表示条件に従って表示する (vdx ファイルが存在しない場合はそのまま表示する)
上記以外のファイル	vdx ファイル内の表示条件に従い表示する	そのまま表示する	

該当データの範囲内に、カーソル (カーソル A/ カーソル B) が 1 つしかない場合、カーソル A、B の位置は該当データ範囲内のカーソル位置で保存されます。

ファイルの接続と表示条件の保存

データファイルを接続したときの表示条件の保存方法は次の表のとおりです。

ファイル接続と表示条件保存時のファイル保存

操作 / 状態	接続の可 / 不可と接続後のファイル名	表示条件保存	名前を付けて表示条件保存	画面を閉じる際の表示条件保存
1 つのデータファイルを開いた状態	ファイル接続可能、ファイル名は変わらない *1	vdx ファイルに保存される	不可	vdx ファイルに保存される
1 つのデータファイルを開いて、別のファイルと接続した状態	ファイル接続可能、ファイル名は変わらない *1	それぞれのファイルについて vdx ファイルが保存される *2	ldx ファイルとして保存される	それぞれのファイルについて vdx ファイルに保存される *2
ldx ファイルを開いた状態	ファイル接続可能、ファイル名は「ldx」をつけて保存される	ldx ファイルに保存される	ldx ファイルに保存される	ldx ファイルに保存される
[サインイン単位でファイルを開く] 画面から一括してデータファイルを開いた場合	バッチファイルの場合、中間に抜けがあると前方ファイルと接続不可、後方ファイルとは接続可能 ファイル名は変わらない	vdx ファイルが保存される *2	ldx ファイルに保存される	それぞれの vdx ファイルに保存される *2

*1 名前を付けて保存する際、ファイル名は以下のようになります。

- バッチ番号、ロット番号が付けられているとき「バッチ番号 - ロット番号 .ldx」
- バッチ番号がブランクでロット番号が付けられているとき「- ロット番号 .ldx」
- バッチ番号が付けられており、ロット番号がないとき「バッチ番号 .ldx」
- バッチ番号とロット番号がブランクの場合、先頭ファイル名と末尾ファイル名がそれぞれ「A.DBE」「Z.DBE」のとき、「A.DBE-Z.DBE.ldx」となる

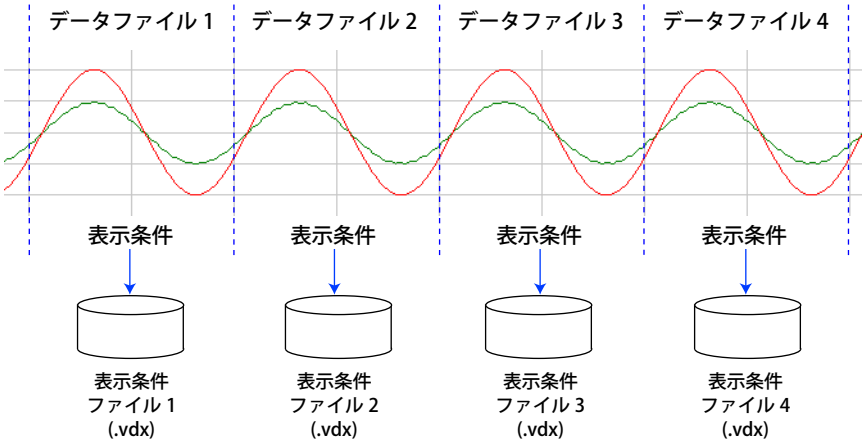
*2 自動的に大量の vdx ファイルの生成を防止するため、マーク情報を変更したデータファイルと接続基準ファイルに対し、現在の表示条件を該当 vdx ファイルに反映します。

接続基準ファイルとは以下のように定義したファイルです。

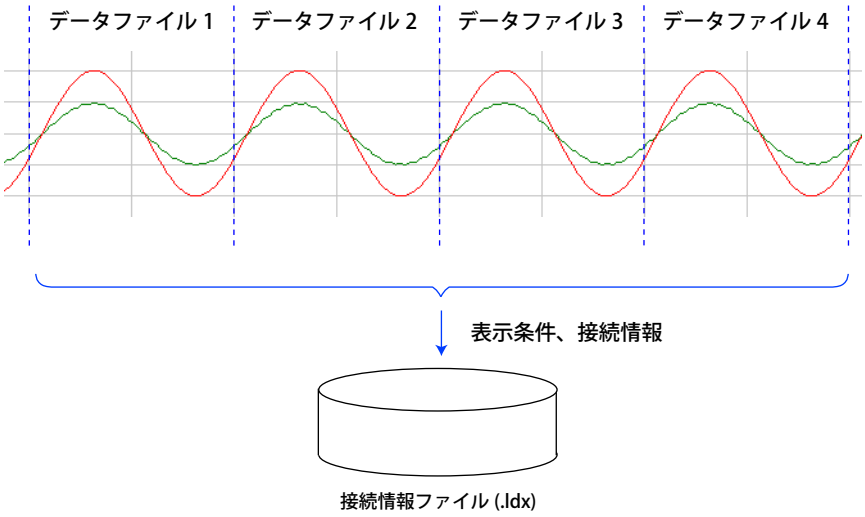
- 最初に 1 つのファイルを開いて、別のファイルと接続した場合、最初に開いたファイルを接続基準ファイルとします。
- [サインイン単位でファイルを開く] ダイアログボックスで複数のファイルを一括して開いた場合、接続中の末尾ファイルを接続基準ファイルとします。(ファイルを開いたのち、別のファイルとリンクしても、接続基準ファイルは変わりません。)

表示条件や接続情報を保存するときのイメージは次のとおりです。

表示条件を .vdx ファイルに保存するときのイメージ



表示条件と接続情報を .ldx ファイルに保存するときのイメージ



2.14　表示テンプレートの保存

テンプレートの保存

1. [ファイル] メニューの [テンプレート保存] を選択します。
現在表示している設定情報をテンプレートファイルとして、表示しているデータと同じフォルダに保存されます。

テンプレートの使用

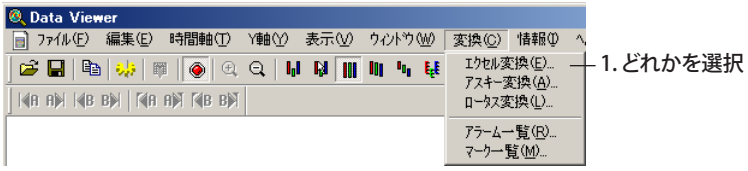
1. [ファイル] メニューの [テンプレート使用] を選択します。
現在表示しているデータファイルの表示条件ファイルがない場合には、同じフォルダにあるテンプレートファイルの設定情報で表示されます。
現在表示しているデータファイルの表示条件ファイルがある場合は、表示条件ファイルの設定情報で表示されます。
テンプレートを使用しない場合は、再度、[ファイル] メニューの [テンプレート使用] を選択してチェックを外します。

テンプレートファイルは、現在表示しているデータがあるフォルダ内に、[default.tdx] というファイル名で保存されます。
テンプレートファイルを使用するときは、表示しているデータと同じフォルダ内にあるテンプレートファイルが使用されます。
テンプレートファイルに保存される設定情報は、以下のとおりです。

- 印刷コメント
- Y 軸のゾーン指定
- 表示波形のクリップの ON/OFF
- 詳細設定で設定した内容
- 各グループのゾーン表示エリアの幅
- 時間軸の倍率
- 時間軸の表示モード (時刻 / 時間)
- 波形表示エリア
- グリッド種類
- チャネルの識別文字列のモード (チャネル / タグ / タグ No.)
- ファイル情報 (2.1 節参照) の各項目の ON/OFF 状態
- 波形表示エリアの背景の色とグリッドの色
- 表示画面の位置
- アクティブな波形
- 各グループのデータオーバビューの高さ
- グリッド密度の指定
- ゾーン表示エリアの表示 / 非表示
- 選択していたグループ
- アラームの表示 ON/OFF
- 表示画面の位置

2.15 データを変換する

測定データをアスキー、ロータス、エクセルの 3 つのデータ形式に変換することができます。操作履歴のデータ変換については、2.8 節をご覧ください。



2. [変換]ダイアログボックスが開く

波形表示またはデジタル値表示をしているとき

TLOG ファイルを表示しているとき

開始点 / 終了点

カーソル A、カーソル B で指定した範囲がそれぞれ開始点、終了点に設定されます。カーソル A、カーソル B を設定していない場合、またはカーソルを消去した場合は、開始点のデータ番号には [0] が、終了点のデータ番号には [全データ数から 1 を引いた数値] が自動的に設定されます。

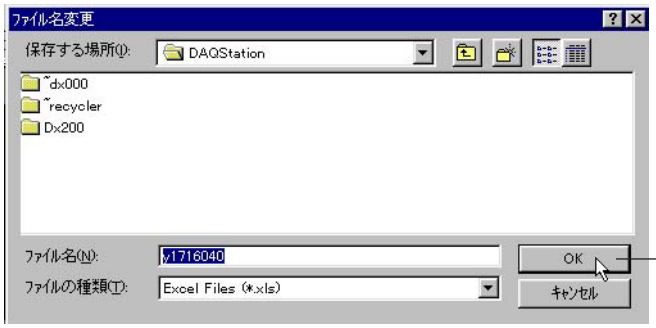
ステップ

指定範囲内のすべてのデータを変換する場合は、ステップ数を 1 にしてください。

グループ指定 / チャネル指定

グループ指定を選択したときは、変換するグループの範囲を入力します。
チャネル指定を選択したときは、変換するチャネルの範囲を設定します。

保存先の変更



保存する場所の選択と
ファイル名の入力をして、
[OK]ボタンをクリック

データ変換したファイルの保存先のフォルダまたはファイル名を変更する場合は [ファイル] ボタンをクリックします。[ファイル名変更] ダイアログボックスが開きます。

Note

- グループ指定の初期設定は、現在表示しているグループ番号が設定されます。チャネル指定の初期設定は、全チャネルが設定されてます。
- 保存先ファイル名は、表示しているファイル名にデータ形式を識別する拡張子が自動的に付いたものになります。アスキー変換では「txt」、ロータス変換では「wj2」(バージョン 2.0 以降で読み込み可能)、エクセル変換では「xls」(Excel 97 以降で読み込み可能) の拡張子が付きます。
- Lotus1-2-3 および Excel では、扱えるデータ数に制限があります。本ソフトウエアでは、変換するデータ数を設定して変換してください。また、変換するデータ数が制限以下でも、パーソナルコンピュータの空きメモリの容量が少ない場合には、データを読み込めない場合があります。制限を超えた場合、自動分割して変換出力します。ファイル名には連番が付きます。
- バッチ情報有りのファイルと、バッチ情報無しのファイルの変換出力フォーマットは異なります。
- 保存に時間がかかるため、フロッピーディスクなどの外部メディアを保存先ファイルの書き込み先に指定しないでください。
- ルートディレクトリを保存するファイルの書き込み先に指定しないでください。
- 書き込み先のディスク容量を十分確保してください。

変換例

アスキー変換ファイル

```
"DAQSTANDARD","R8.11"
"Data Viewer","R8.11"
"","",""
"Device Type","DX2000"
"Serial No.","S5F203513"
"File Message","",""
"Time Correction","None"
"Starting Condition","Manual"
"Dividing Condition","Black Out"
"Meas Ch.",       48
"Math Ch.",        1
"Ext Ch.",        1
"Data Count",       18
"Sampling Interval",    2.000,"sec"
"Start Time","2008/12/03","08:10:42",    0.000
"Stop Time","2008/12/03","08:11:16",    0.000
"Trigger Time","2008/12/03","08:11:16",    0.000
"Trigger No.",       17
"Damage Check","Not Damaged"
"Started by","[ Key In ]"
"Stopped by","[ Running ]"
"Num. Of Converted Data",       18
"Num. Of Converted Ch.",       10
"Converted Group",        1,"-",        1
"Ch.","CH001","CH002","CH003","CH004","CH005","CH006","CH007","CH008","CH009","CH010"
"Tag","11-AAAAA11111BBBBB11111CCCCC0001","22-AAAAA22222BBBBB22222CCCCC0002","33-
AAAAA33333BBBBB33333CCCCC0003","44-AAAAA44444BBBBB44444CCCCC0004","55-
AAAAA55555BBBBB55555CCCCC0005","66-AAAAA66666BBBBB66666CCCCC0006","ABC-
7777777777","ABC-8888888888","ABC-9999999999","ABC-1010101010"
"Tag No.","TAGNO-TAGNO-0001","TAGNO-TAGNO-0002","TAGNO-TAGNO-0003","TAGNO-TAGNO-
0004","TAGNO-TAGNO-0005","TAGNO-TAGNO-0006","TAGNO-TAGNO-0007","TAGNO-TAGNO-
0008","TAGNO-TAGNO-0009","TAGNO-TAGNO-0010"
"Unit","V","V","V","V","V","V","V","V","V","V","V"
"Date","Time","sec","MIN","MAX","MIN","MAX","MIN","MAX","MIN","MAX","MIN","MAX"
,"MAX","MIN","MAX","MIN","MAX","MIN","MAX","MIN","MAX"
"2008/12/03","08:10:42",    0.000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,
 0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,
0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000
"2008/12/03","08:10:44",    0.000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,  -0.0001,
 0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,   0.0000,
```

エクセル変換ファイル

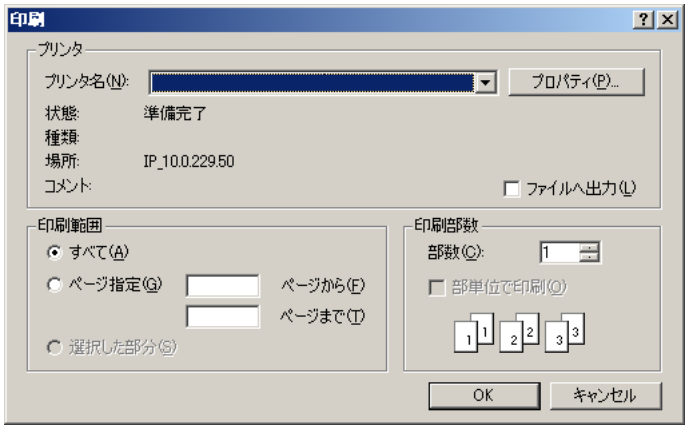
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	DAQSTANDARD		R8.11						
2	Data Viewer		R8.11						
3									
4									
5	Device Type		DX2000						
6	Serial No.		S5F203513						
7	File Message								
8	Time Correction		None						
9	Starting Condition		Manual						
10	Dividing Condition		Black Out						
11	Meas Ch.		48						
12	Math Ch.		1						
13	Ext Ch.		1						
14	Data Count		18						
15	Sampling Interval		2.000	sec					
16	Start Time		2008/12/0	08:10:42	0.000				
17	Stop Time		2008/12/0	08:11:16	0.000				
18	Trigger Time		2008/12/0	08:11:16	0.000				
19	Trigger No.		17						
20	Damage Check		Not Damaged						
21	Started by		[Key In]						
22	Stopped by		[Running]						
23									
24	Num. Of Converted Da		18						
25	Num. Of Converted Ch		10						
26	Converted Group		1	-	1				
27									
28			Ch.	CH001		CH002		CH003		CH(
29			Tag	11-AAAAA11111BBB		22-AAAAA22222BBB		33-AAAAA33333BBB		44-
30			Tag No.	TAGNO-TAGNO-0001		TAGNO-TAGNO-0002		TAGNO-TAGNO-0003		TAC
31			Unit	V		V		V		V
32	Date	Time	sec	MIN	MAX	MIN	MAX	MIN	MAX	MIN
33	2008/12/0	08:10:42	0.000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
34	2008/12/0	08:10:44	0.000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	-0.0001	0.0000	
35	2008/12/0	08:10:46	0.000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	-0.0001	0.0000	
36	2008/12/0	08:10:48	0.000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	

2.16　印刷する

表示データファイル、イベントデータファイル、マニュアルサンプルデータファイル、TLOG ファイル、レポートファイルを印刷できます。

プリンタの設定

1. [ファイル]-[プリンタの設定] を選択します。



2. プリンタ / 用紙 / 印刷の向きを設定します。

Note

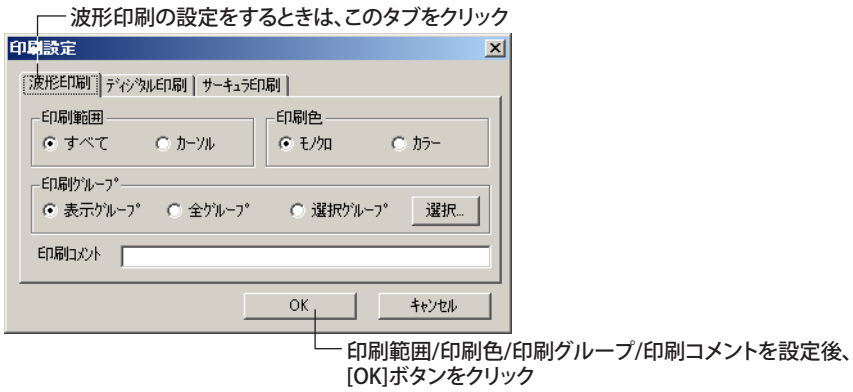
プリンタの設定はご使用のシステム環境に従って設定してください。

印刷内容の設定 (表示データファイル、イベントデータファイルのとき)

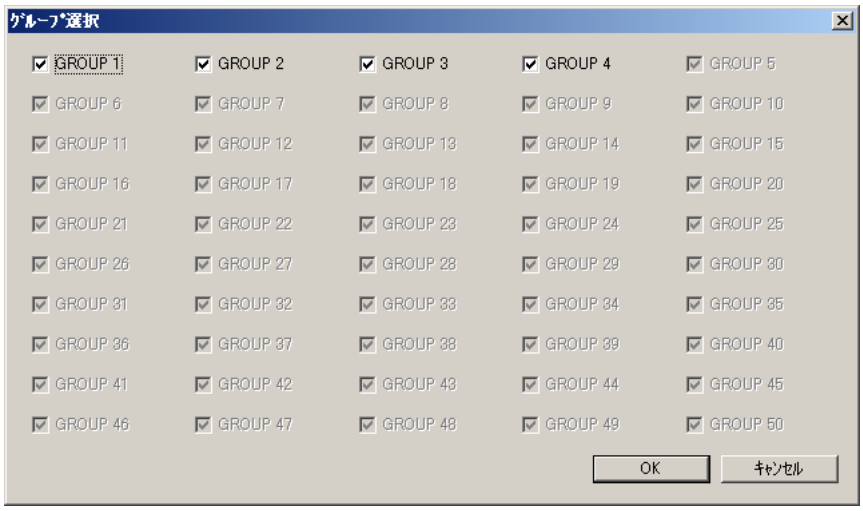
印刷を実行する前に印刷内容を設定します。マニュアルサンプルデータファイル、TLOG ファイル、レポートファイルを印刷するときは、この設定はありません。

[ファイル]-[印刷設定] を選択します。[印刷設定] ダイアログボックスが開きます。波形を表示しているときは、[印刷設定] の波形印刷タブの設定に従って印刷され、ディジタル値を表示しているときは、ディジタル印刷タブの設定に従って印刷されます。

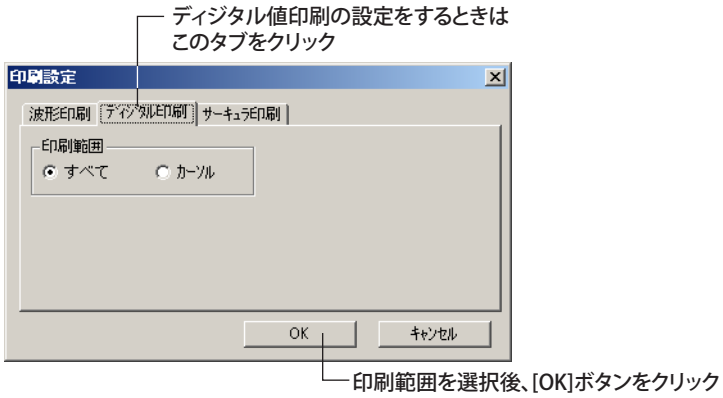
波形印刷の設定



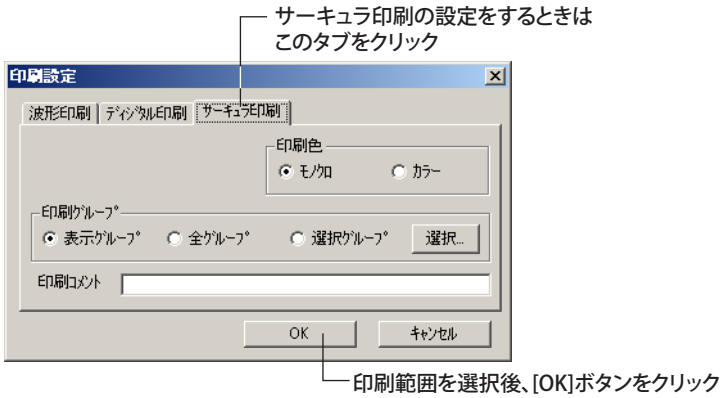
[選択グループ] を選んだ場合は、[選択] ボタンをクリックします。[グループ選択] ダイアログボックスが開くので、印刷するグループを選択します。[OK] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。



ディジタル値印刷の設定



サーキュラ印刷の設定



Note

- [印刷コメント] は [ファイル情報](「ファイルの情報の確認」2-8 ページ参照) でも入力または変更できます。印刷コメントを入力または変更すると [ファイル情報] の印刷コメントに反映されます。
- [印刷コメント] は 127 文字まで入力できます。ただし、印刷文字数には制限があります。
- [印刷設定] ダイアログボックスの印刷範囲の [カーソル] ボタンは、カーソルが表示されていないときは [すべて] を選択したのと同じになります。

ヘッダ

波形表示を印刷するときと、TLOG ファイルを印刷するときは、ヘッダを付けて印刷できます。
ファイル情報 ([情報]-[読込みファイル情報]) に表示される項目のうち、チェックの付いた項目を、ヘッダ部分に印刷します。ファイル情報については、2.1 節をご覧ください。

印刷プレビュー

印刷する前に印刷のレイアウトを見ることができます。
[ファイル]-[印刷プレビュー] を選択すると、印刷プレビュー画面が表示されます。

Note

- プレビュー画面には、指定した範囲の印刷イメージが表示されます。
- 波形表示で印刷プレビュー画面を表示する場合は、[ファイル情報] も表示されます。また、カラーオーバビュー、アラーム、[カーソル値] ウインドウ、[演算結果] ウインドウを表示させていると、これらは波形表示ウインドウのプレビューとともに印刷プレビュー画面に同時に表示されます。
- 印刷プレビューの操作は、ご使用のシステムの取扱説明書をご覧ください。

操作履歴一覧の印刷

時刻と時間

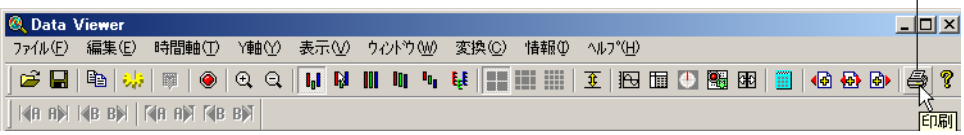
[操作履歴一覧] 画面の表示に合わせて時刻、または時間を印刷します。

印刷時の印刷項目の幅

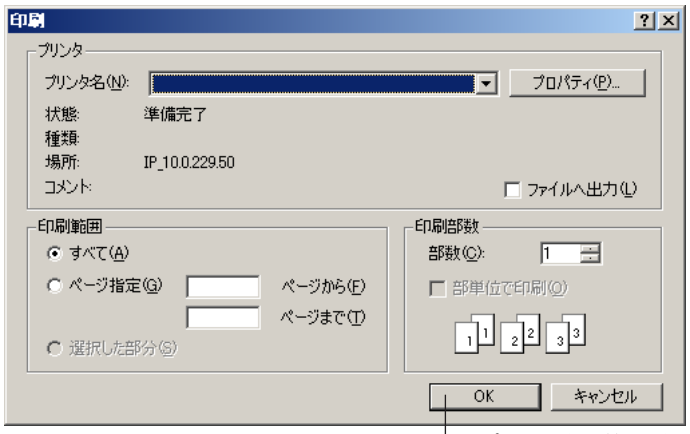
印刷項目	幅
履歴 No.(Log No.)	半角 11 文字
時刻 (Absolute Time)	半角 24 文字
時間 (Relative Time)	半角 17 文字
ユーザ (User)	半角 22 文字
種類 (Kind)	半角 32 文字
操作内容 / 補正情報 (Operation/Additional Info.)	半角 74 文字

印刷

1. ここをクリック([ファイル]-[印刷])



2. [印刷]ダイアログボックスが開く



プリンタ/印刷範囲、印刷部数を設定後、[OK]ボタンをクリック

3.1　トラブルシューティング

メッセージ

コード	メッセージ	説明
M3130	サインイン処理を実行しますか？	サインイン処理を実行するか確認します。
M3131	処理を中止していいですか？	処理を中止する場合は [はい] を選択します。

エラーメッセージ

コード	メッセージ	説明または原因	対処方法
E0002	メモリが足りません。 直ちに終了してください。	–	他のプログラムを終了して再起動するか、OS をリブートして再起動してください。
E0211	ファイルに書き込めません。	ディレクトリ容量が足りないか、または他のプログラムで使用されている可能性があります。	ディレクトリ容量や他のプログラムが使用していないか確認してください。
E0212	ファイルが読み込めません。	ファイルが存在しないか、またはファイルシステムに異常があります。	ファイルがあるかどうか、ファイルシステムが正常かどうか確認してください。
E0213	ファイルがオープンできません。	ファイルが存在しないか、またはファイルシステムに異常があります。	ファイルがあるかどうか、ファイルシステムが正常かどうか確認してください。
E0250	Adobe Reader の起動に失敗しました。	取扱説明書を閲覧するには、Adobe Acrobat Reader（最新版を推奨）が必要です。	Adobe Reader をインストールするか確認してください。
E3115	データが多すぎます。	接続後のファイルのデータ数が 5242880 を超えてしまうので、ファイルを接続できません。	接続するファイルを減らしてください。
E3118	CRC が異常です。	ファイルが壊れている可能性があります。	ディスク状態を調査しファイルを復旧してください。解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
E3119	既にサインイン済みです。	サインインするレベルはすでにサインイン済みです。	解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
E3120	登録されていないユーザです。	ユーザ名、ユーザ ID、または、パスワードのいずれかの入力が誤っています。	もう一度確認のうえ、入力してください。解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
E3121	サインインする権限がありません。	入力したユーザにはサインインする権限がありません。	解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
E3122	%d 回失敗したので、処理を終了します。	処理を終了します。 「%d」は失敗数です。	もう一度確認のうえ、入力してください。解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
E3123	%d 回失敗したので、ユーザを無効にします。	このユーザの権限を無効にします。 「%d」は失敗数です。	解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
E3124	%s ファイルが見つかりません。	該当する「設定シリアル番号」の設定データが見つかりません。「%s」部分は DX100P/DX200P 設定データファイルの場合に「PPL」、DX1000/DX1000N/DX2000 の設定データファイルの場合に「PSL」、DX1000/DX1000N/DX2000 リリースナンバー 4、/AS1 オプション付きの設定データファイルの場合に「PEL」が表示されます。	該当する「設定シリアル番号」の設定データをデータファイルのあるフォルダに置いてください。
E3125	KDC サーバの問題で認証できません。	KDC サーバと接続できない、または、KDC サーバの設定が変わって、認証できません。 ビューアの起動中に PC のタイムゾーンを変更した場合も KDC 認証できません。 KDC サーバと DX で 5 分以上の時刻差があると、認証できません。	管理者に問い合わせてください。
E3132	ハードウェア設定の起動に失敗しました。	設定ソフトウエアが存在しないので、起動しません。	設定ソフトウエアをインストールしてください。

警告メッセージ

コード	メッセージ	説明	対処方法
W3126	バッチを構成するファイルのサイン情報が一致していないのでサインインできません。	バッチを構成するファイルのサイン情報が一致していません。	ファイルにサイン情報の一致性を確認してください。解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
W3127	バッチを構成するファイルに重複があるので表示できません。	バッチを構成するファイルに重複があります。	ファイルを整理して重複を解消してください。
W3128	ファイルが存在しません。	ファイルが削除、または、移動されています。	ファイル一覧を更新して存在を確認してください。 ディスクの状態を確認してください。 解決しない場合は管理者に問い合わせてください。
W3129	一部のデータファイルが既に表示されている為、接続表示を行なう事ができません。	接続予定のデータファイルが既に開かれているため、表示することができません。	表示されているデータを閉じてから再度操作してください。

索引

数字

500 万点を超えるデータの表示 2-7

D

DAQSTANDARD の概要 1-1
DX-P ハードウエア設定 1-1

L

LACK 2-22

O

OVER 2-22

T

TLOG ファイル 2-54, 2-55

Y

Y 軸の ON/OFF 2-14
Y 軸の種類 2-14
Y 軸の設定 2-17, 2-28

ア

アイコンの整列 2-26
アラーム一覧 2-35
アラーム表示 (データビューア) 2-28, 2-30
アラーム表示 (トレンドモニタ) 2-20
アラーム表示の ON/OFF 2-20
アラーム変化点 2-24

イ

異常データ 2-22
イベントデータファイル 2-1, 2-61
印刷 2-68
印刷内容の設定 2-68
印刷プレビュー 2-70

ウ

ウインドウの設定 2-26

エ

エラーメッセージ 3-1

カ

カーソル消去 2-21
カーソル値 (データビューア) 2-22
カーソルの表示 2-30
カーソルの表示 (データビューア) 2-21
開始点 2-65
改版の履歴 iv
拡大 2-16
拡張子 2-1
重ねて表示 2-26
カラーオーバビュー表示 2-12

キ

期間の設定 2-4
起動 2-1

ク

区間演算値 2-23
クリップ 2-20
クリップボード 2-21
グループ指定 2-65
グループ選択 2-69

ケ

警告メッセージ 3-2
検索結果の表示と選択 2-6
検索するフォルダの設定 2-3

コ

ご注意 i
コピー 2-15, 2-21

サ

サーキュラ 2-27
サーキュラ印刷 2-69
サインイン結果の表示 2-54
サインイン対象の確認 2-53
サインイン単位でファイルを開く 2-3
サイン情報 2-10

シ

時間軸の設定 2-16, 2-28, 2-29
時間表示 2-16, 2-29
時刻表示 2-16, 2-29, 2-56
失効対象ファイル 2-53
指定ゾーン 2-17
自動ゾーン 2-17
終了点 2-65
縮小 2-16
詳細設定 (データビューア) 2-13
商標 i

ス

スケール 2-14
スタイルナンバー iii
ステップ 2-65
すべてを選択 2-30
スライドゾーン 2-17

セ

制御動作 2-34
製品 (このマニュアルが対象としている) iii
積算バーグラフ表示 2-59
接続情報ファイル 2-30, 2-31, 2-61
設定情報の表示 2-50
設定ソフトウエアの起動 2-46
設定内容の記憶 2-6
設定変更操作時の設定データの表示 2-47
設定を変更して再検索 2-6
選択グループ 2-69

ソ

操作履歴一覧のデータ変換 2-48
操作履歴の一覧表示 2-37
操作履歴のエラーコード一覧 2-40

操作履歴の項目 2-38
時刻 / 時間 2-38
種類 2-38
操作内容 2-38
補足情報 2-45
ユーザ 2-38
履歴 No. 2-38
操作履歴のコピー 2-46
操作ログの表示 2-47
ゾーン 2-14, 2-17
ゾーンの編集 2-19
その他 2-10
ソフトウエア使用許諾契約書 ii

タ

タグ 2-21
タグ 2-21
タグ No. 2-21

チ

チャネル 2-21
チャネル指定 2-65
チャネルの識別文字の選択 2-21
チャネルの登録 2-14
チャネル番号 2-21
著作権 i

テ

ディジタル値印刷 2-69
ディジタル値表示 2-29, 2-31
データ No. 表示 2-56
データアイテムの開始要因 2-7
データアイテムの終了要因 2-7
データアイテムの選択とサインイン 2-7
データアイテムの分割基準 2-7
データアイテムを開く 2-7
データ番号 2-56
データビューアで表示できるファイル 2-1
データビューアの起動 2-1
データビューアの終了 2-11
データファイルの接続時のデータ数計算 2-33
データ変換 2-35, 2-65
テンプレートの使用 2-64
テンプレートの保存 2-64

ト

トリップライン 2-14

ナ

並べて表示 2-26

ニ

任意マークの追加 2-23
認証対象ファイル 2-53

ハ

バージョン iii
ハードウエア設定 1-1
ハードウエア (動作環境) 1-2
波形印刷 2-68
波形表示制限 2-20, 2-28
波形表示 (データビューア) 2-12, 2-27
波形表示の ON/OFF 2-14
パスワードリトライ回数 2-53
バッチ情報 2-10
バッチテキスト 2-10
貼り付け 2-15

ヒ

日付表示 2-56
ビューア 1-1
表示位置 2-14
表示条件の保存 2-61
表示条件の保存方法 2-62
表示する項目の設定 2-4
表示データファイル 2-1, 2-61
表示テンプレートの保存 2-64
表示範囲 2-14
開く 2-2

フ

ファイル基本情報 2-9
ファイルの情報の確認 2-8
ファイル接続情報 2-33
ファイルの接続と表示条件の保存 2-33, 2-62
ファイルの重複 2-6
ファイル名 2-2
ファイルを作成する際の処理 2-2
フィルタの設定 2-6
複数軸ゾーン 2-17
フラグ表示 2-56
プリンタの設定 2-68
フルゾーン 2-17

ヘ

ヘッダ 2-70
編集ゾーン 2-17

ホ

保存 2-61
保存先の変更 2-66

マ

マーク位置 2-24
マーク一覧 2-34
マークの削除 2-25
マーク表示の初期化 2-25
マニュアルサンプルデータファイル 2-35, 2-36
マニュアルの構成 iii

メ

メッセージ 3-1

モ

文字コード 2-53

ユ

ユーザ認証時の失敗 2-51
ユーザの失効 2-53, 2-54

リ

リリースナンバー iii
履歴 i

レ

レポートファイル 2-1
レポートファイルの表示 2-57
連続ファイルの接続表示 2-6